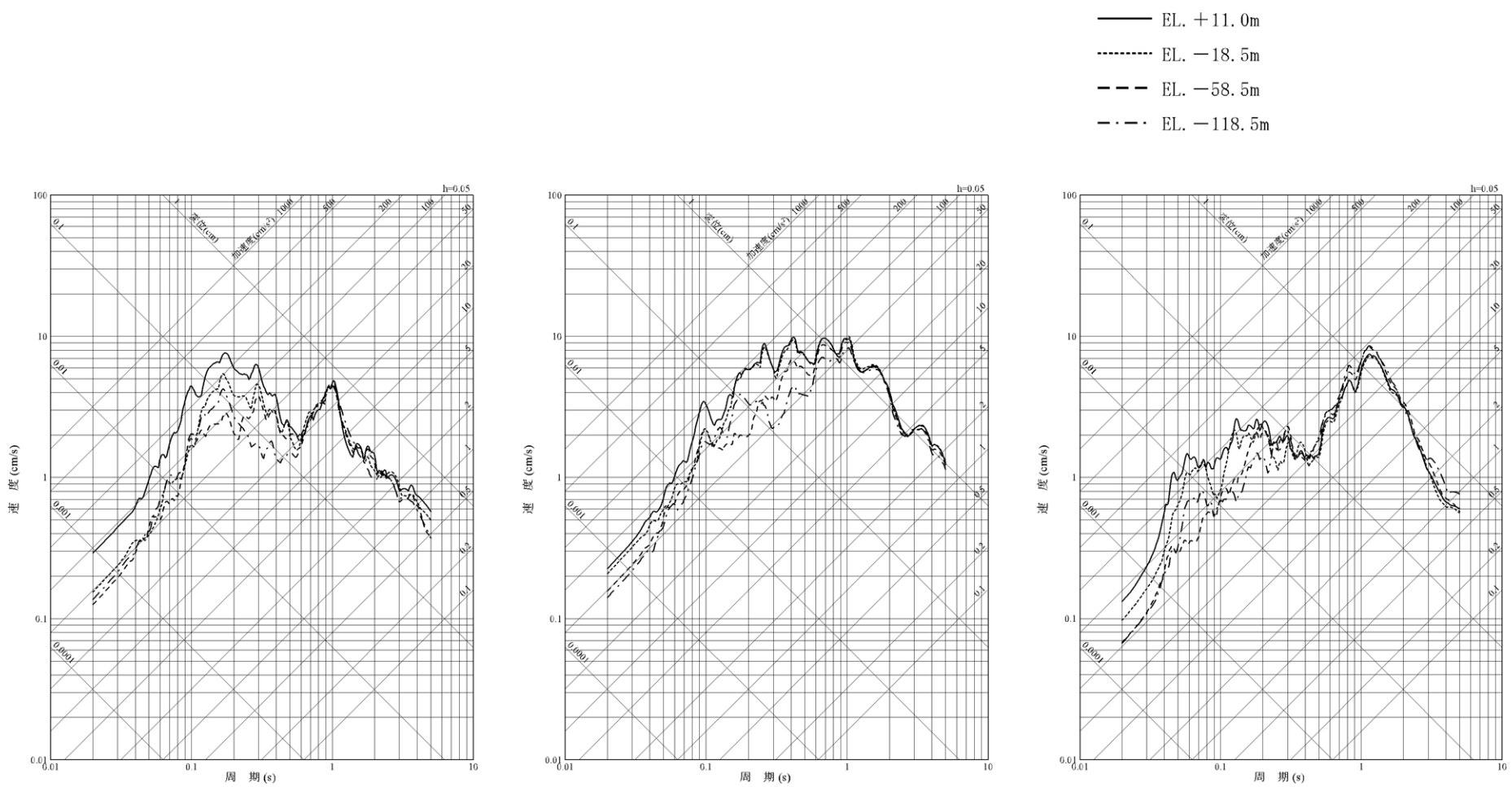
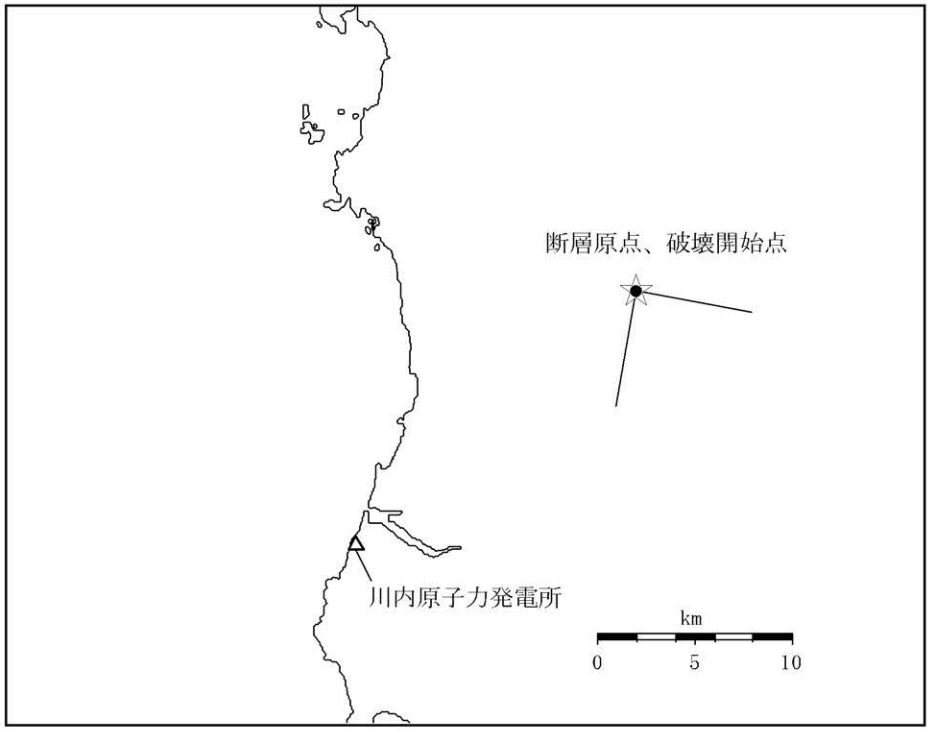
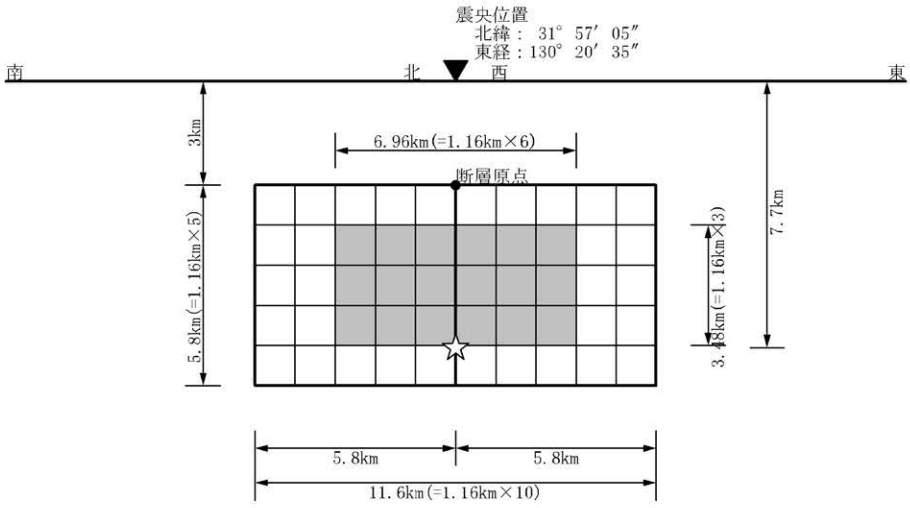


水平方向：NS　　水平方向：EW　　鉛直方向

第 5.2.5.4 図　深度別応答スペクトル（1997 年 3 月 26 日 鹿児島県北西部地震）

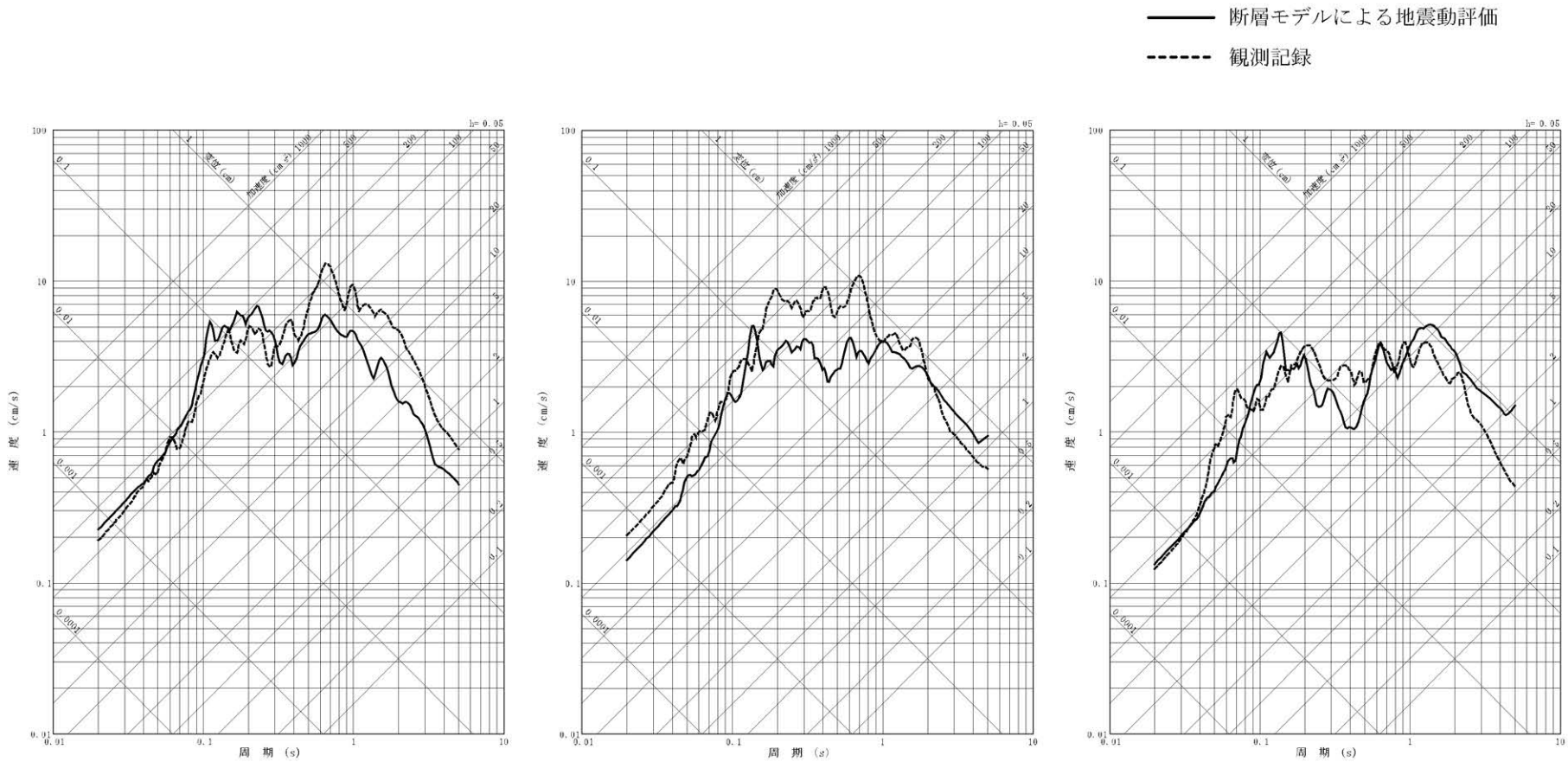


(a) ５月の地震の断層モデルとサイトの位置関係

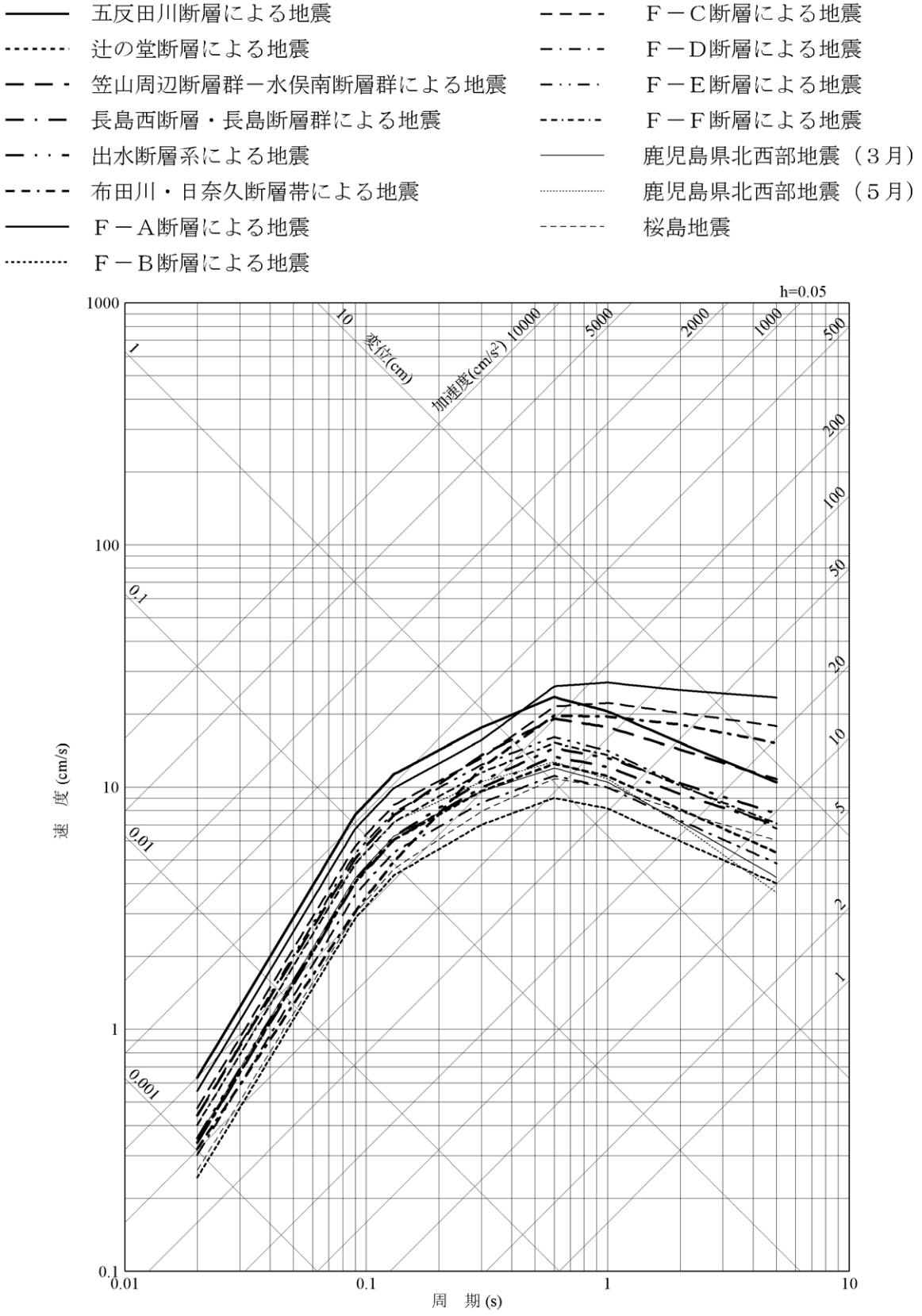


(b) ５月の地震の断層モデル

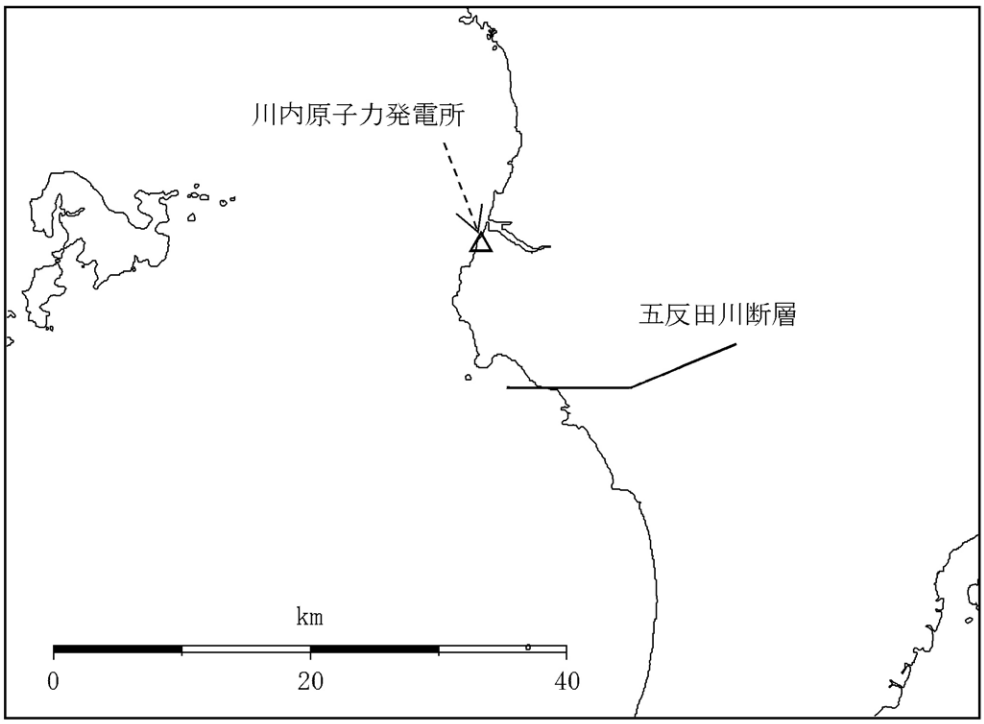
第 5.2.5.5 図　1997 年鹿児島県北西部地震の地震動評価に用いた震源モデル



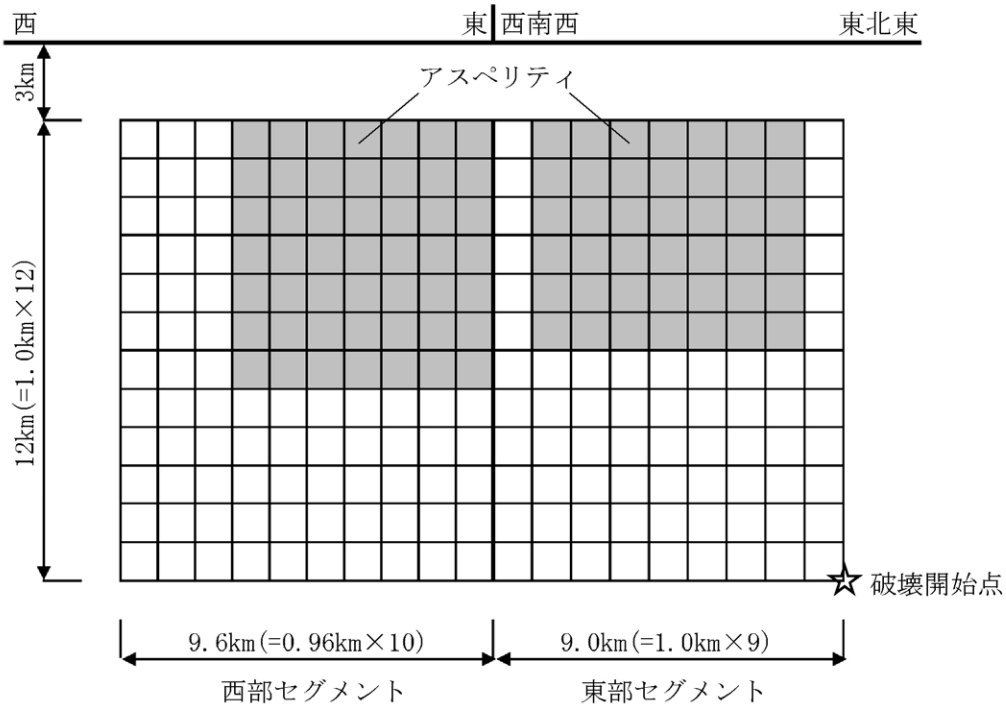
第 5.2.5.6 図　敷地における 1997 年鹿児島県北西部地震の地震動評価結果と観測記録の比較



第 5.2.6.1 図　検討用地震の選定のための応答スペクトルの比較

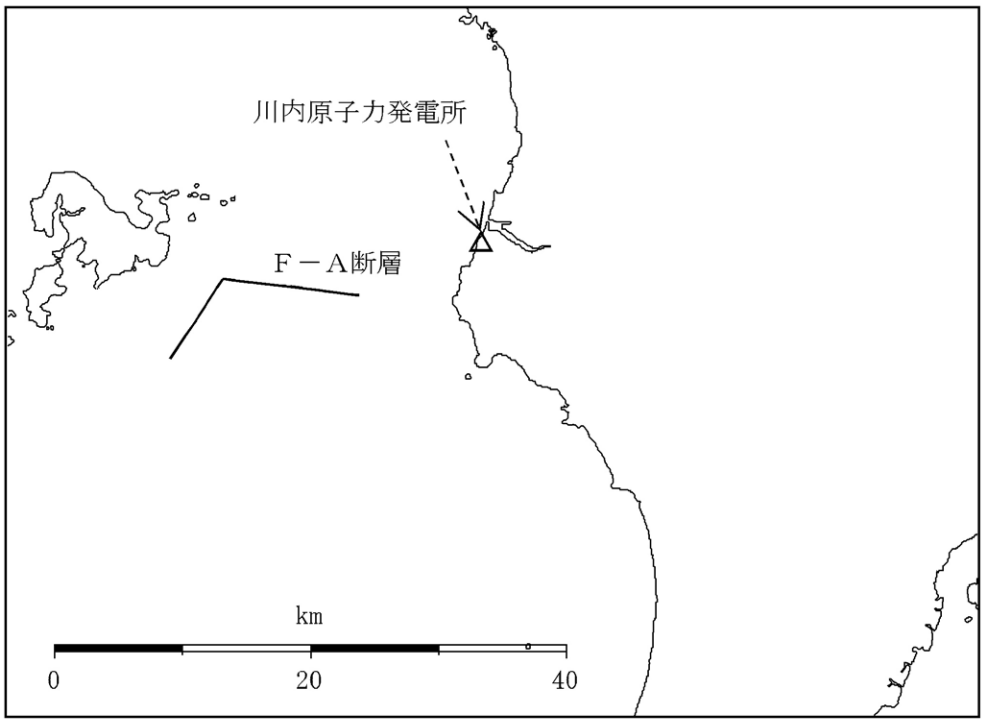


(a)　断層と敷地の位置関係

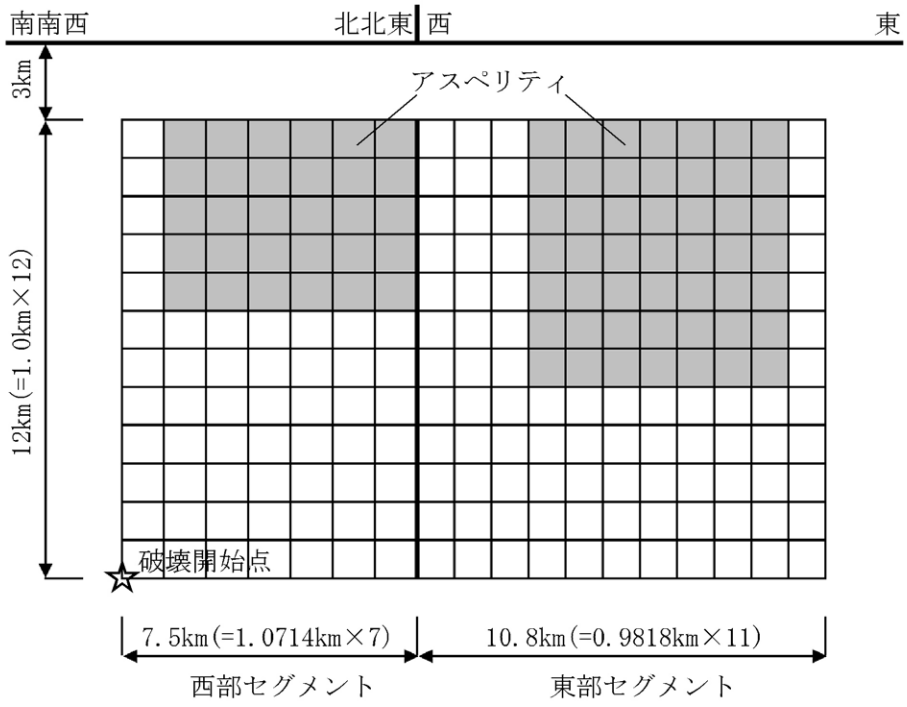


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.2 図　五反田川断層による地震の基本震源モデル

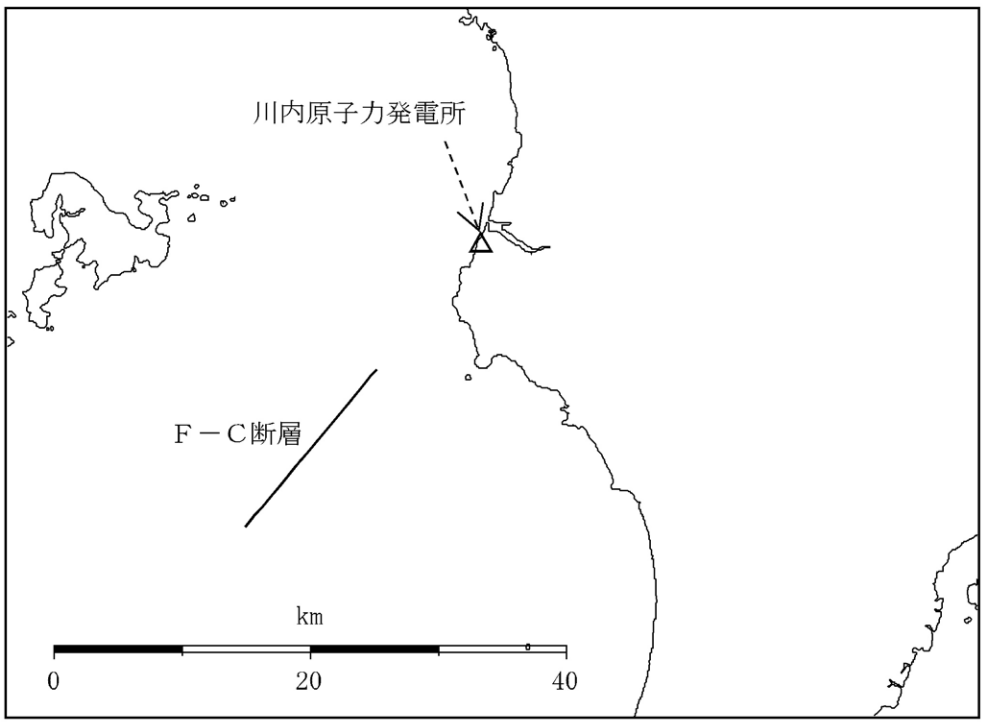


(a)　断層と敷地の位置関係

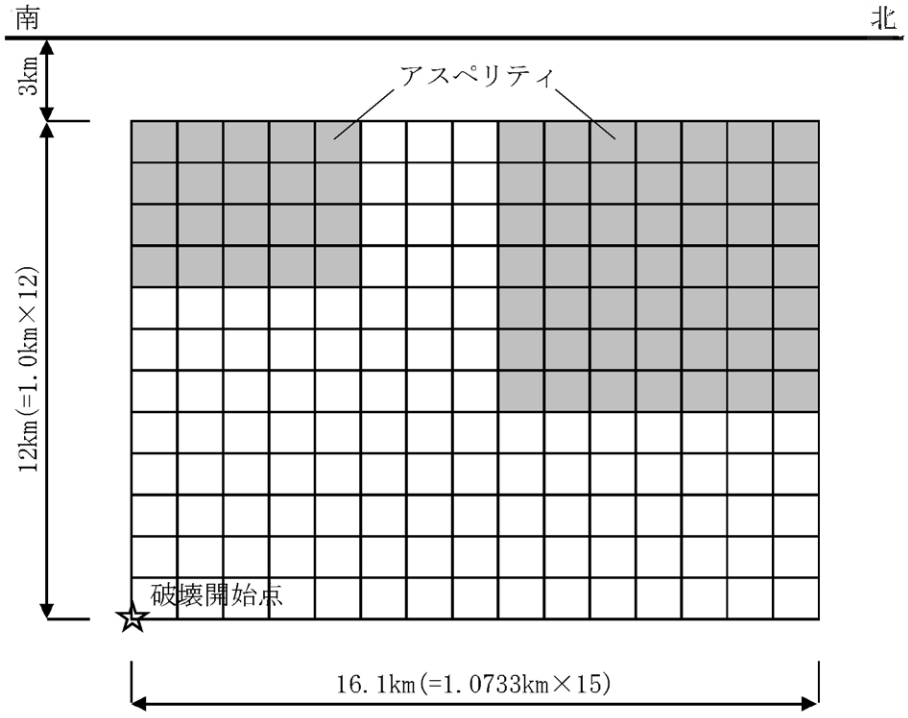


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.3 図　Ｆ－Ａ断層による地震の基本震源モデル

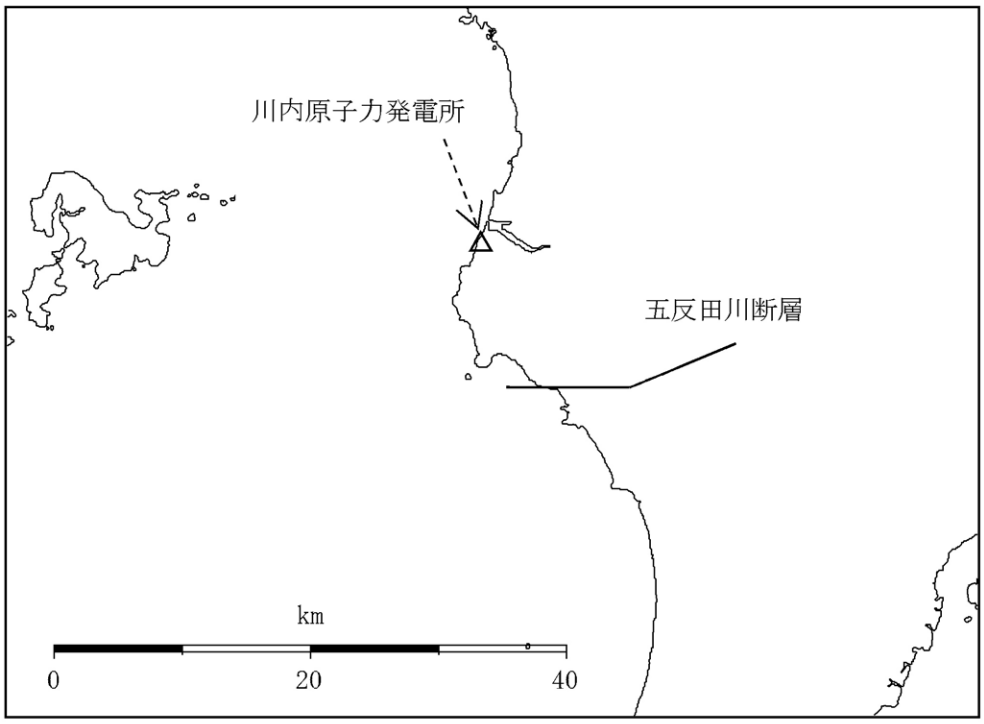


(a)　断層と敷地の位置関係

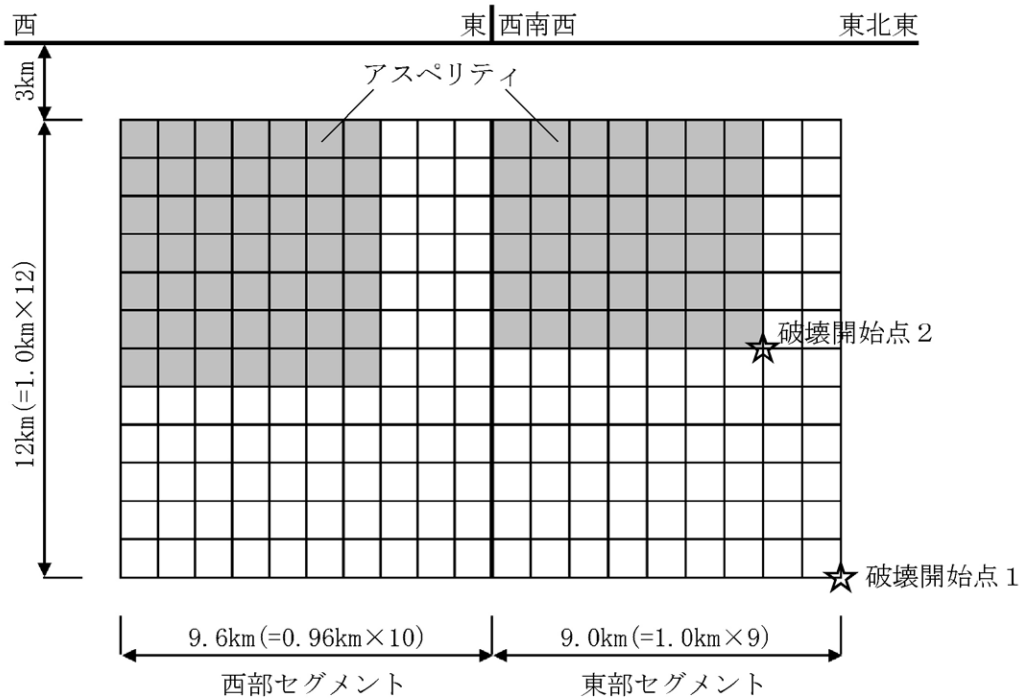


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.4 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の基本震源モデル

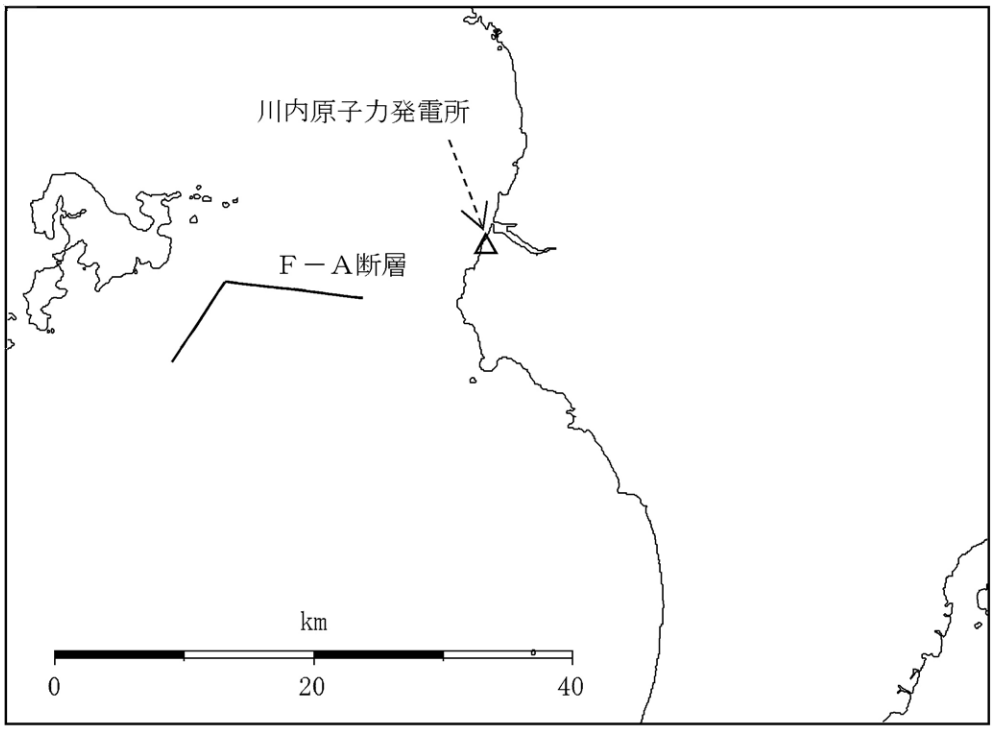


(a)　断層と敷地の位置関係

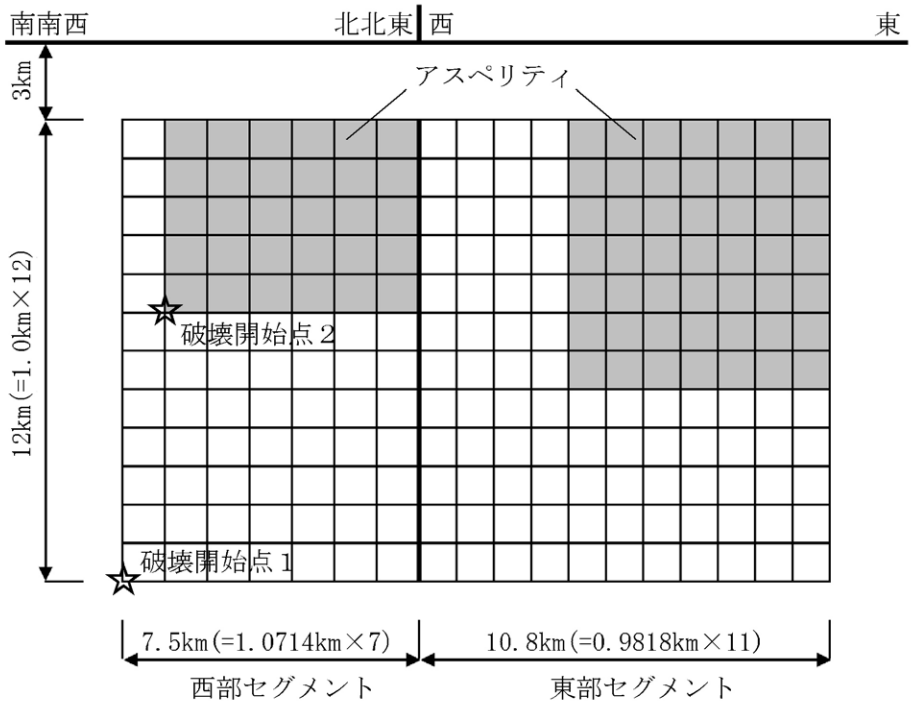


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.5 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(応力降下量の不確かさを考慮したケース)

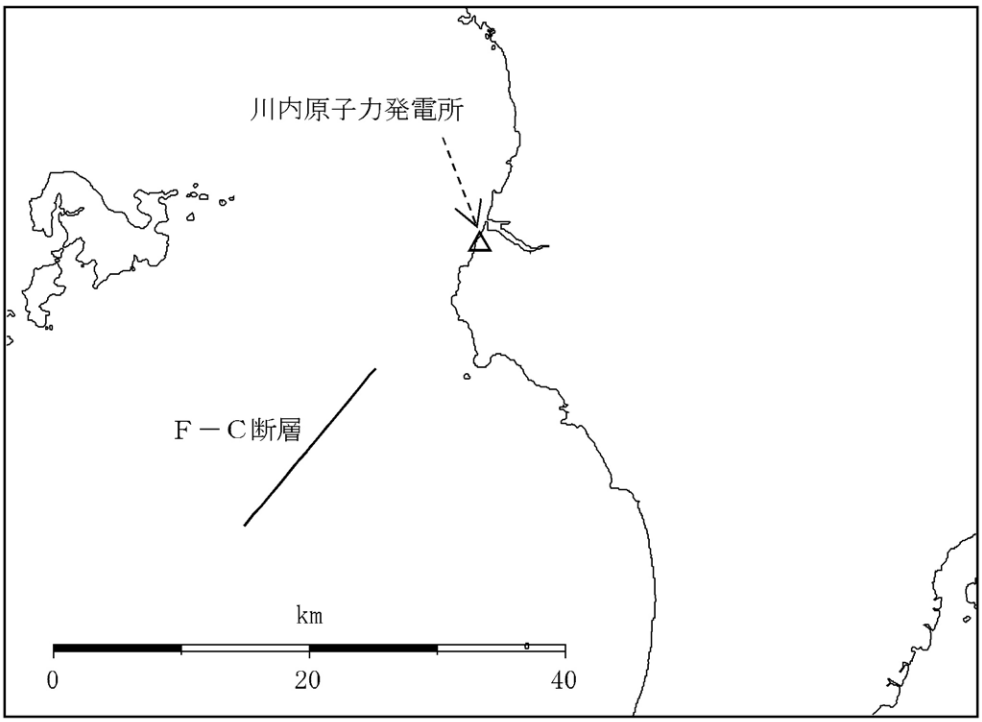


(a)　断層と敷地の位置関係

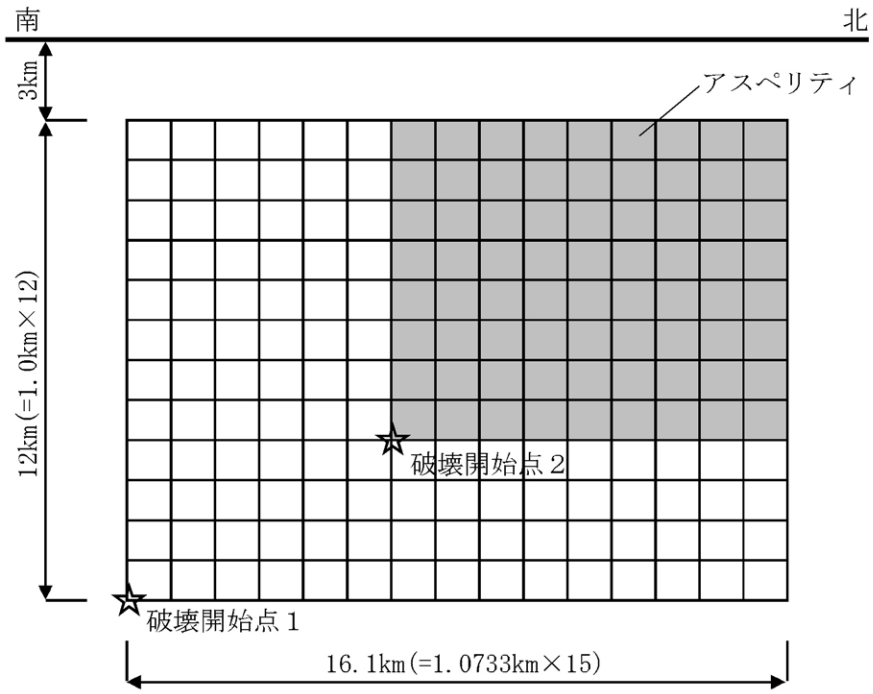


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.6 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(応力降下量の不確かさを考慮したケース)

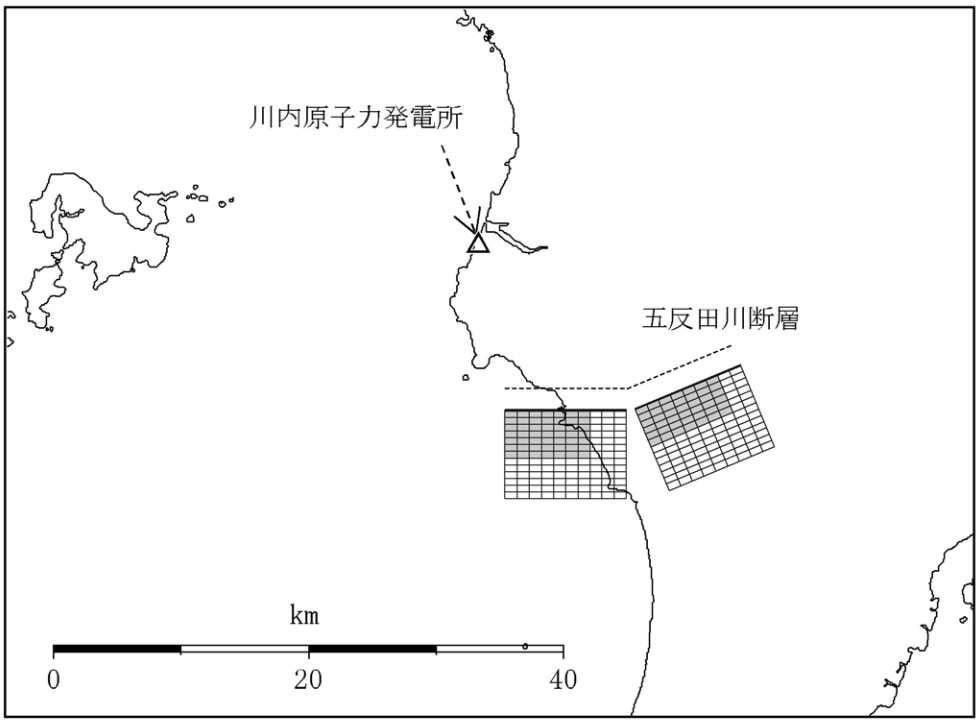


(a)　断層と敷地の位置関係

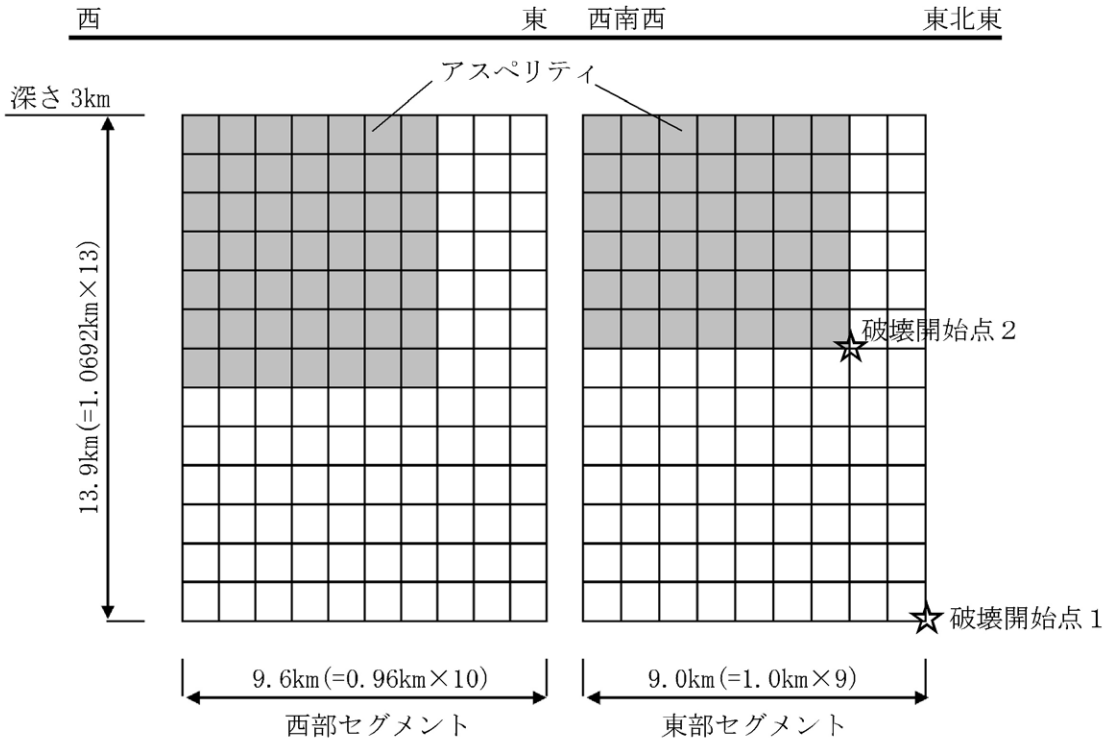


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.7 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(応力降下量の不確かさを考慮したケース)

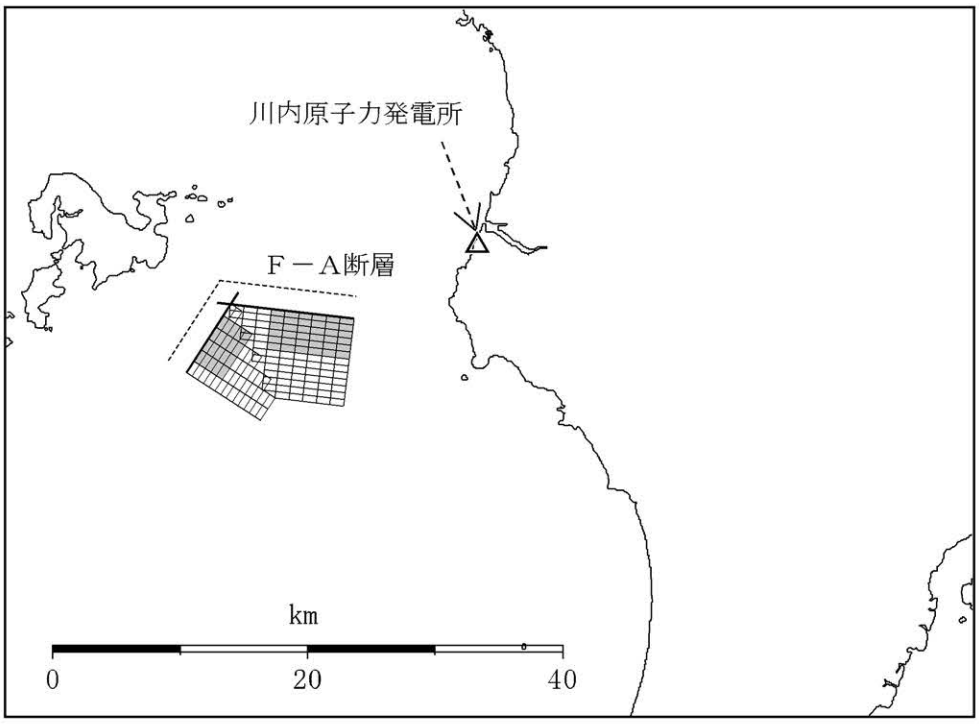


(a)　断層と敷地の位置関係

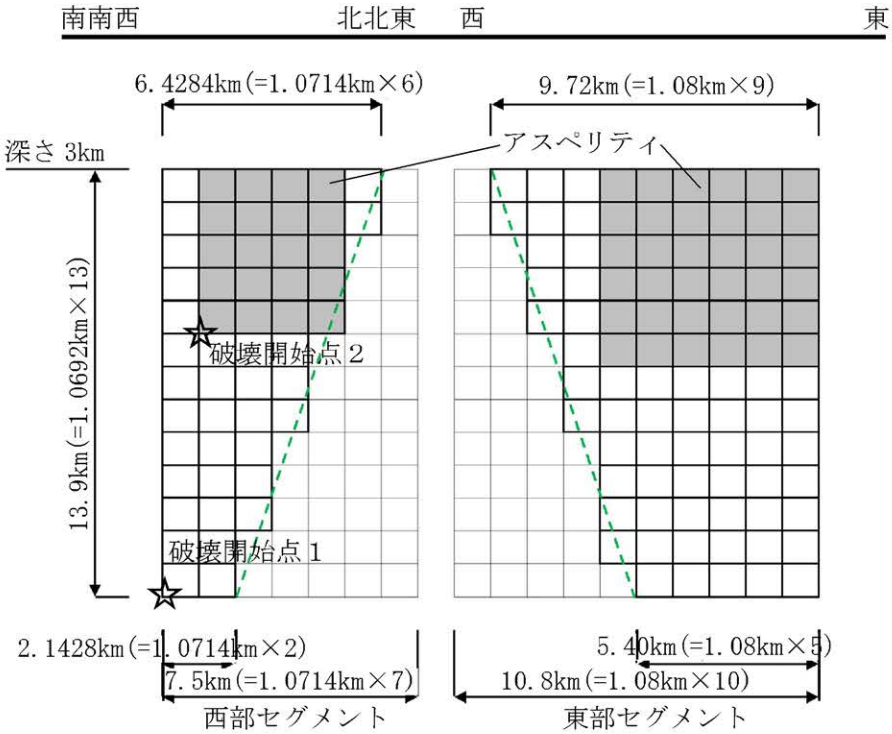


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.8 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(断層傾斜角の不確かさを考慮したケース)

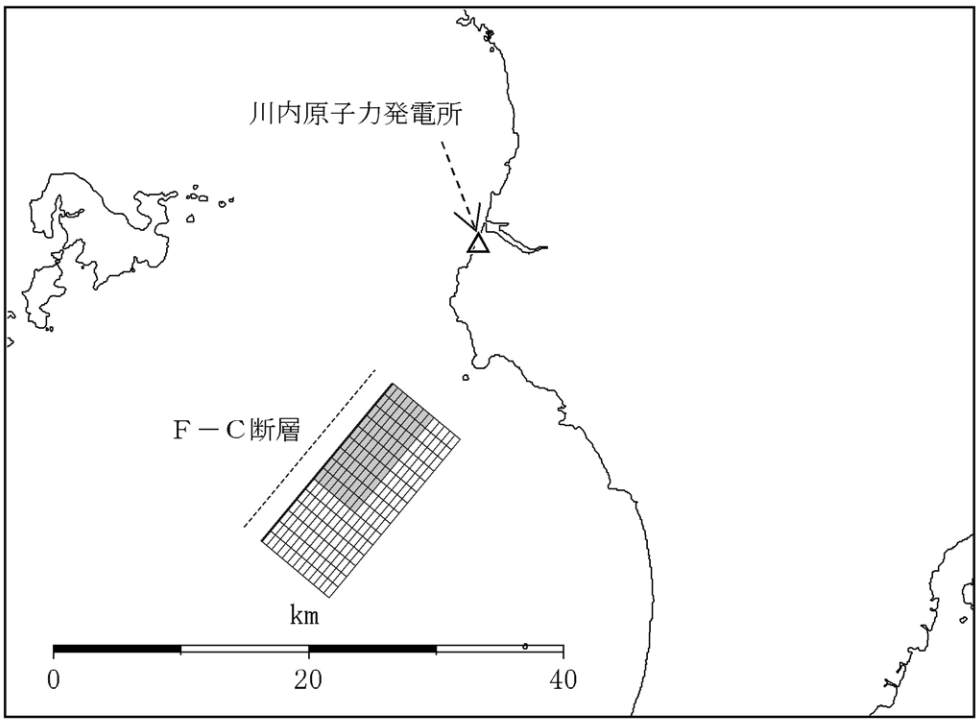


(a)　断層と敷地の位置関係

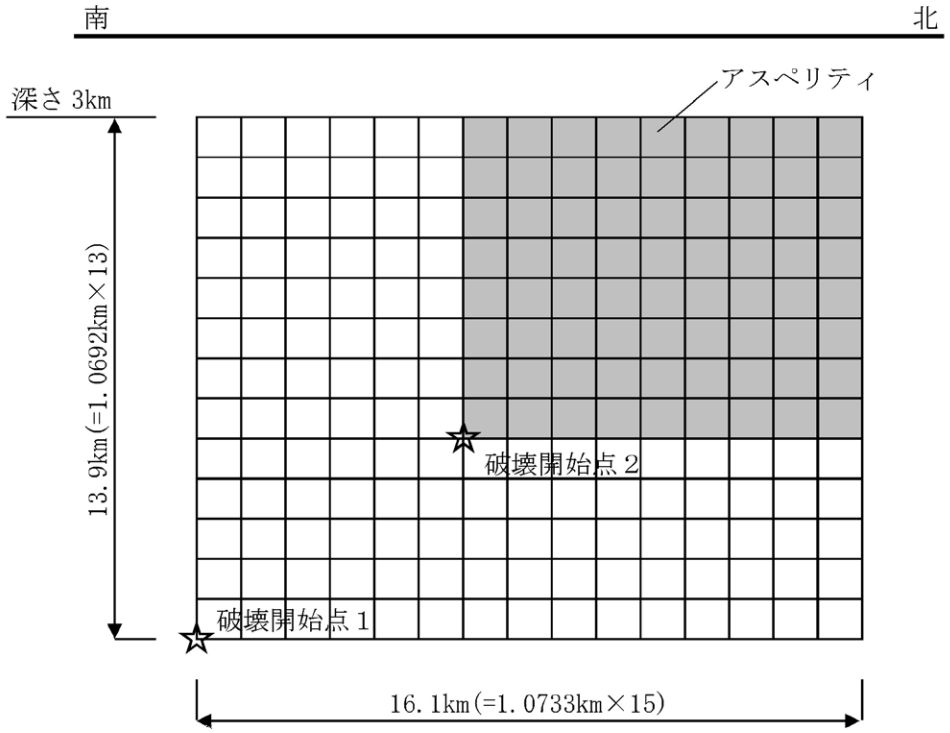


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.9 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(断層傾斜角の不確かさを考慮したケース)

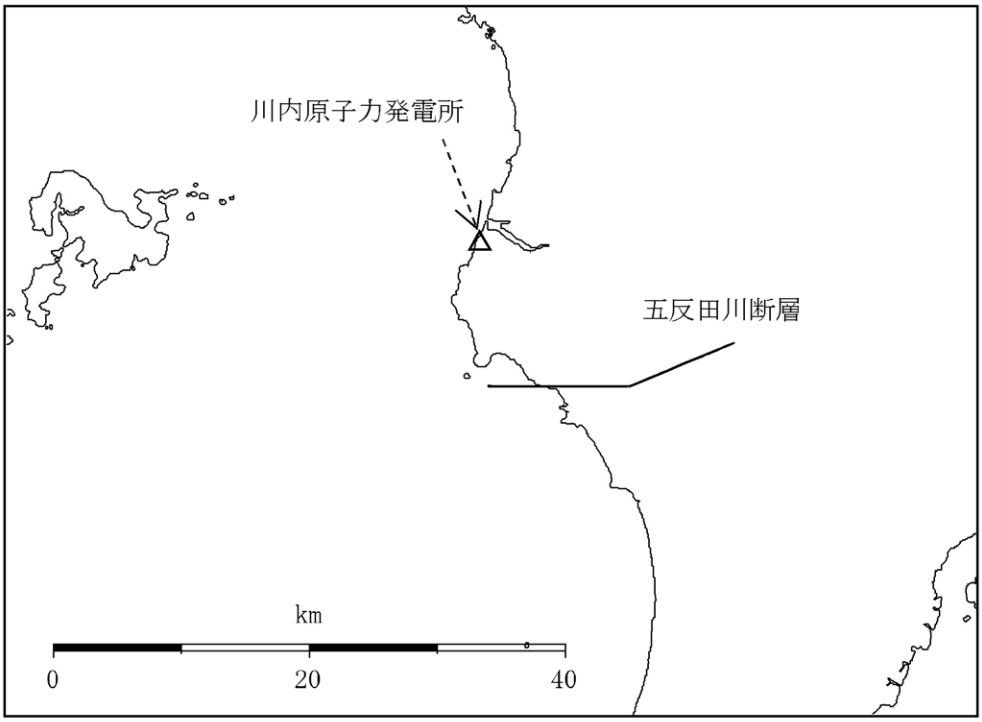


(a)　断層と敷地の位置関係

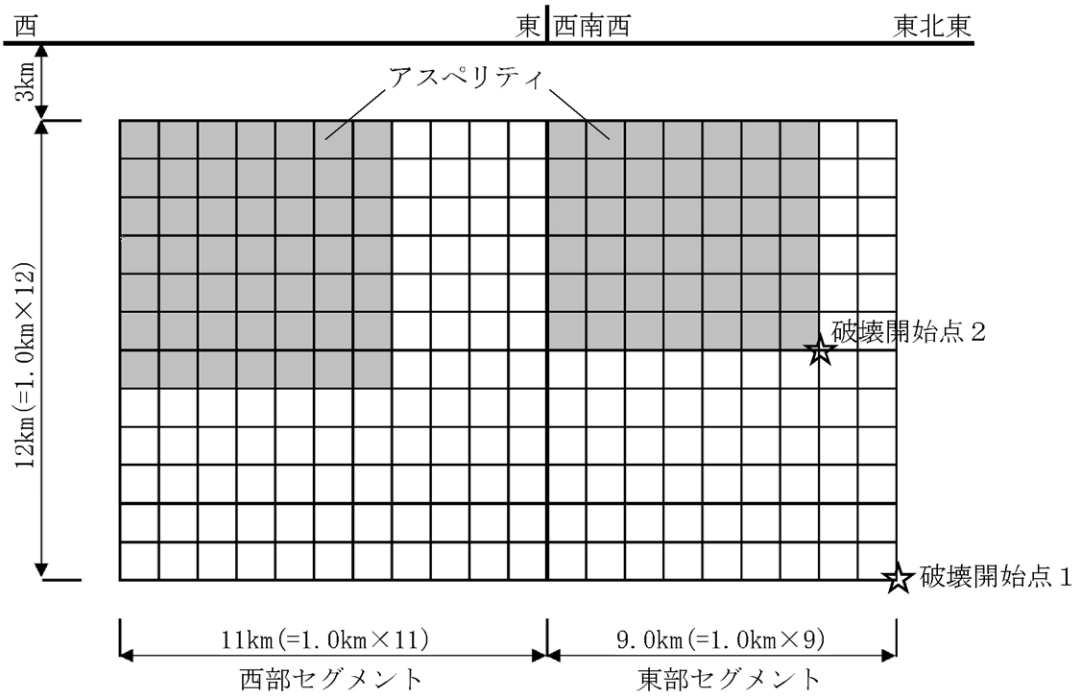


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.10 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース）

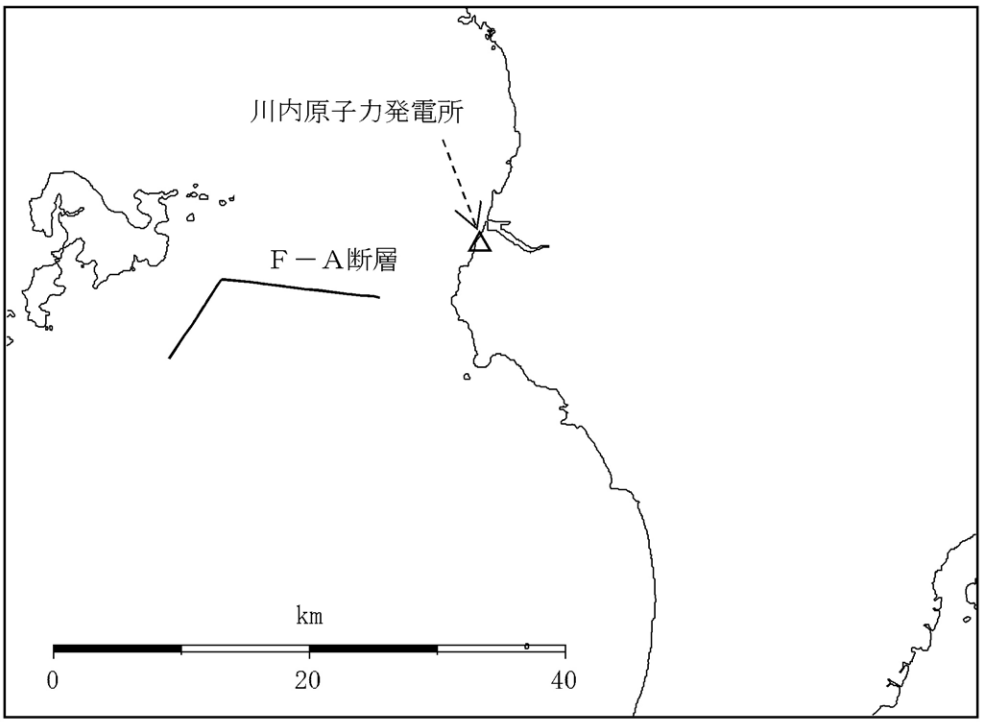


(a)　断層と敷地の位置関係

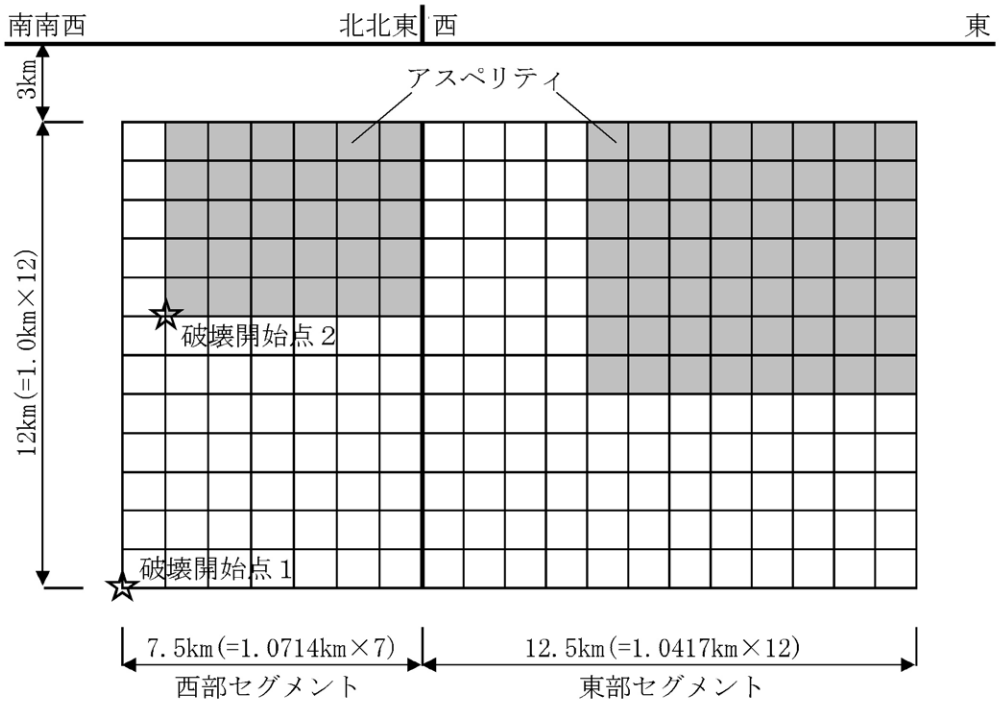


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.11 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
（断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース）

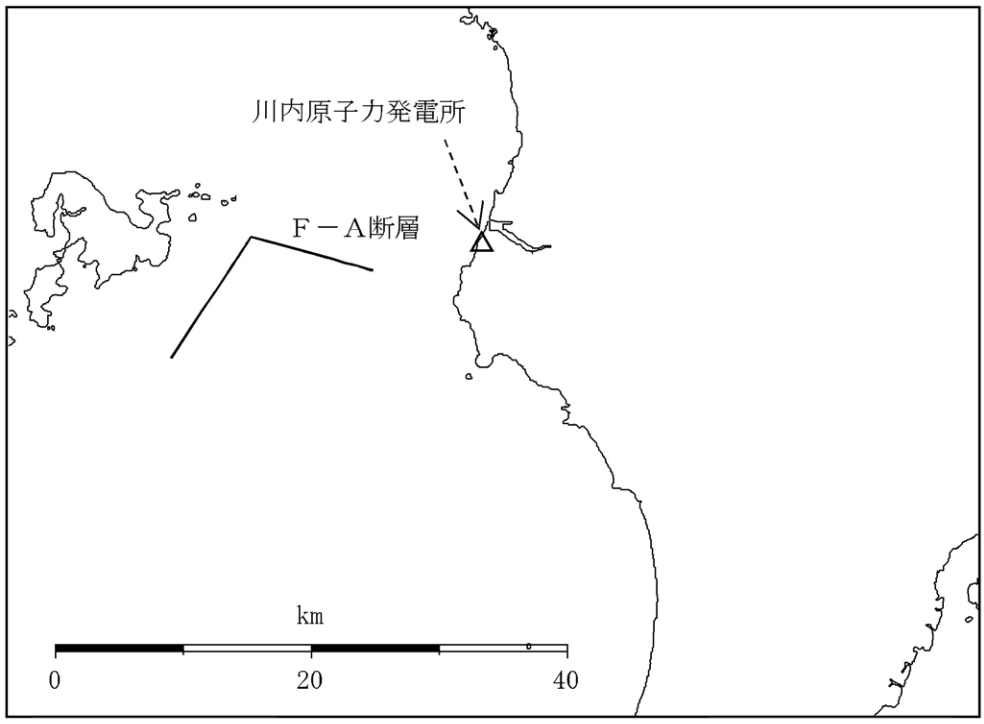


(a)　断層と敷地の位置関係

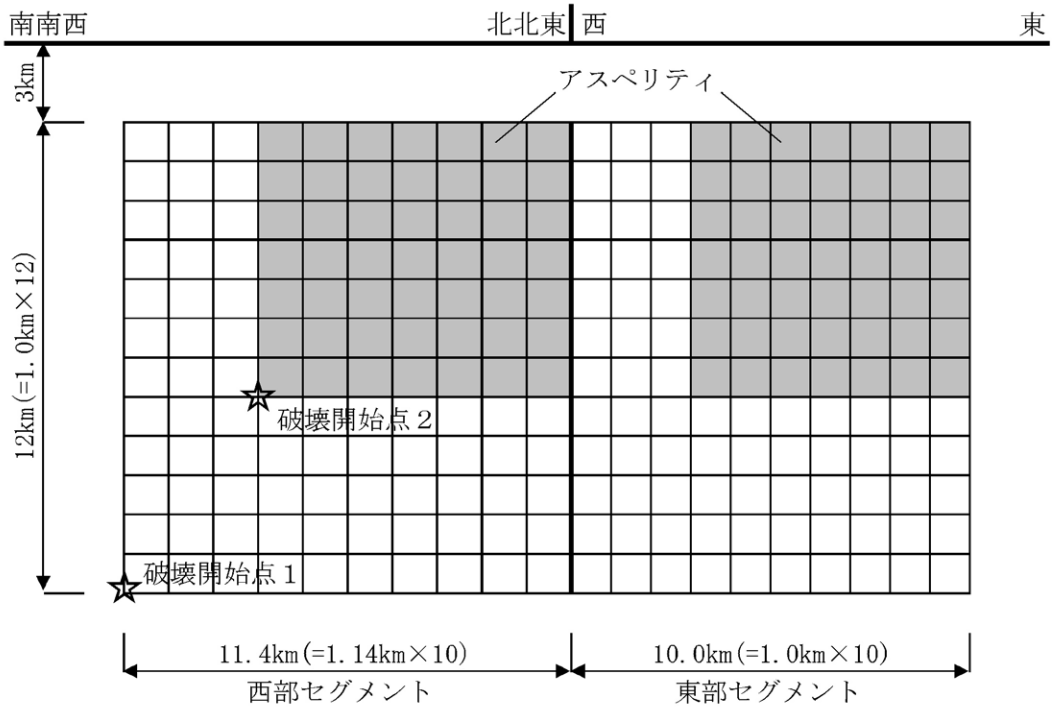


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.12 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(断層長さ及び震源断層の拡がり①の不確かさを考慮したケース)

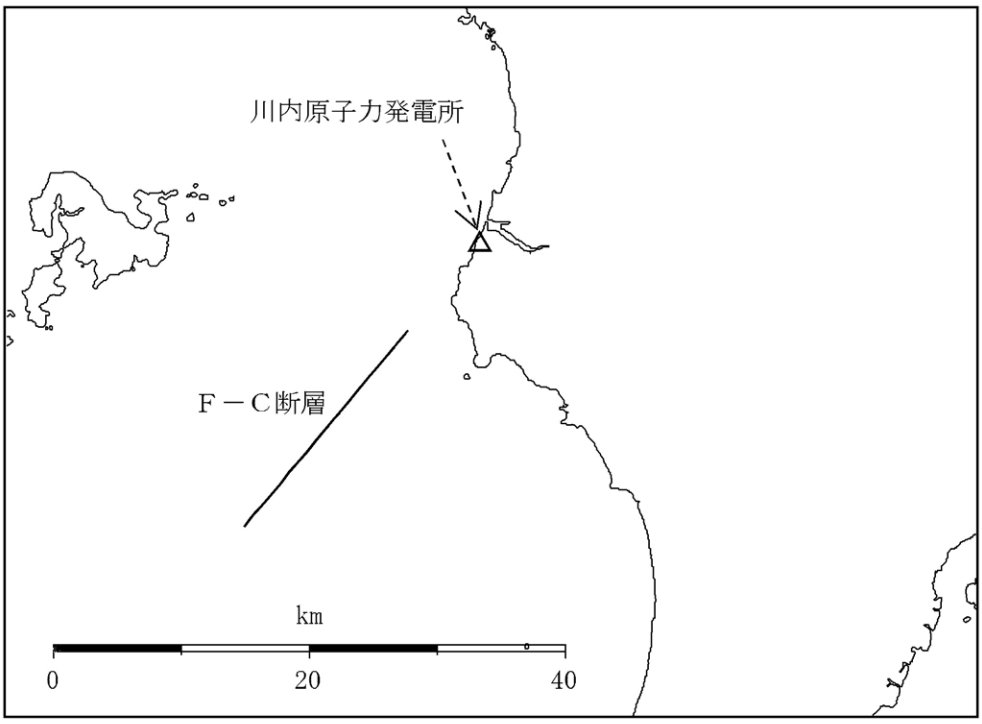


(a)　断層と敷地の位置関係

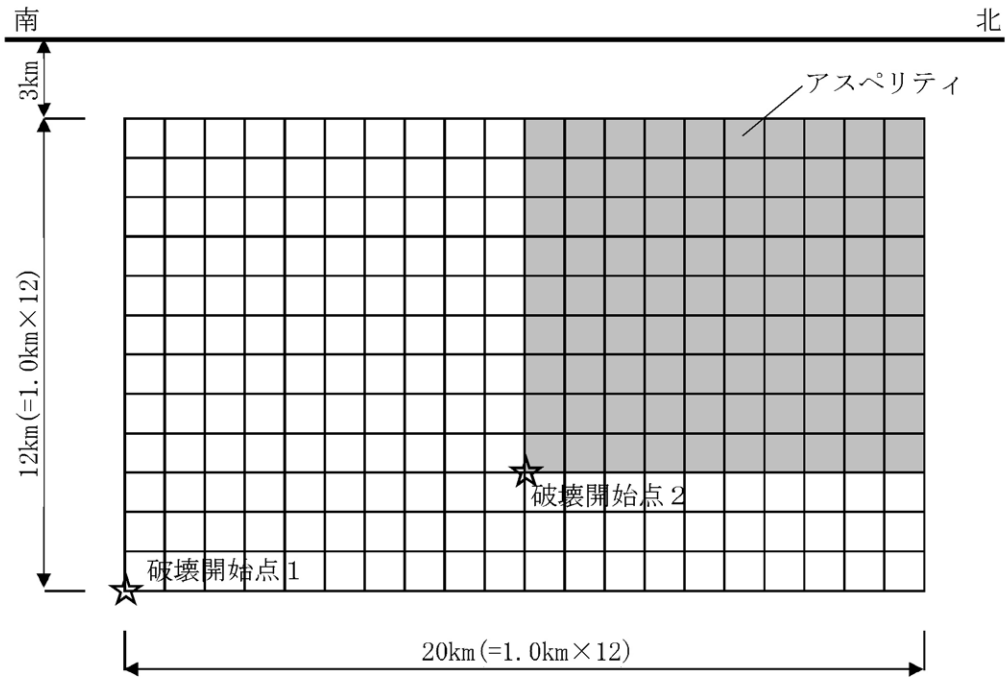


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.13 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
(断層長さ及び震源断層の拡がり②の不確かさを考慮したケース)

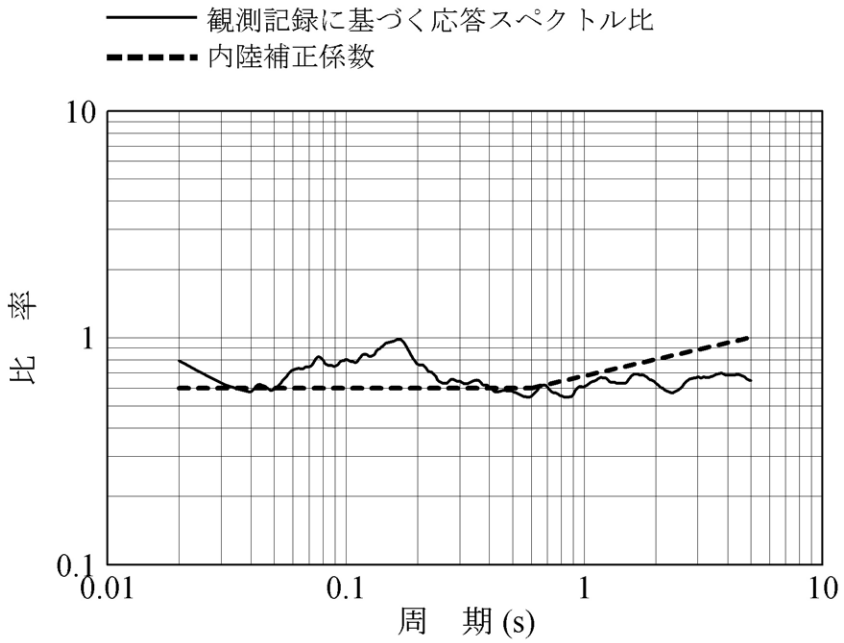


(a)　断層と敷地の位置関係

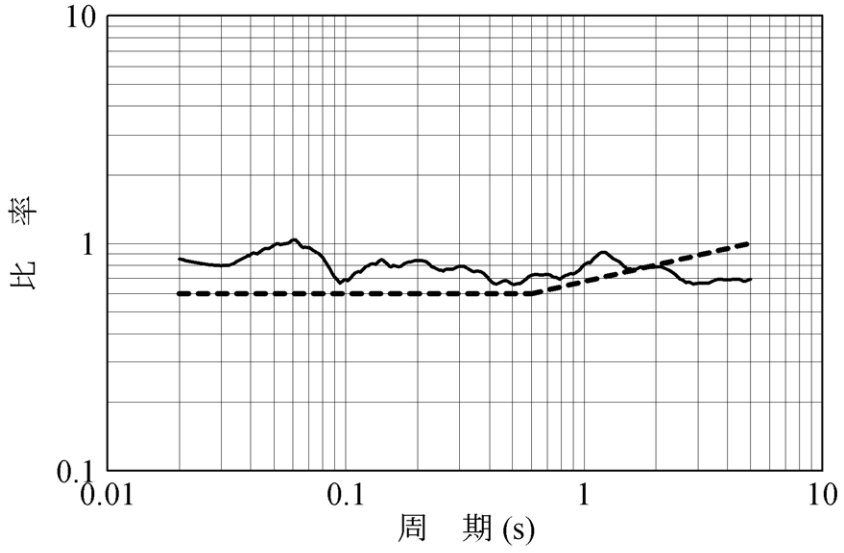


(b)　断層分割及びアスペリティ配置

第 5.2.6.14 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した震源モデル
（断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース）

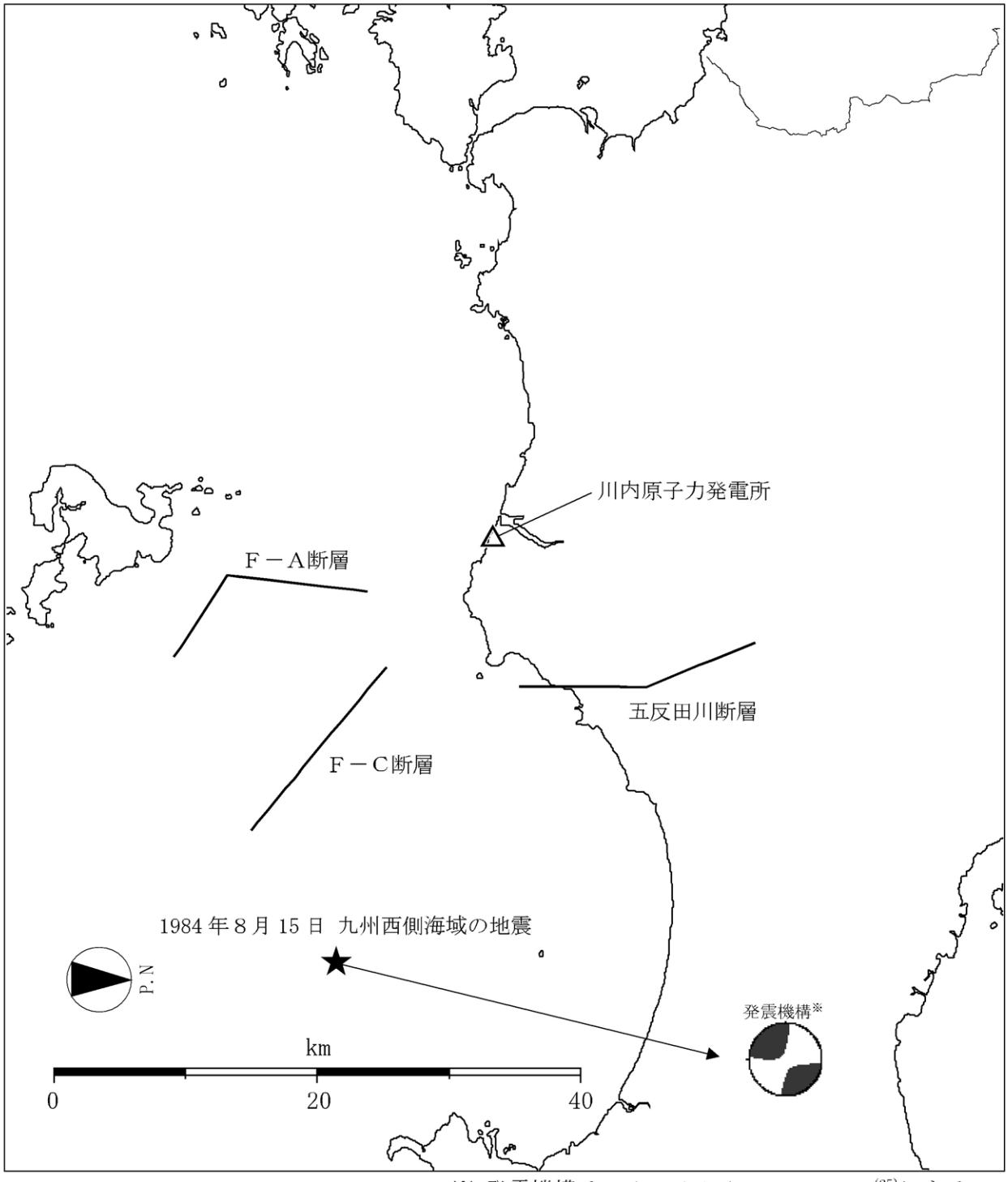


(a) 水平方向



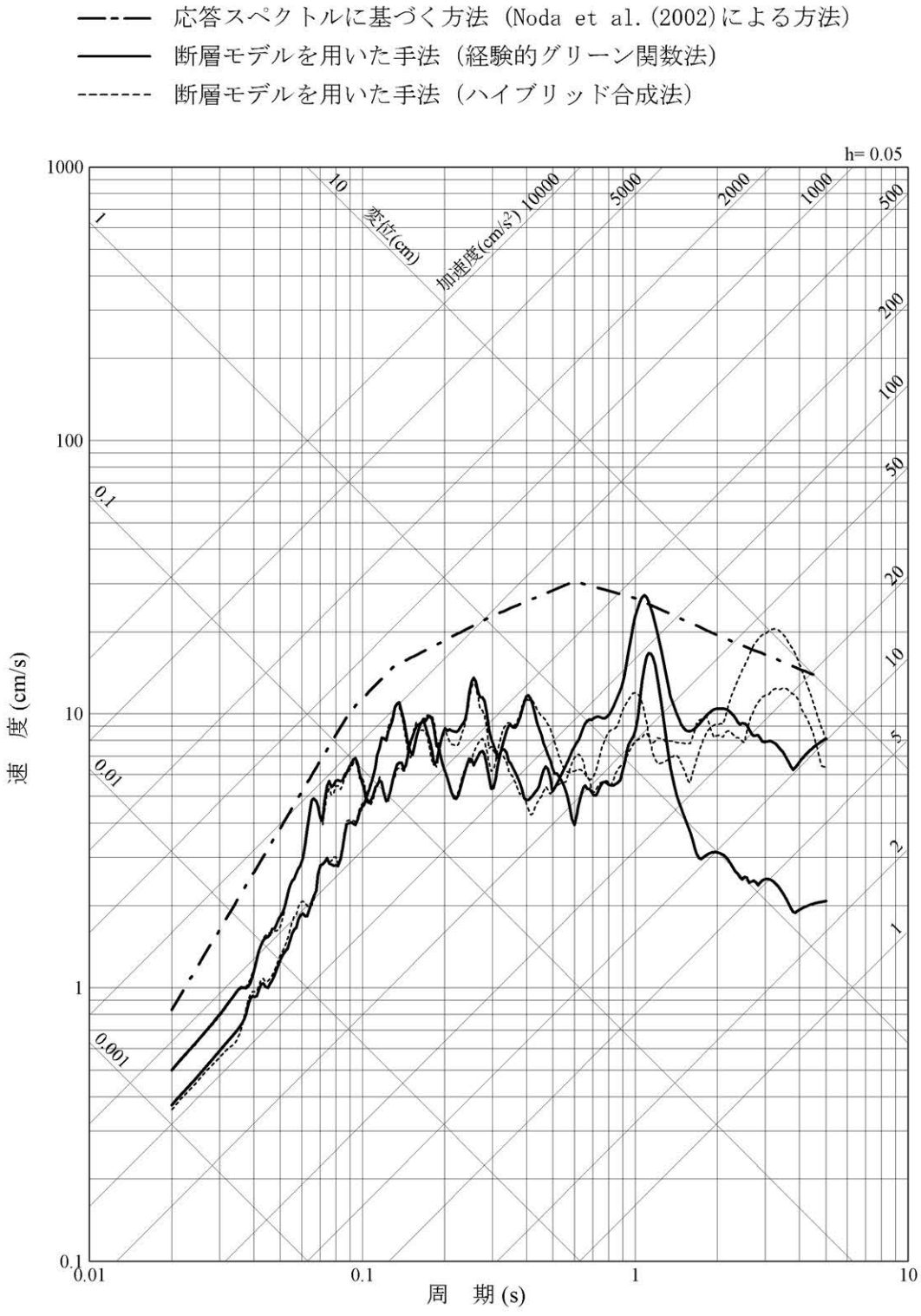
(b) 鉛直方向

第 5.2.6.15 図　内陸地殻内地震の観測記録に基づく補正係数

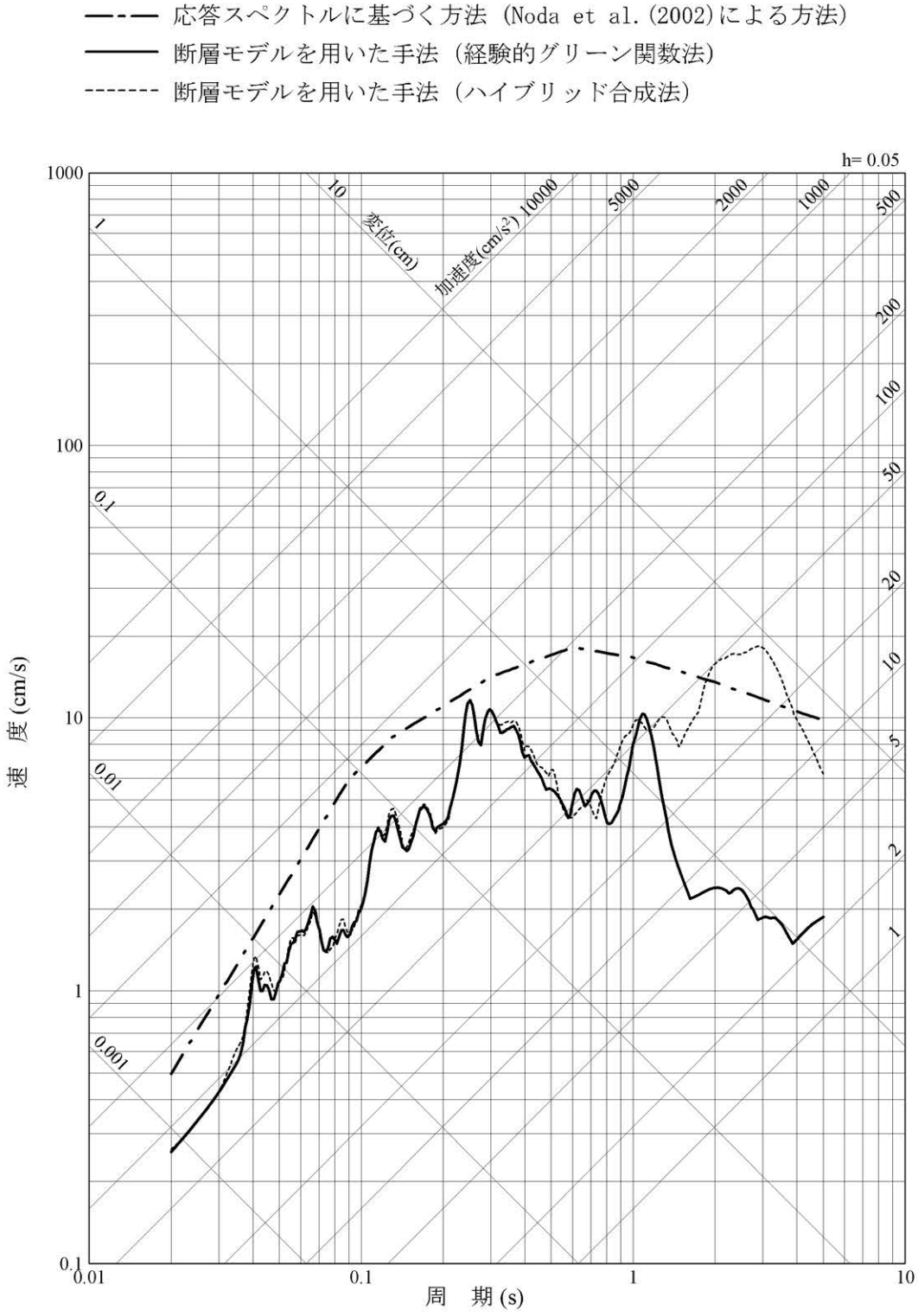


※ 発震機構は、The Global CMT Project[25]による。

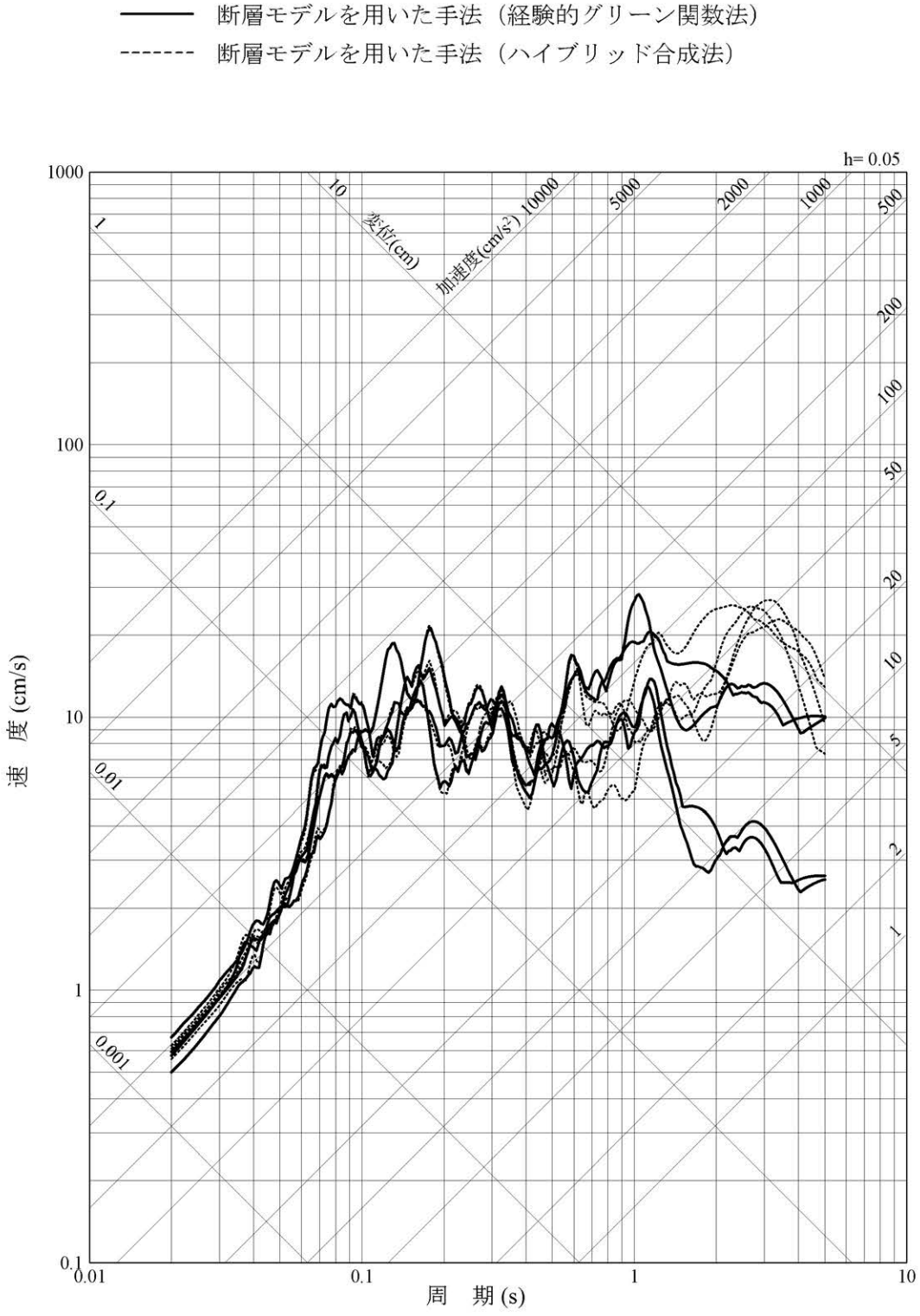
第 5.2.6.16 図　断層モデルを用いた手法による地震動評価に用いる要素地震の震央位置



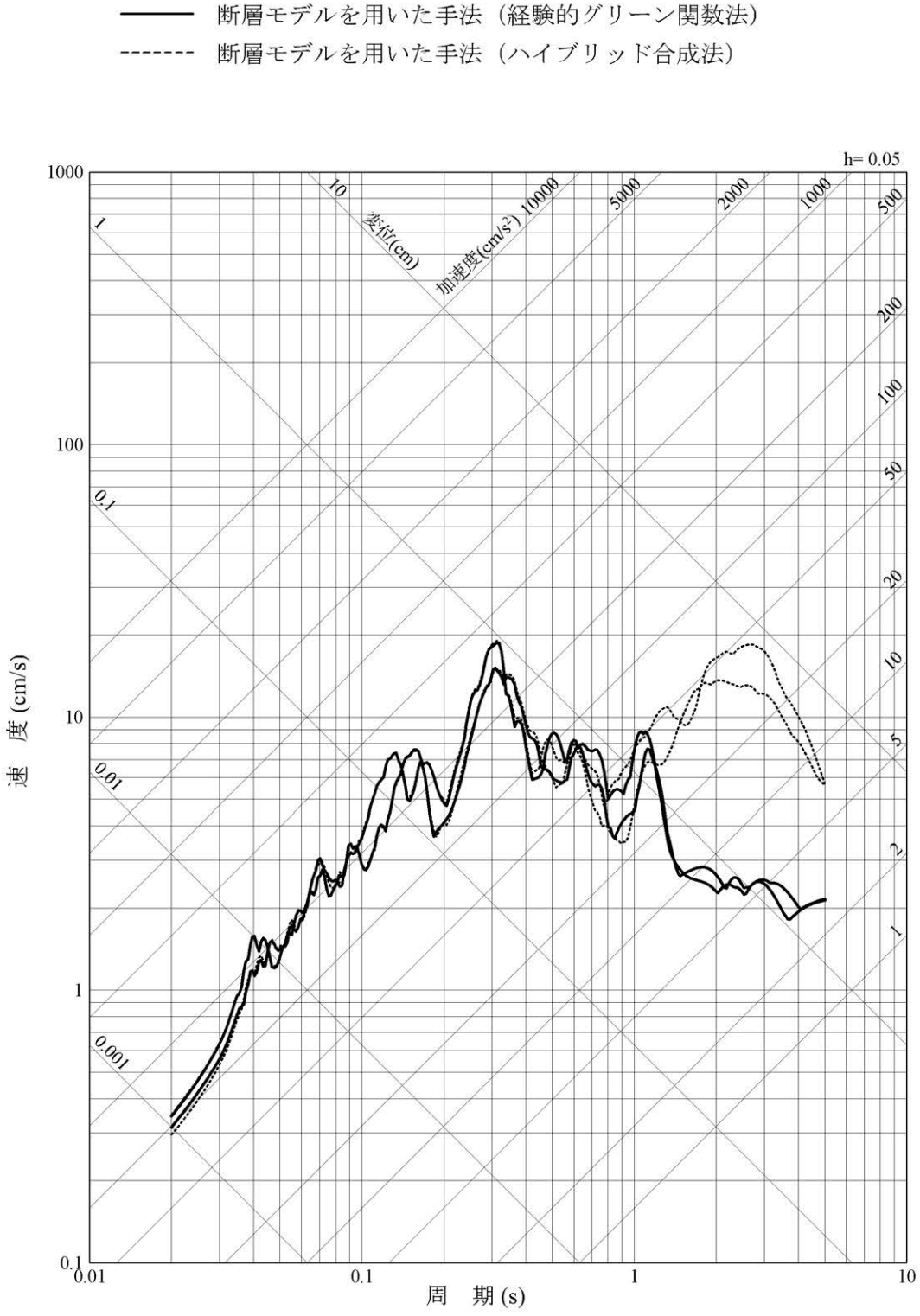
第 5.2.6.17 図　五反田川断層による地震の応答スペクトル（水平方向）



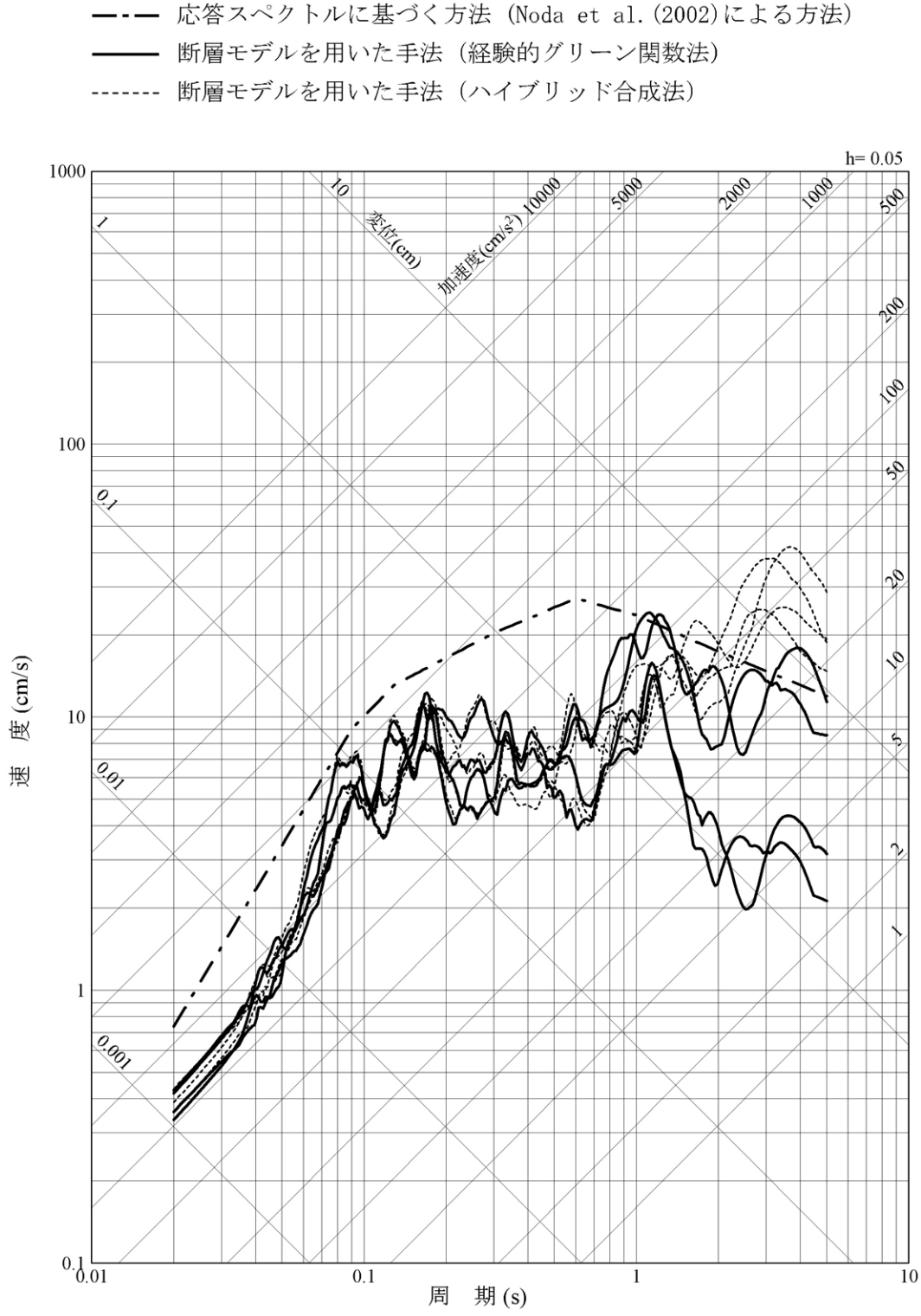
第 5.2.6.18 図　五反田川断層による地震の応答スペクトル（鉛直方向）



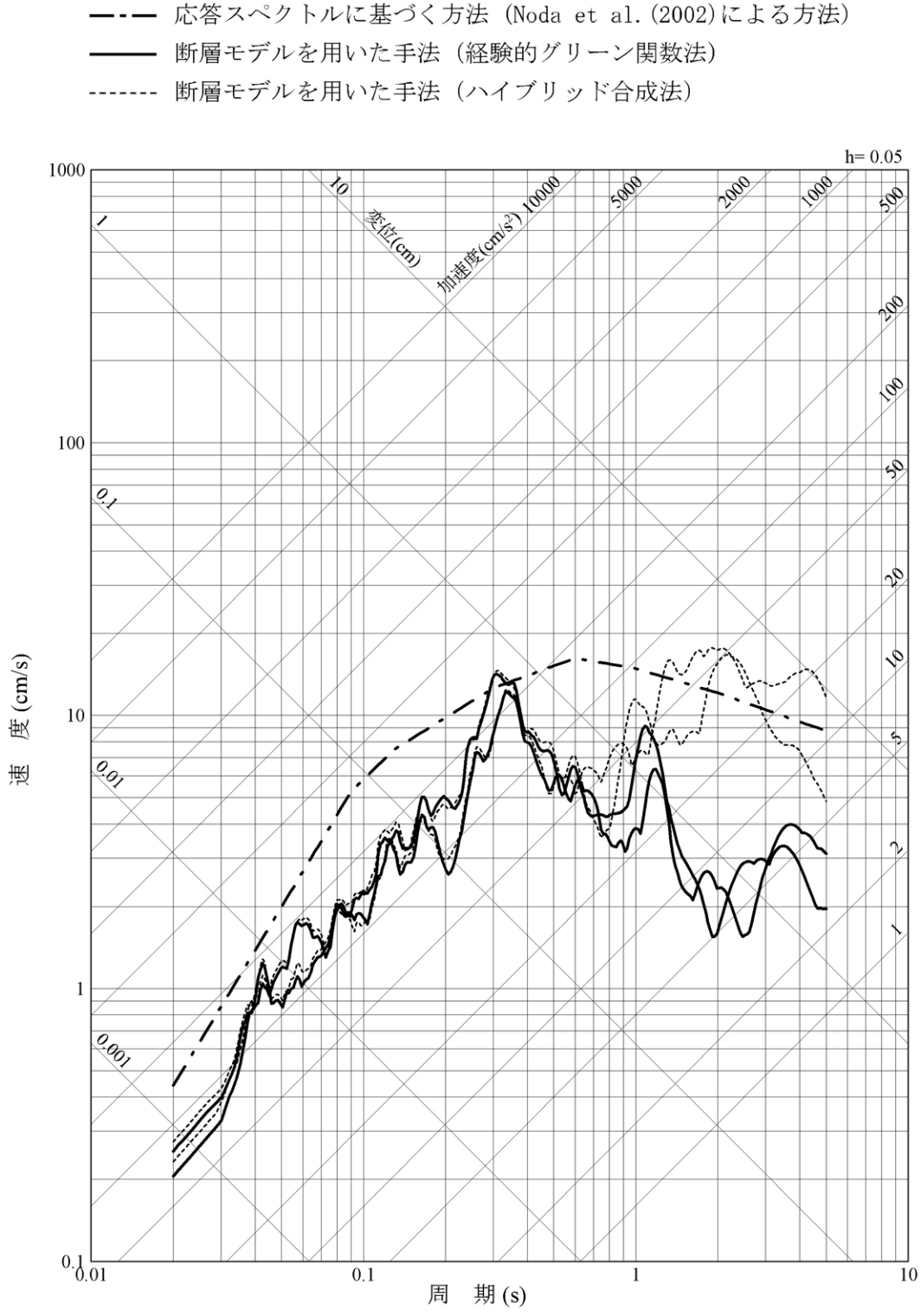
第5.2.6.19図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（応力降下量の不確かさを考慮したケース：水平方向）



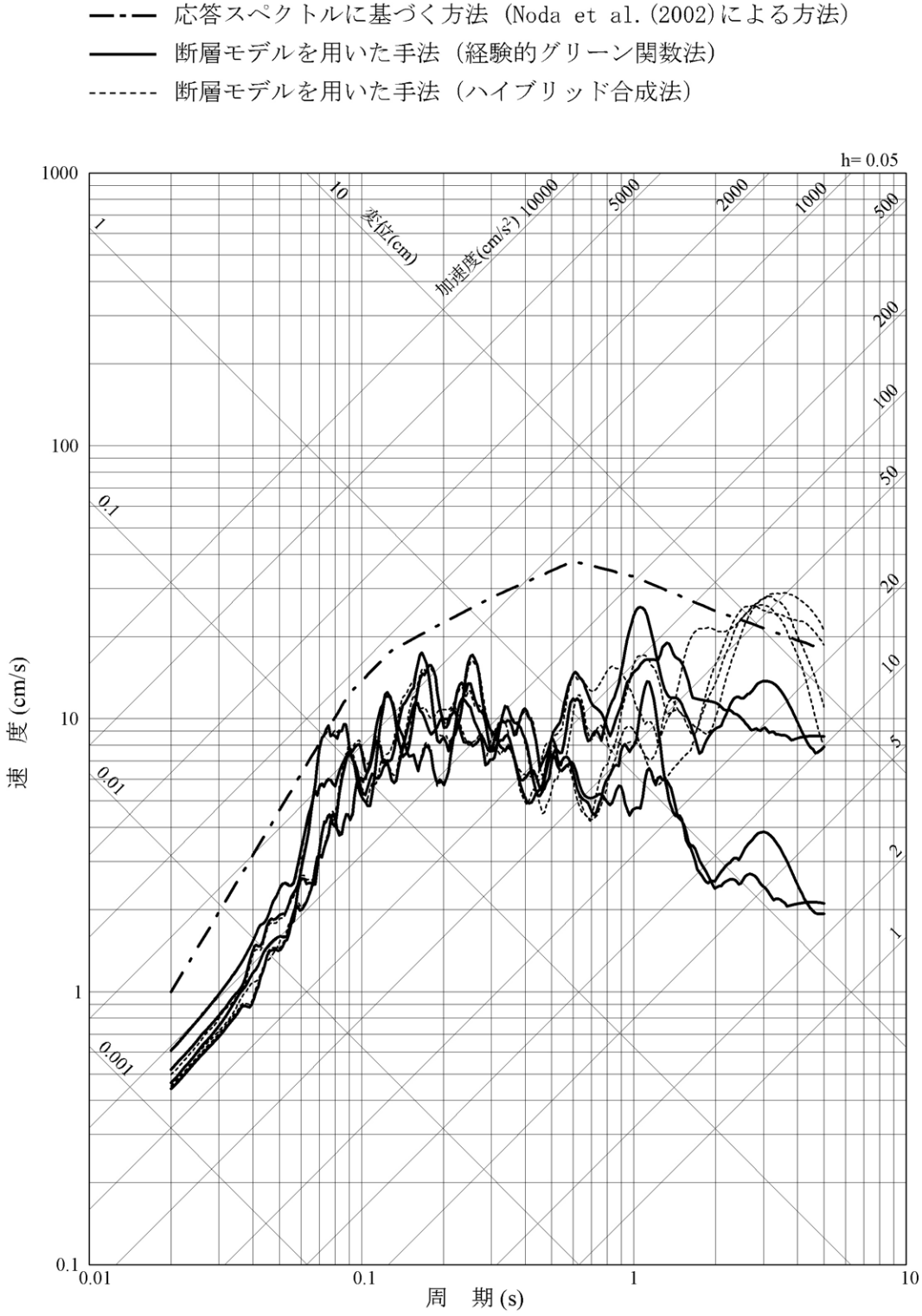
第 5.2.6.20 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（応力降下量の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



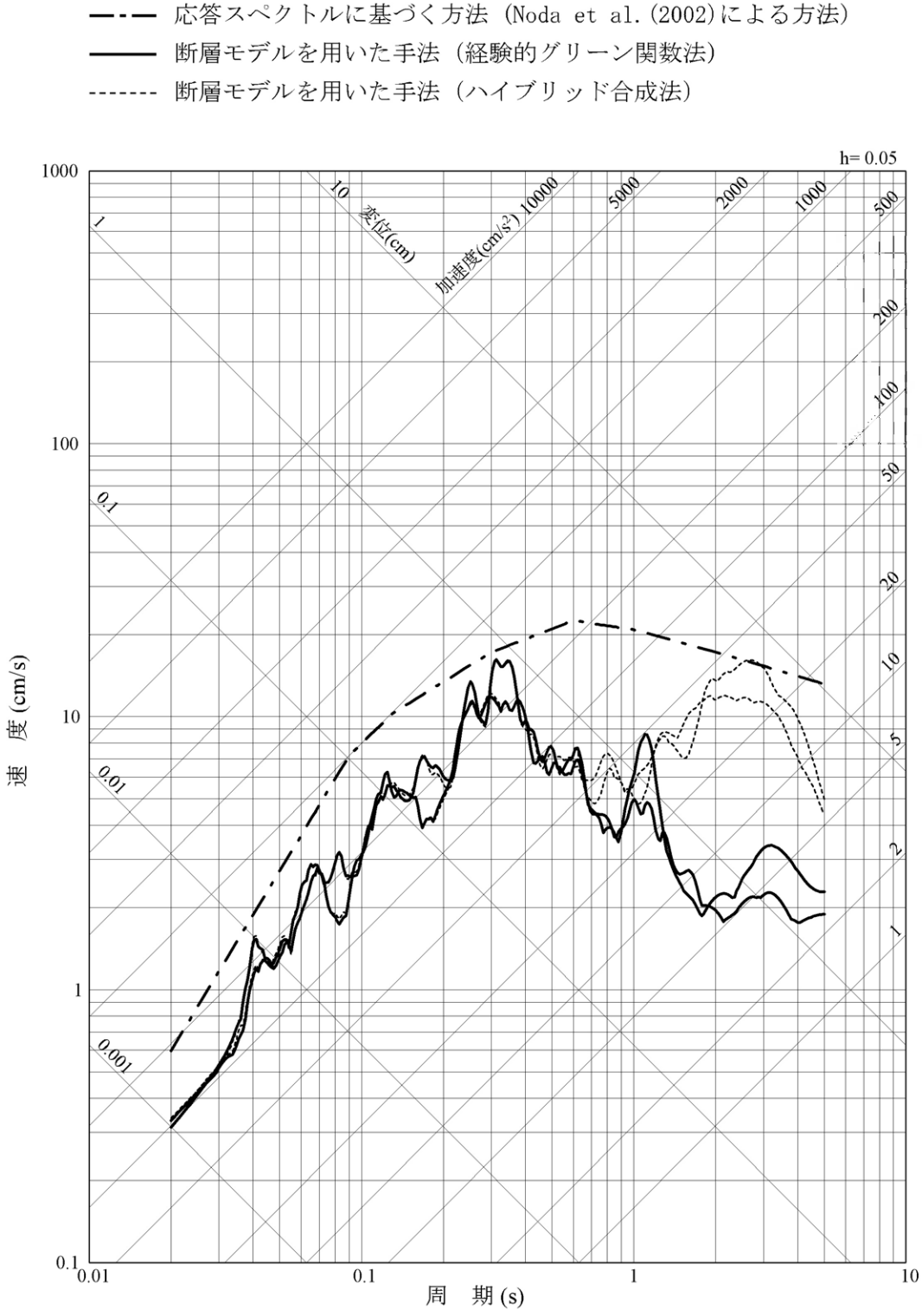
第 5.2.6.21 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース：水平方向）



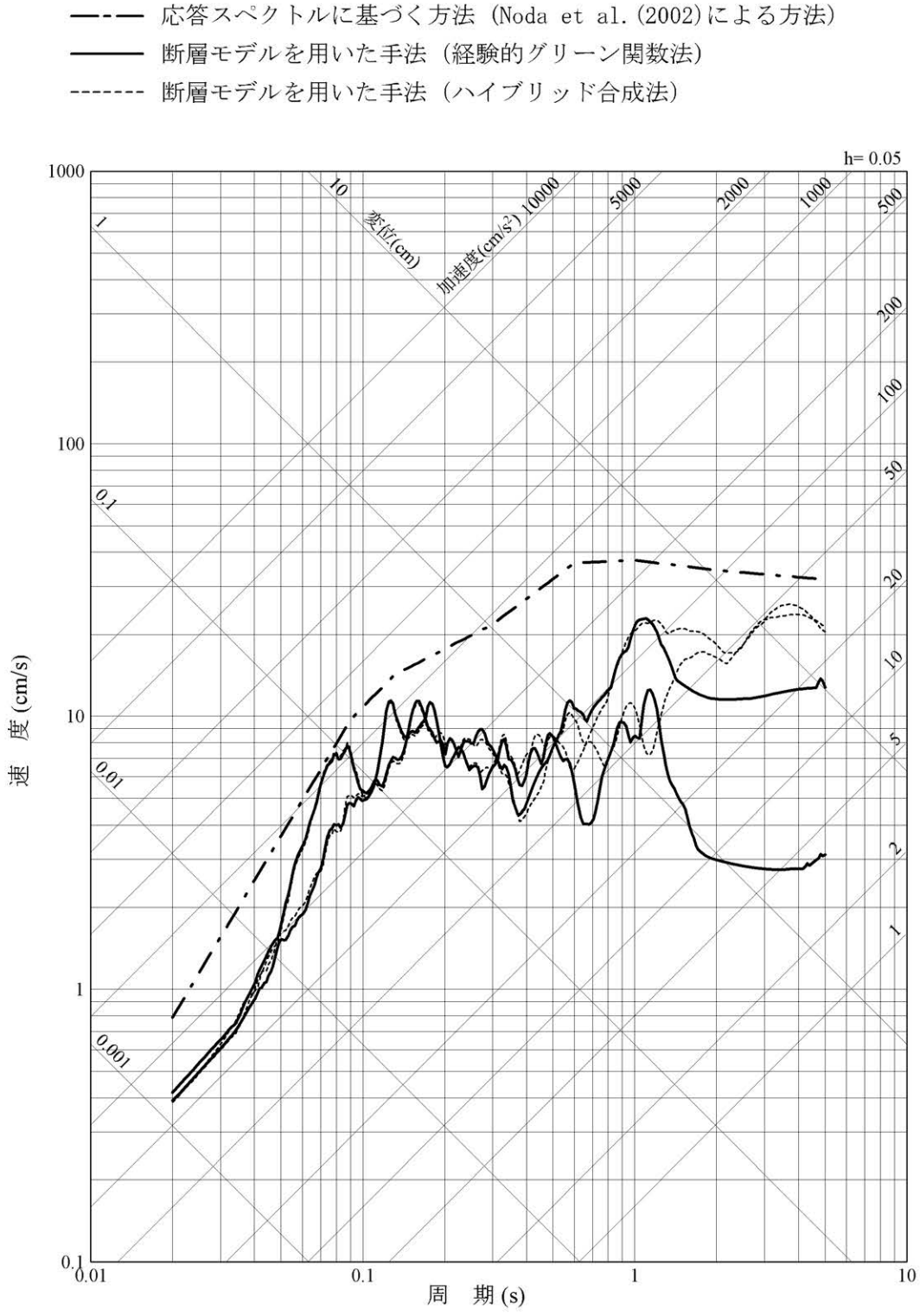
第 5.2.6.22 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



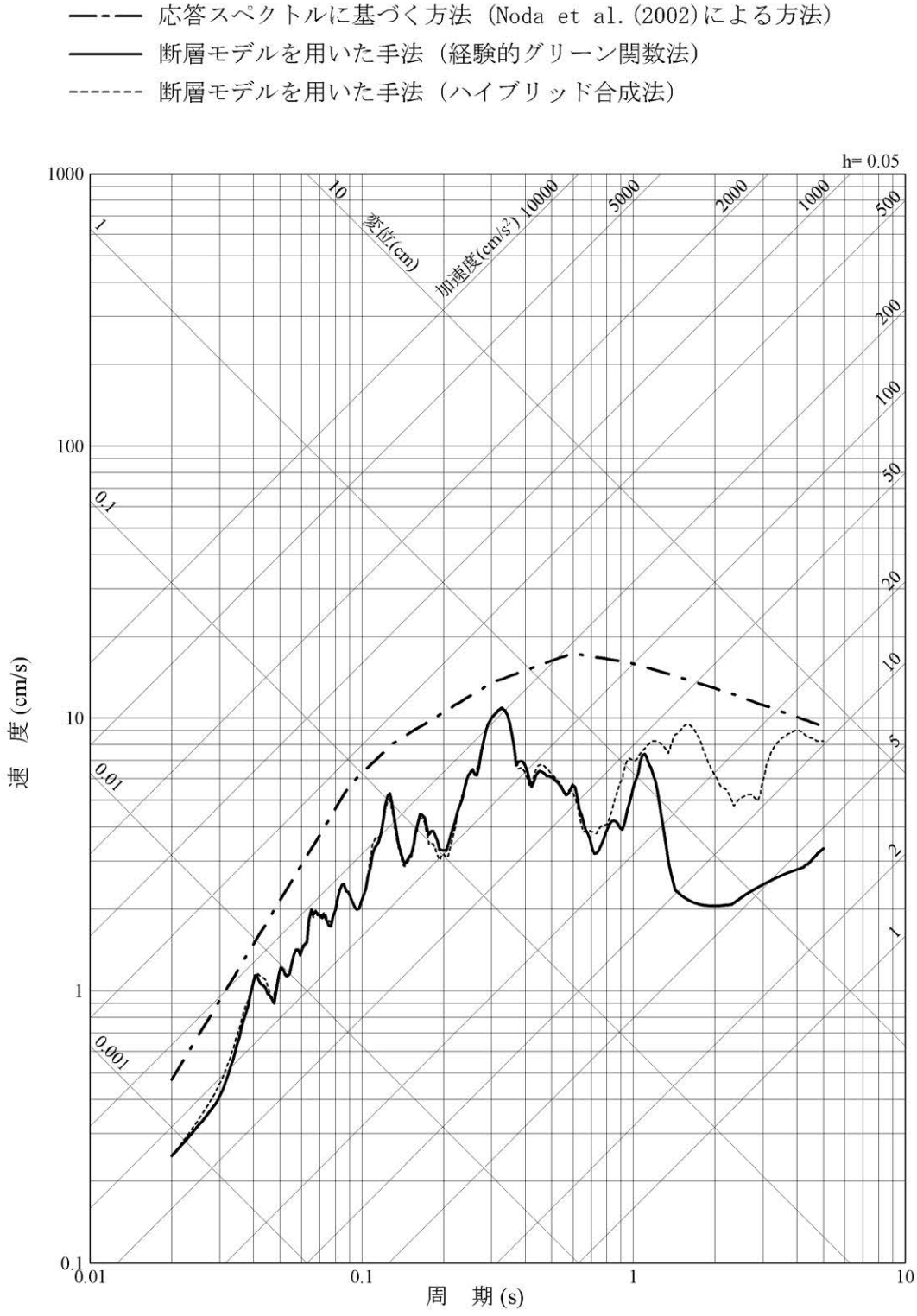
第 5.2.6.23 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース：水平方向）



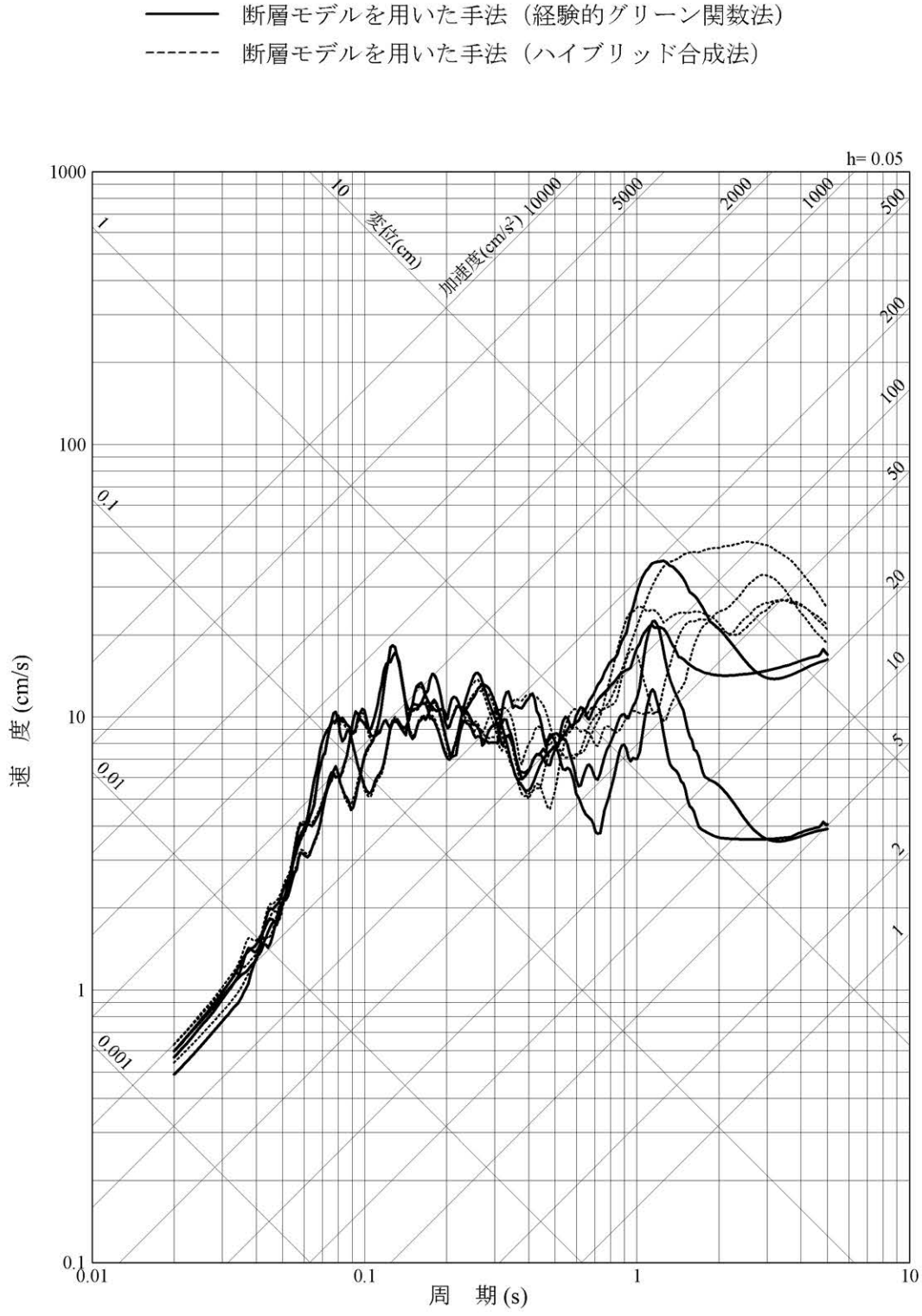
第 5.2.6.24 図　五反田川断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



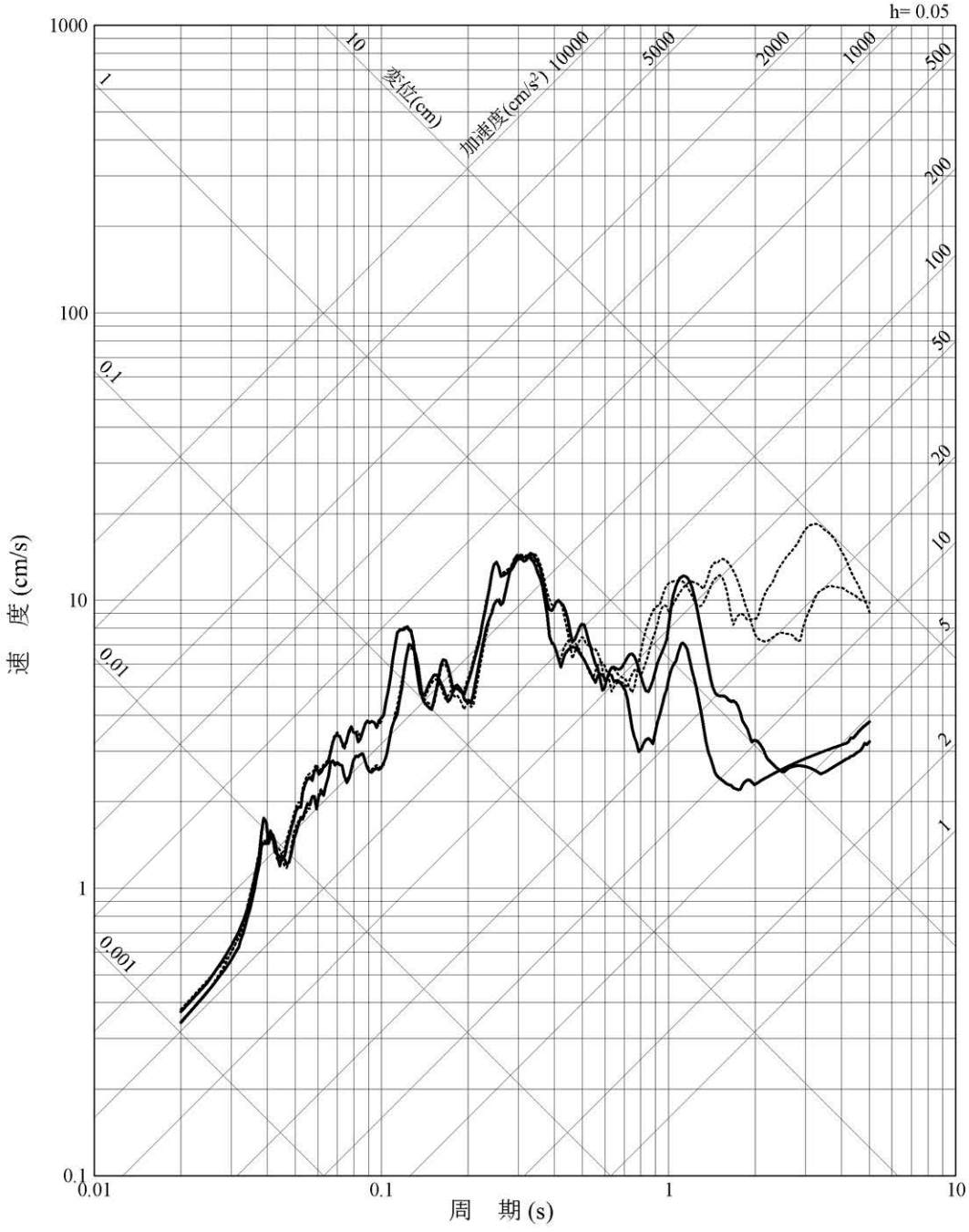
第 5.2.6.25 図　Ｆ－Ａ断層による地震の応答スペクトル（水平方向）



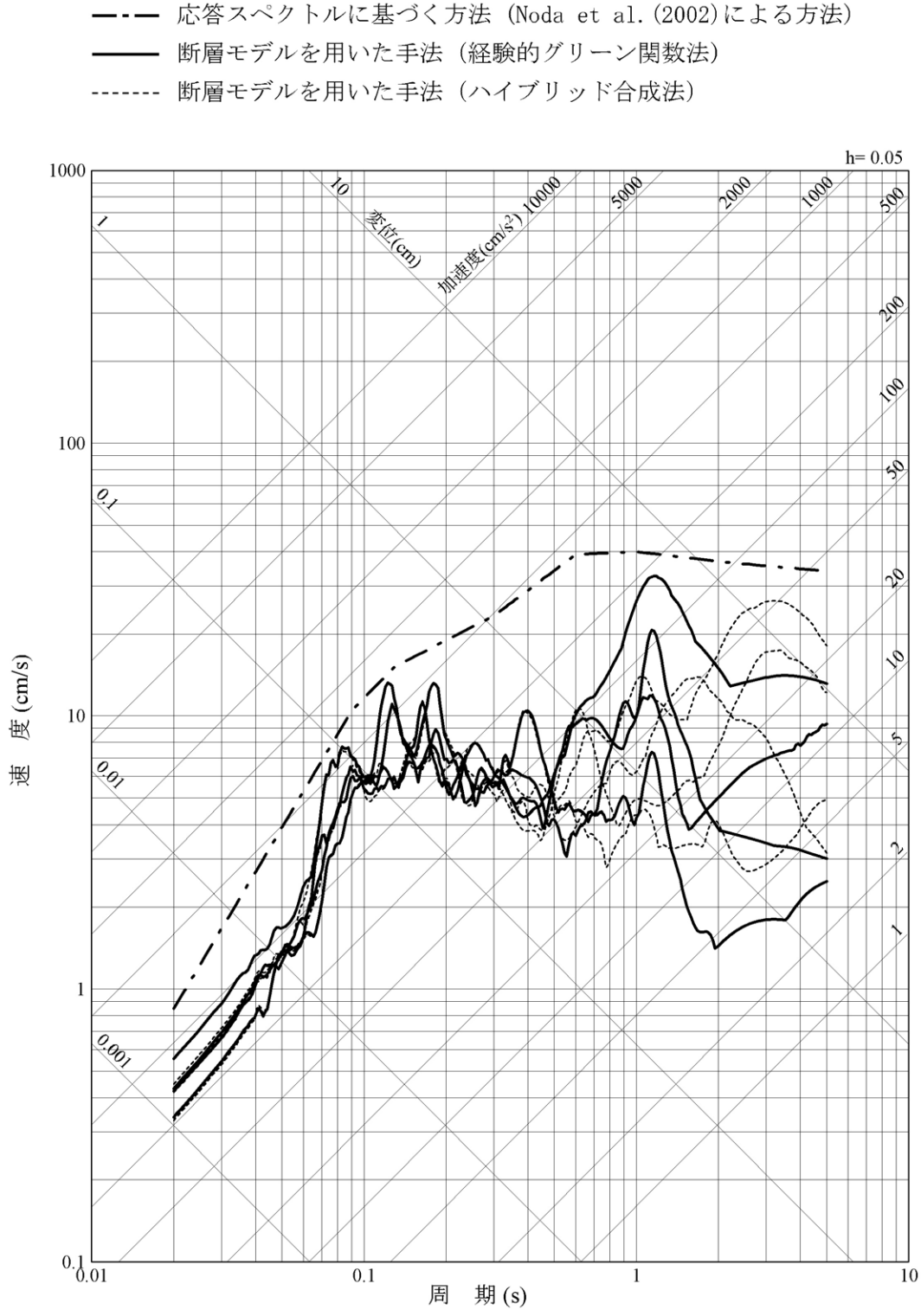
第 5.2.6.26 図　Ｆ－Ａ断層による地震の応答スペクトル（鉛直方向）



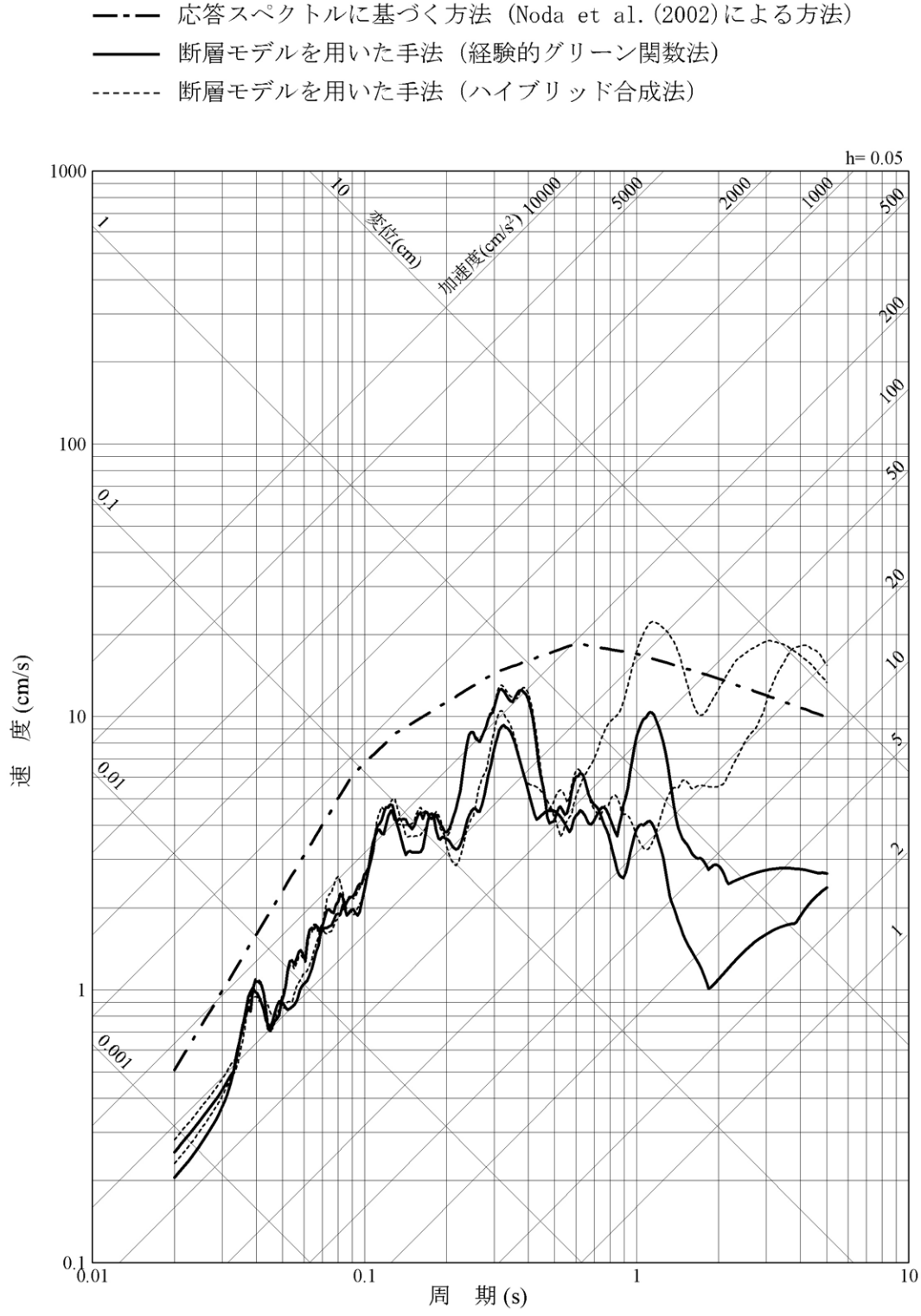
第5.2.6.27図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（応力降下量の不確かさを考慮したケース：水平方向）



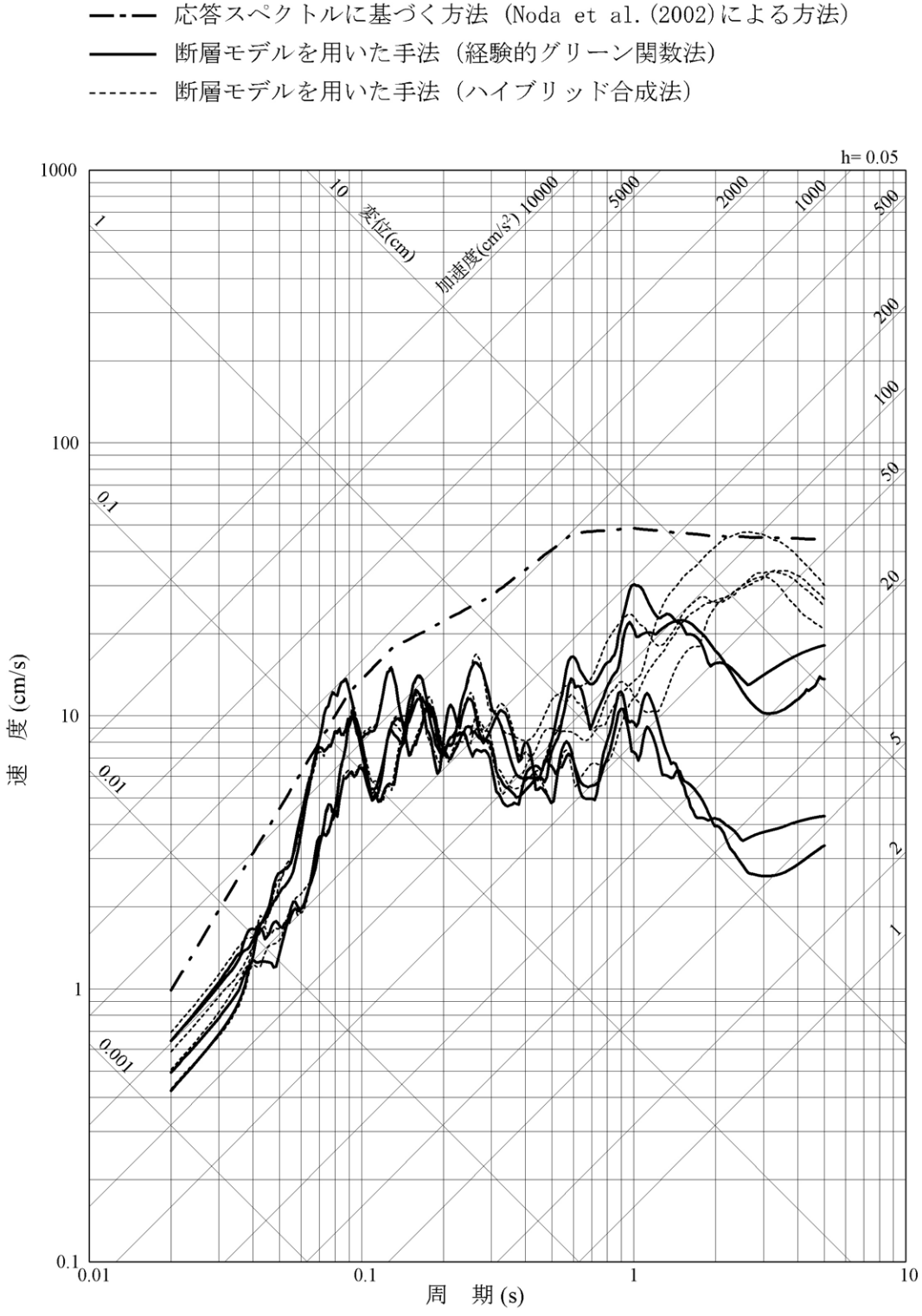
第 5.2.6.28 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（応力降下量の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



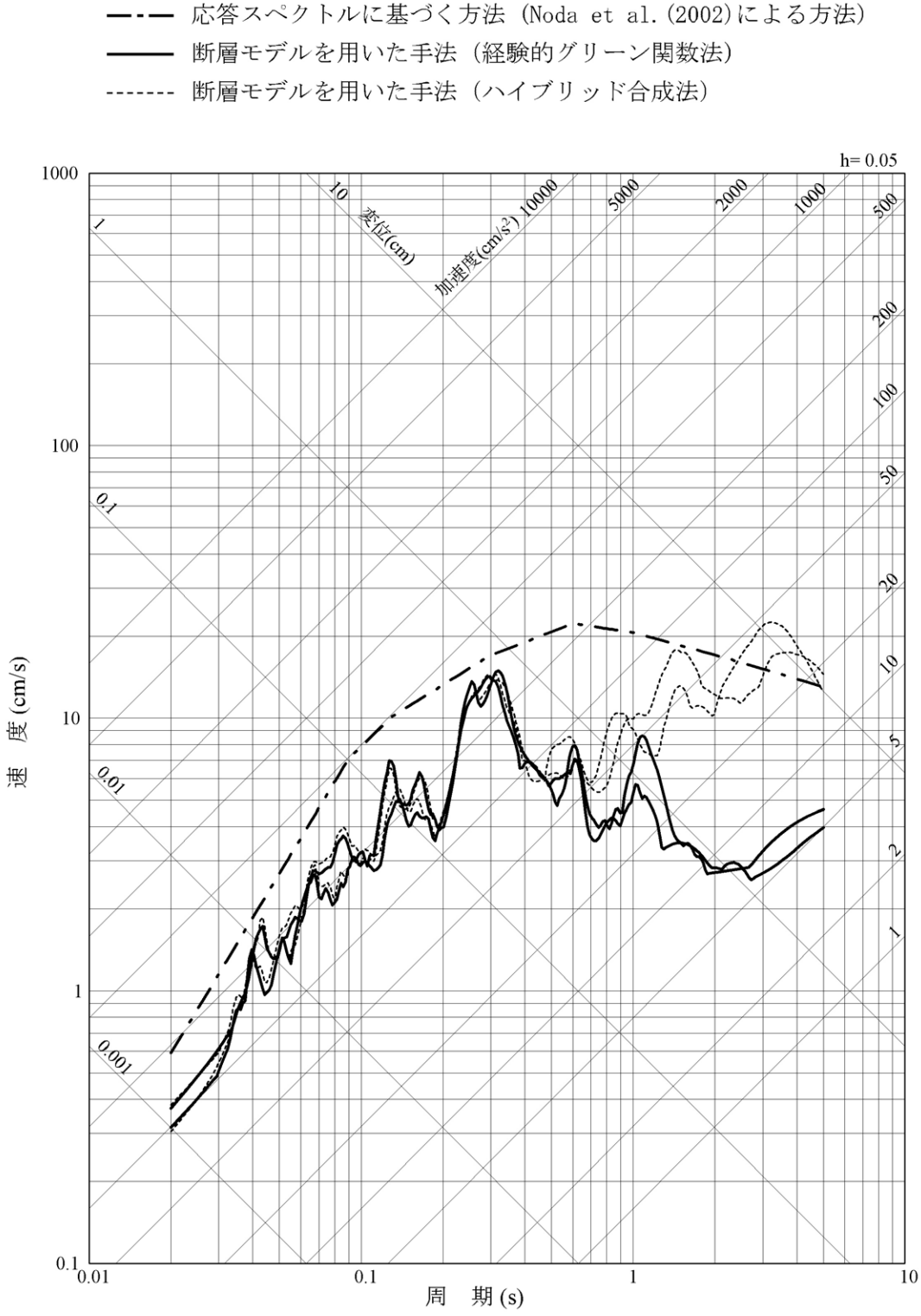
第 5.2.6.29 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース：水平方向）



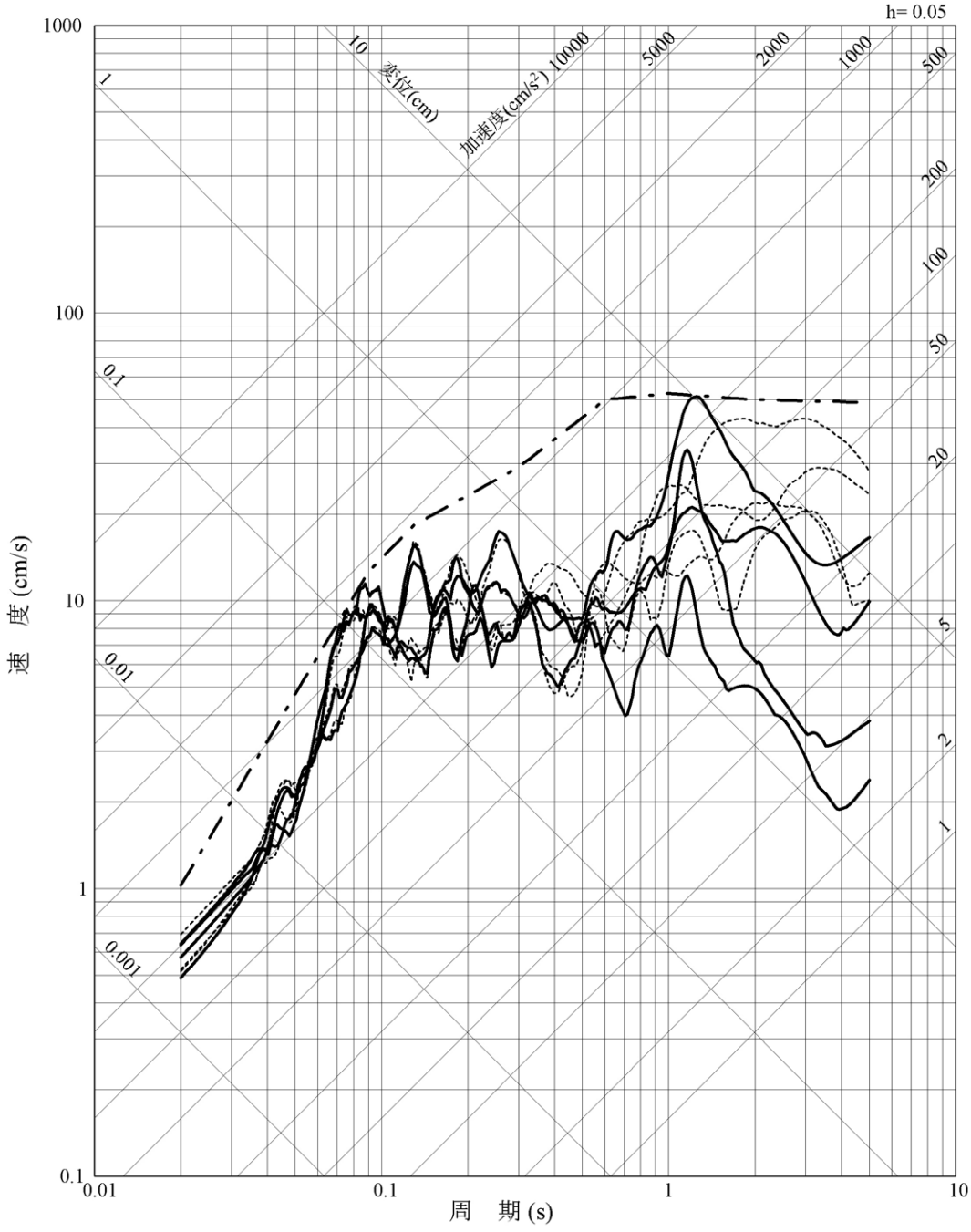
第5.2.6.30図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



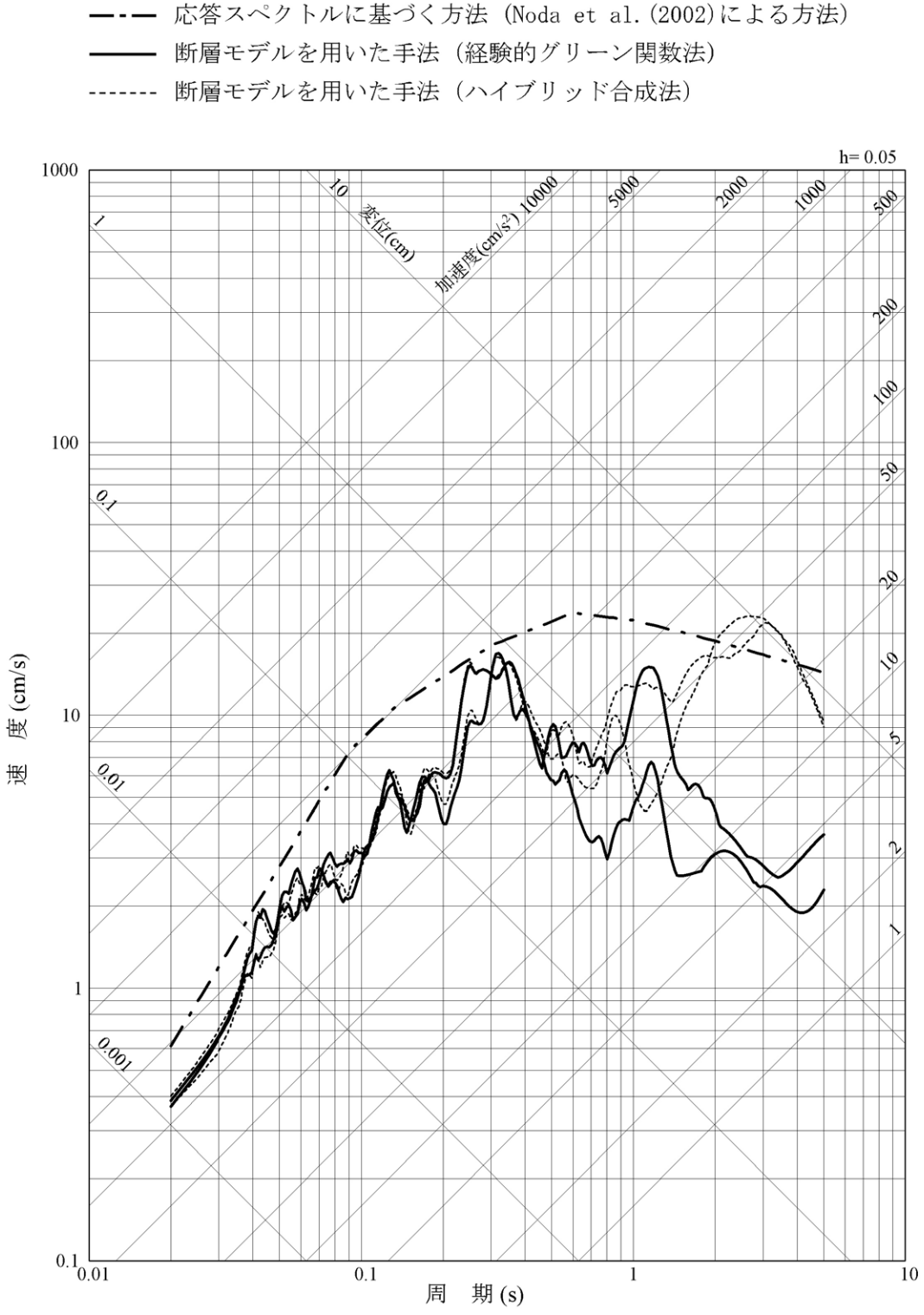
第 5.2.6.31 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がり①の不確かさを考慮したケース：水平方向）



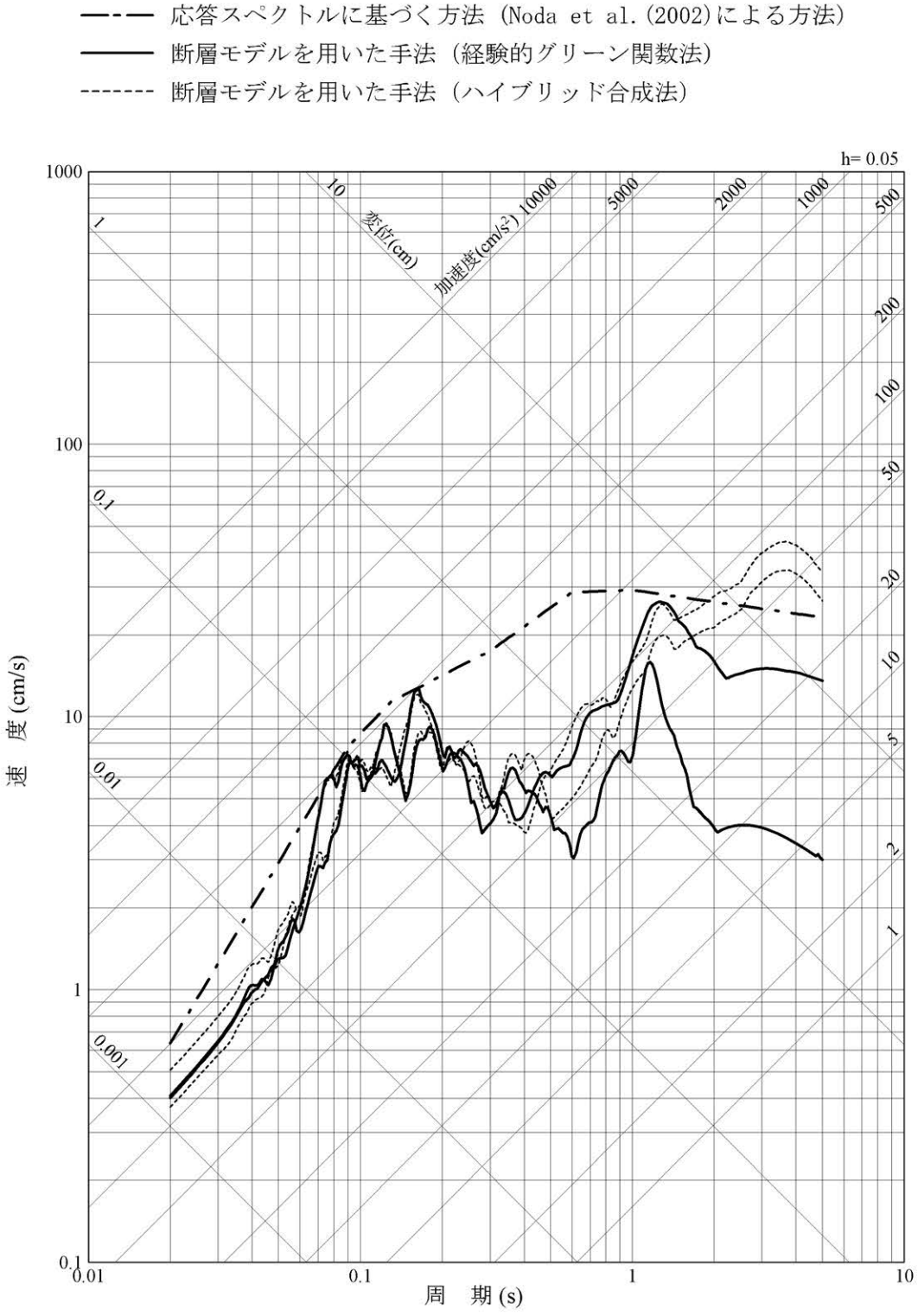
第 5.2.6.32 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がり①の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



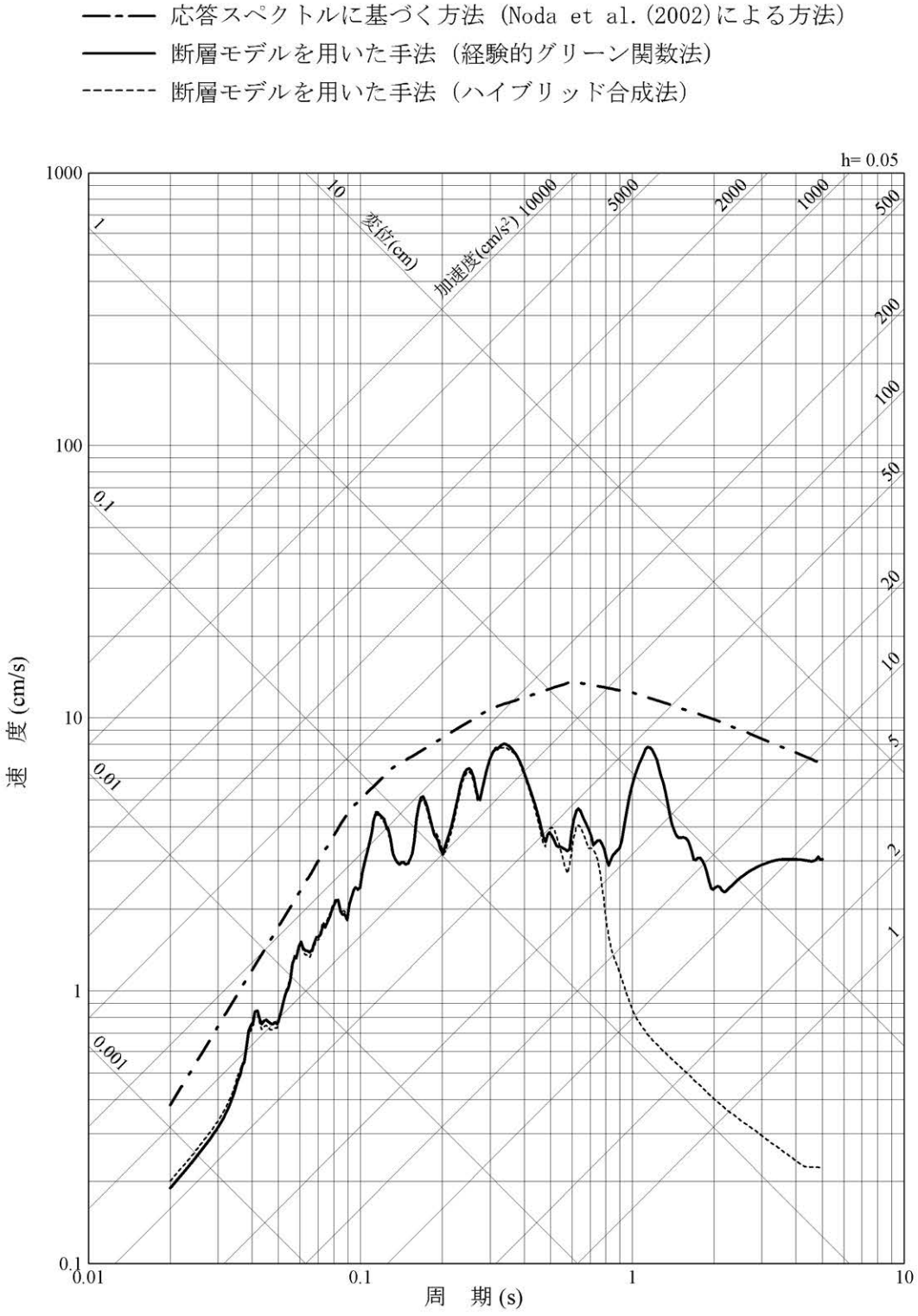
第 5.2.6.33 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がり②の不確かさを考慮したケース：水平方向）



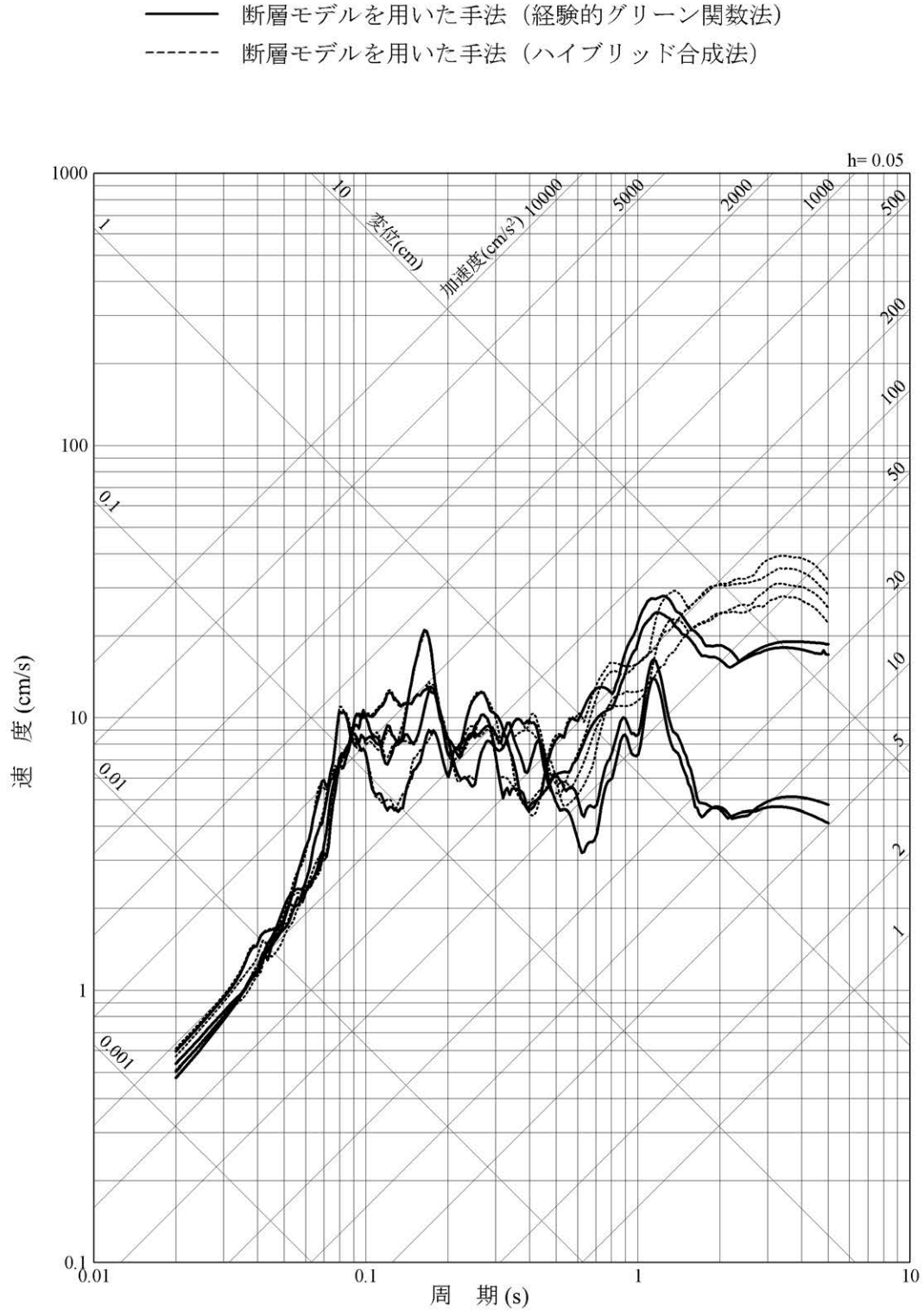
第 5.2.6.34 図　Ｆ－Ａ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がり②の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



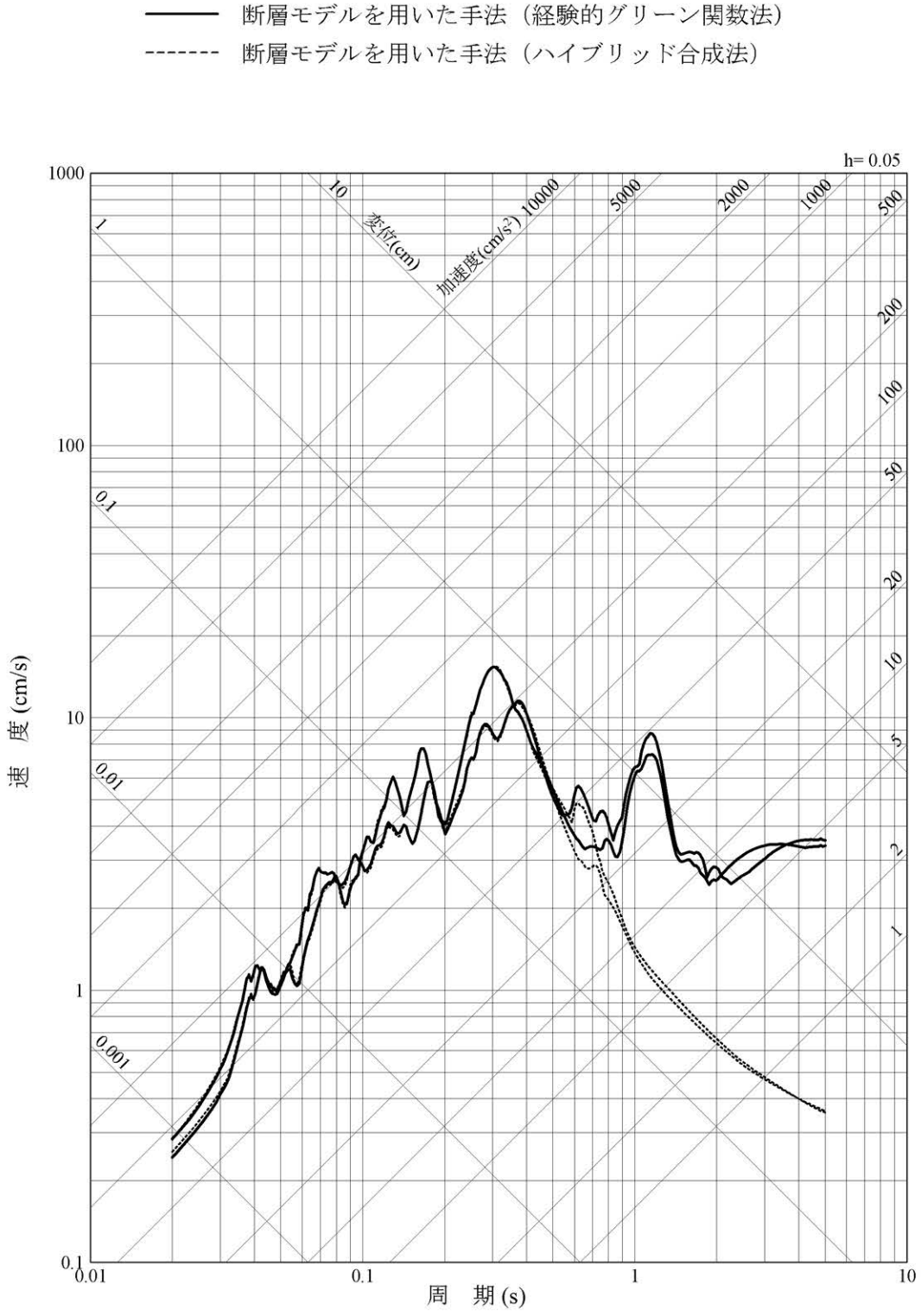
第 5.2.6.35 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の応答スペクトル（水平方向）



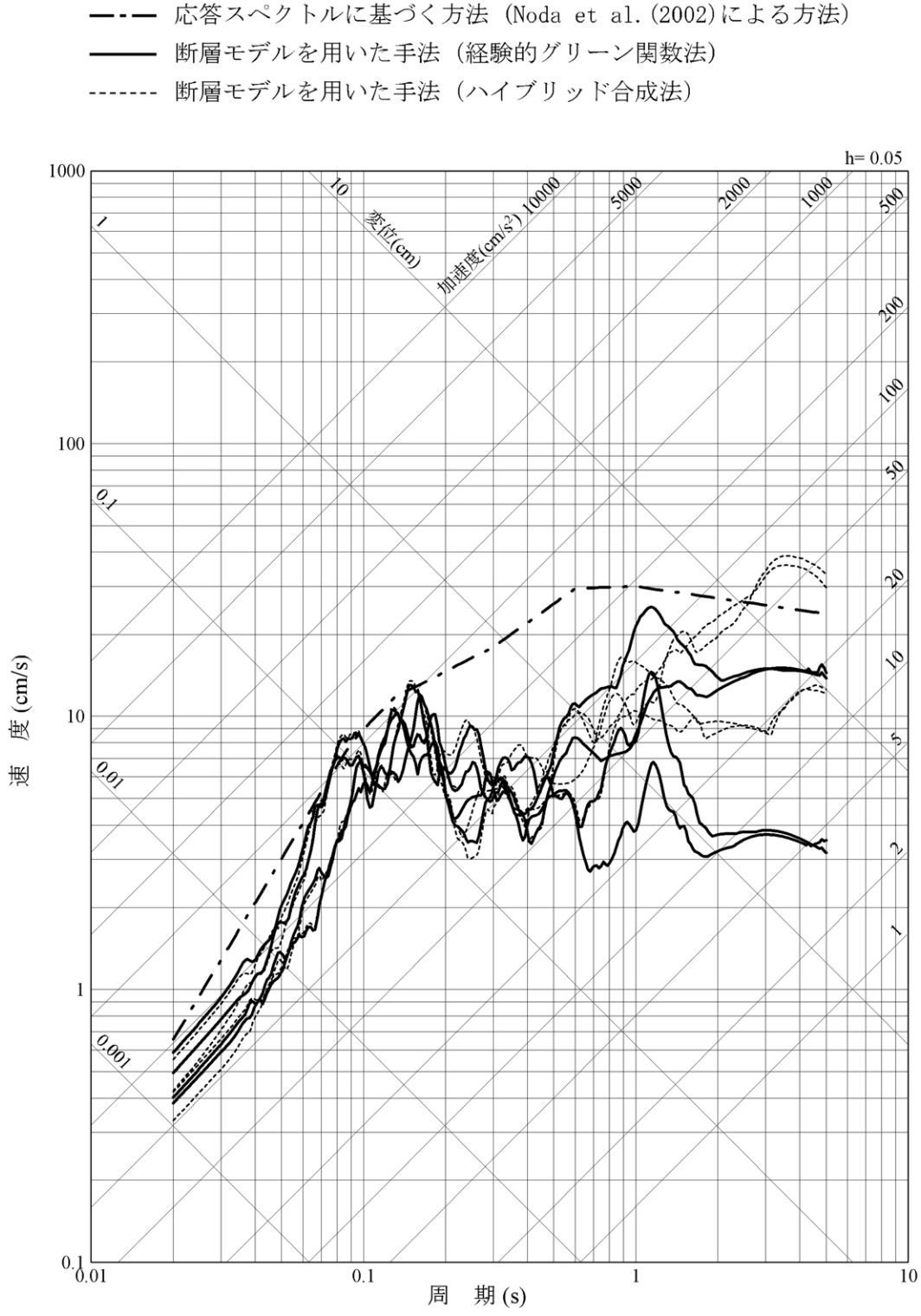
第 5.2.6.36 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の応答スペクトル（鉛直方向）



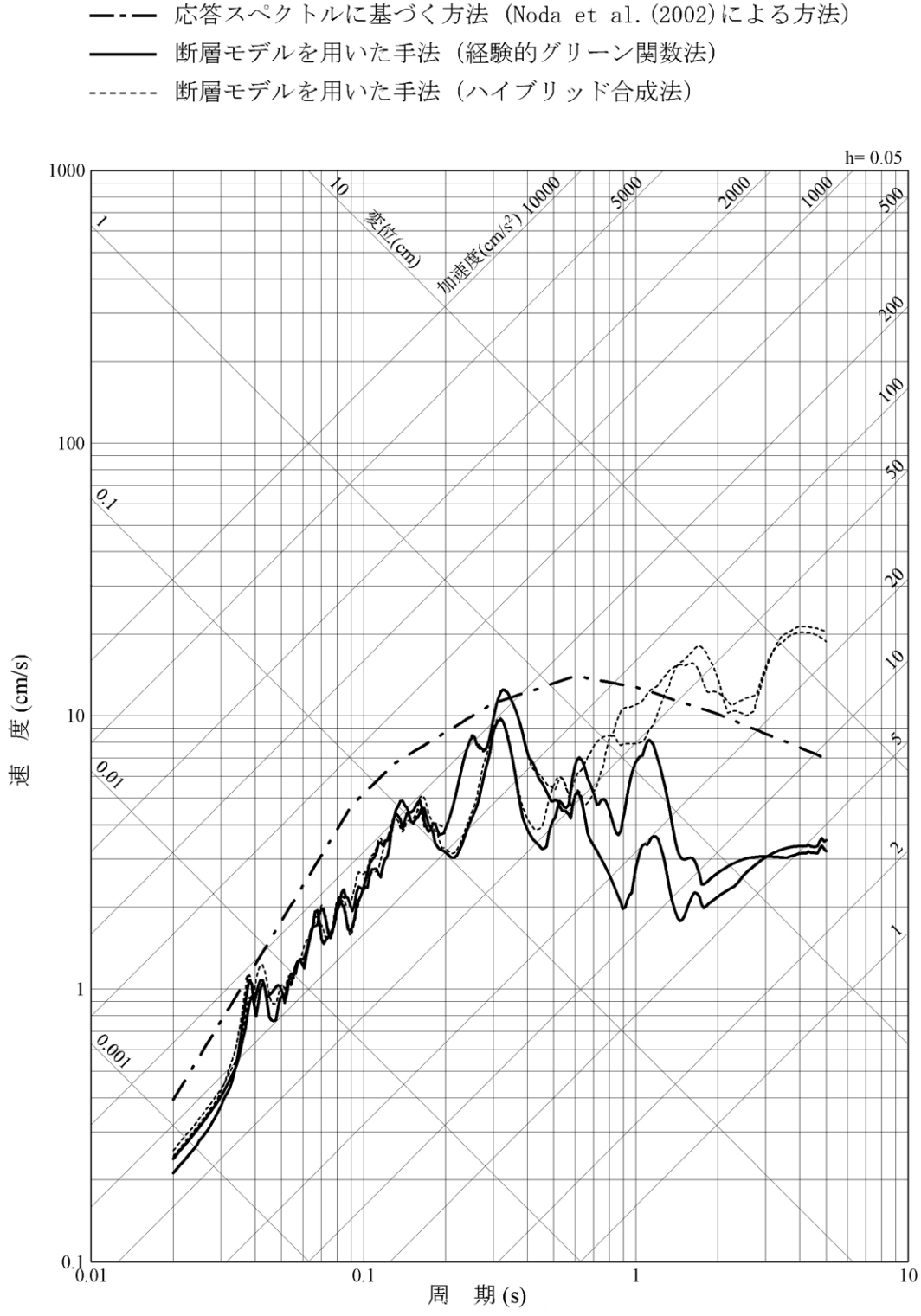
第5.2.6.37図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（応力降下量の不確かさを考慮したケース：水平方向）



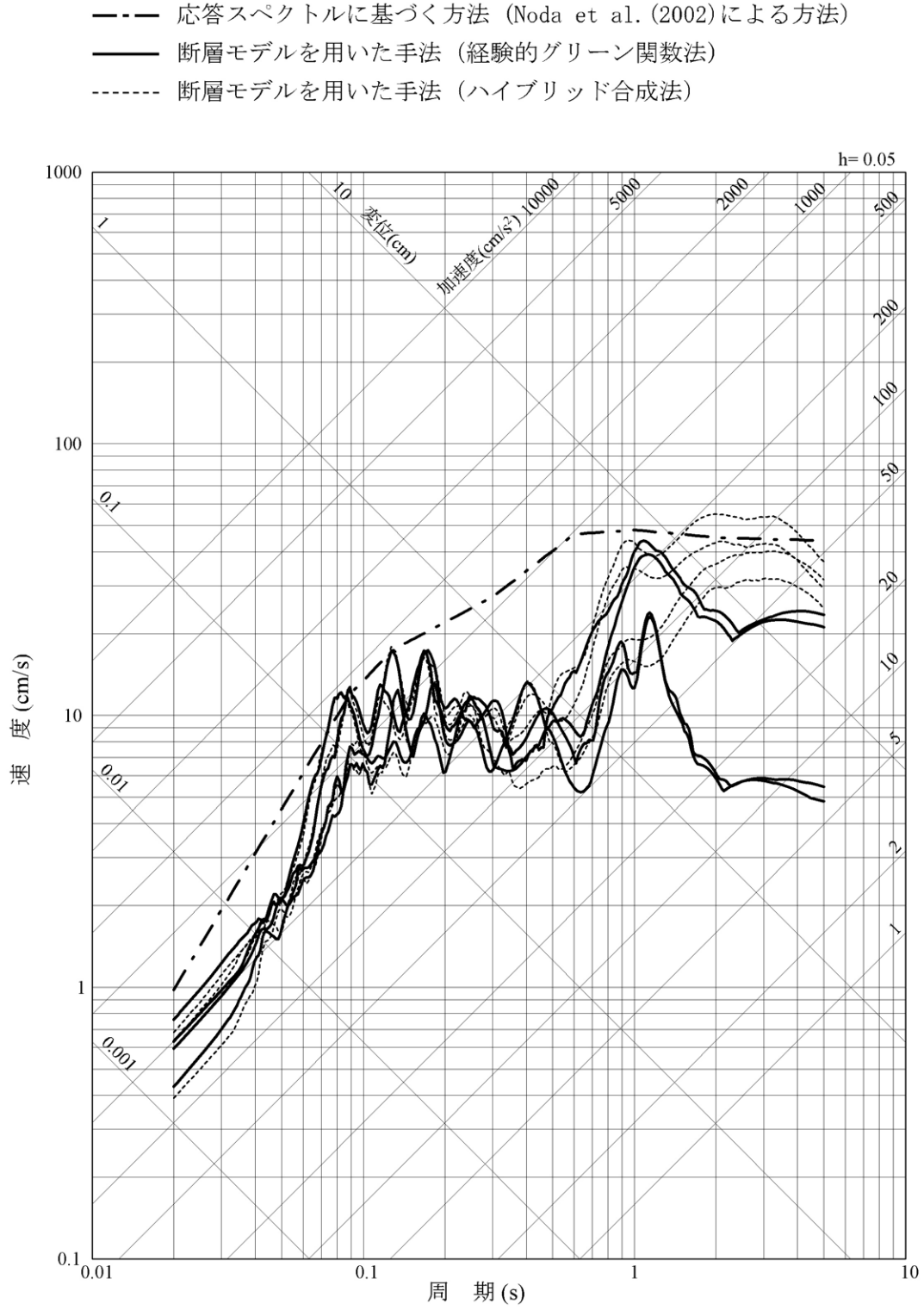
第5.2.6.38図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（応力降下量の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



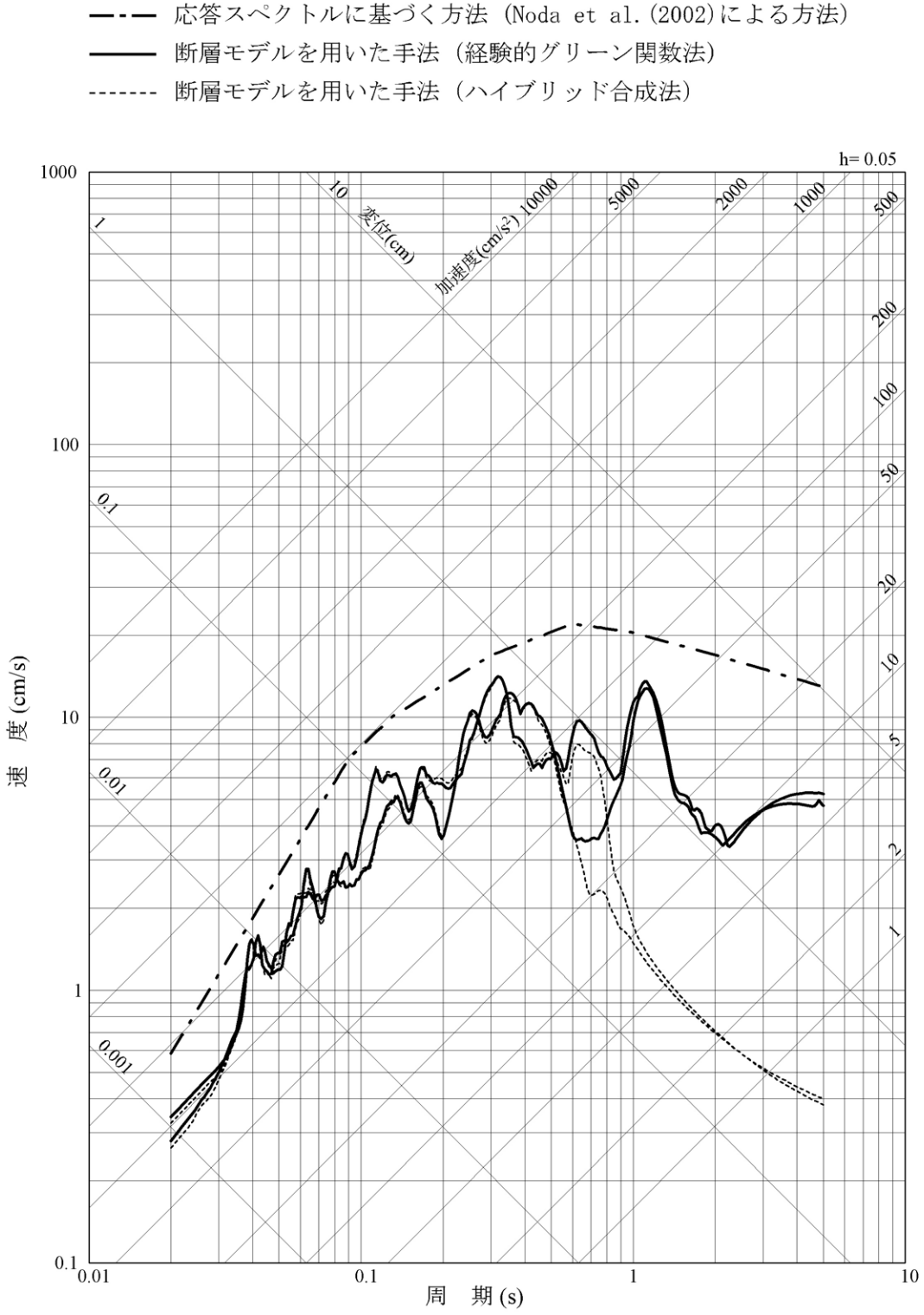
第5.2.6.39図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース：水平方向）



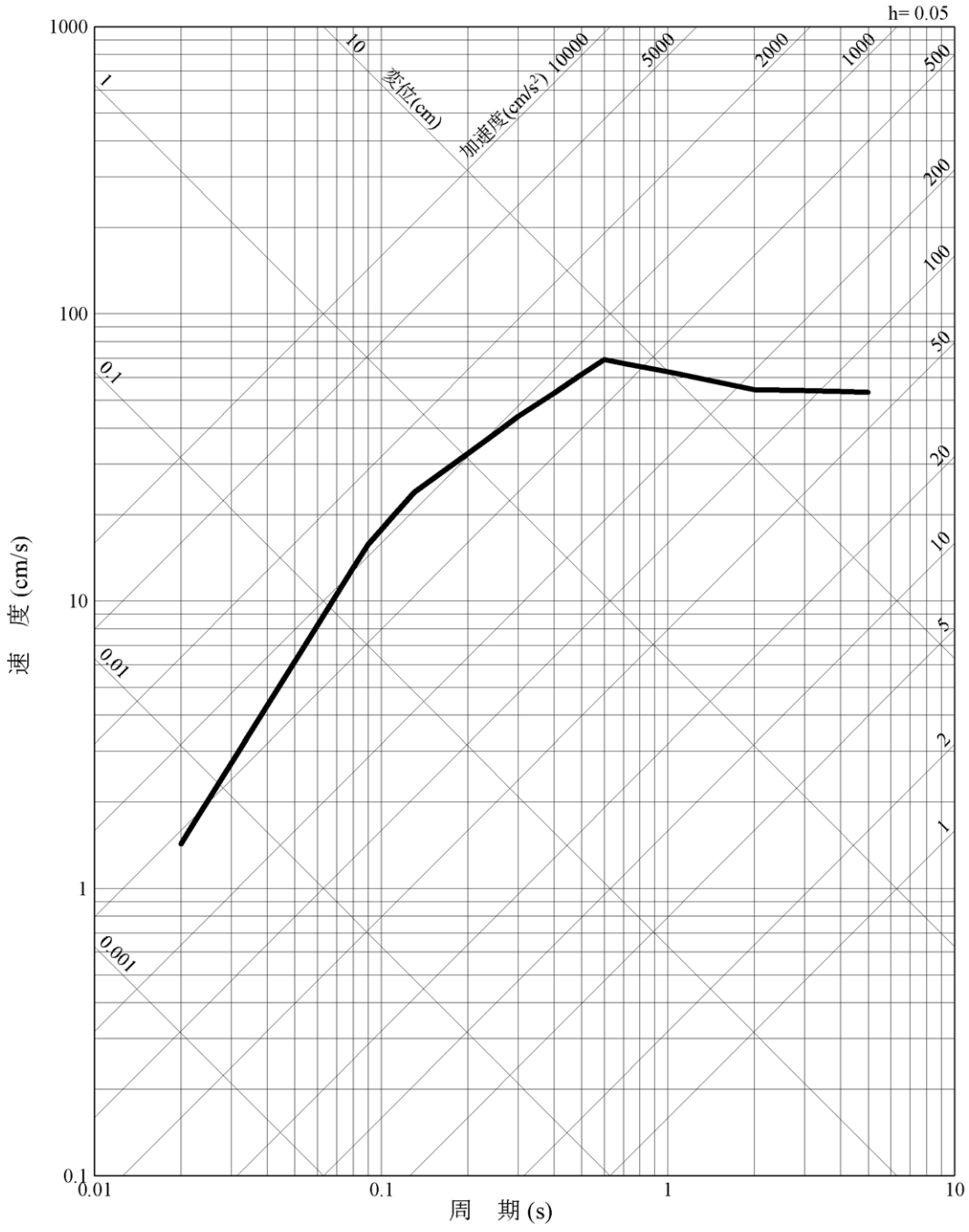
第5.2.6.40図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層傾斜角の不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



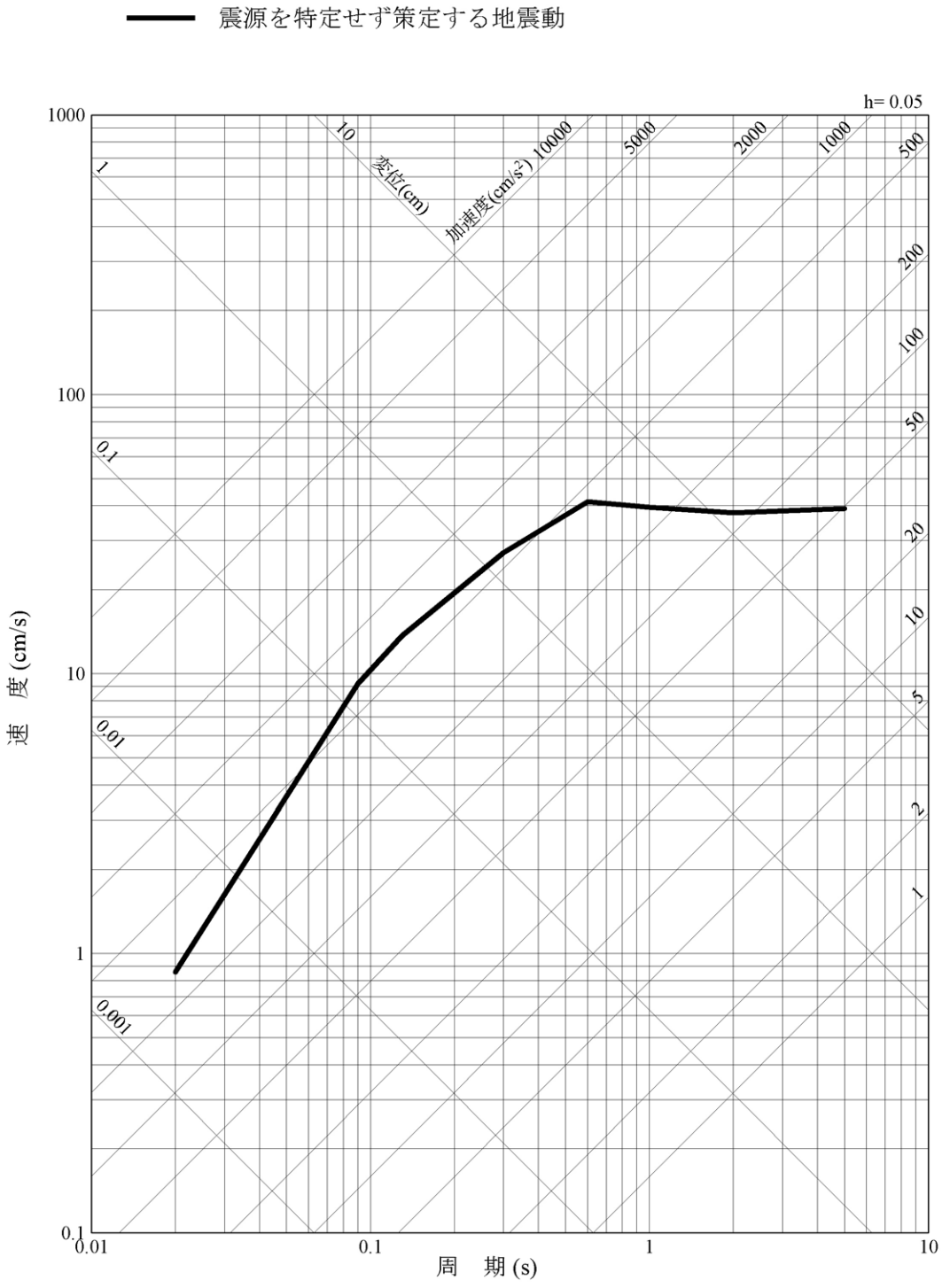
第 5.2.6.41 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース：水平方向）



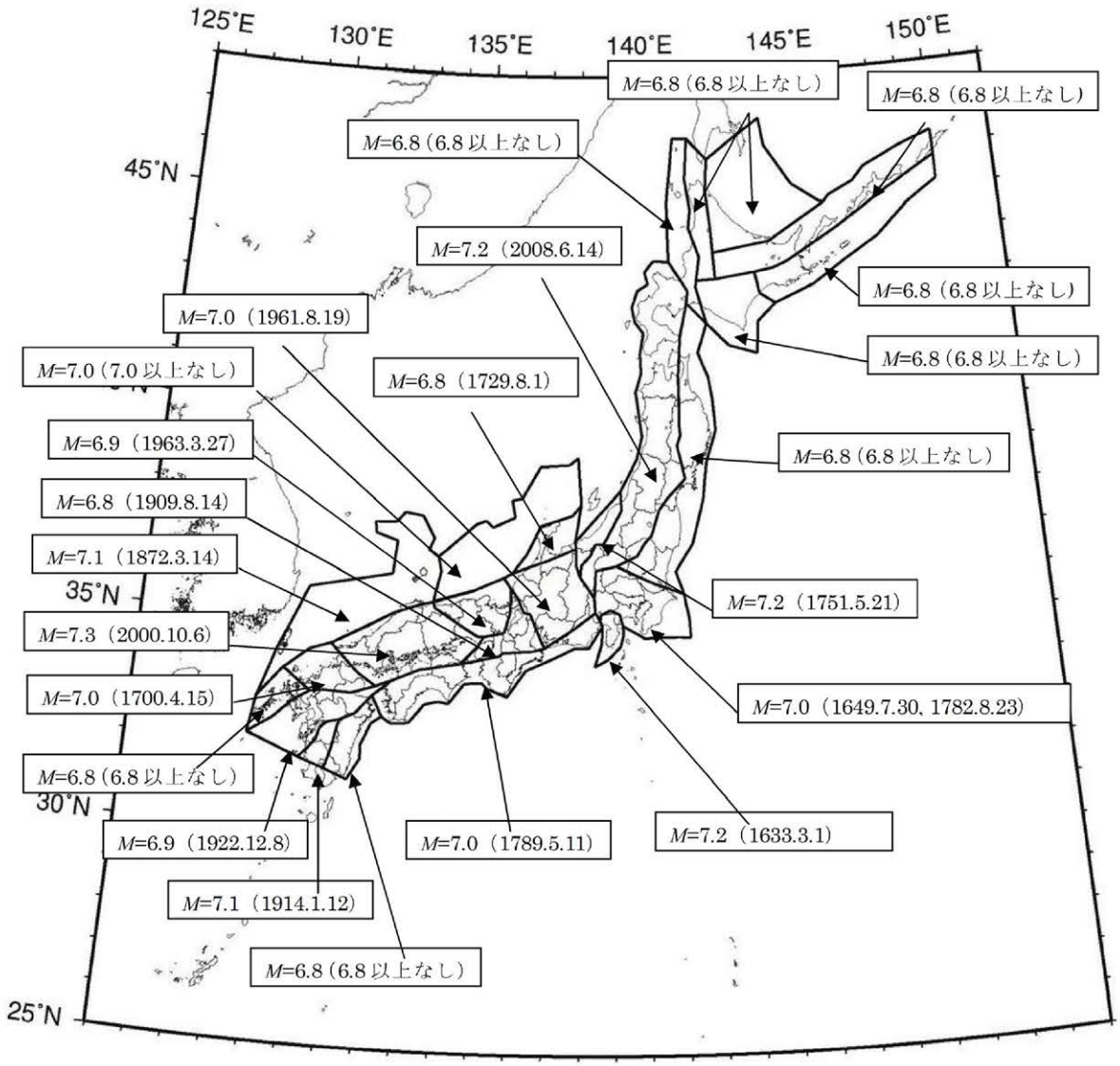
第 5.2.6.42 図　Ｆ－Ｃ断層による地震の不確かさを考慮した地震動の応答スペクトル
（断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース：鉛直方向）



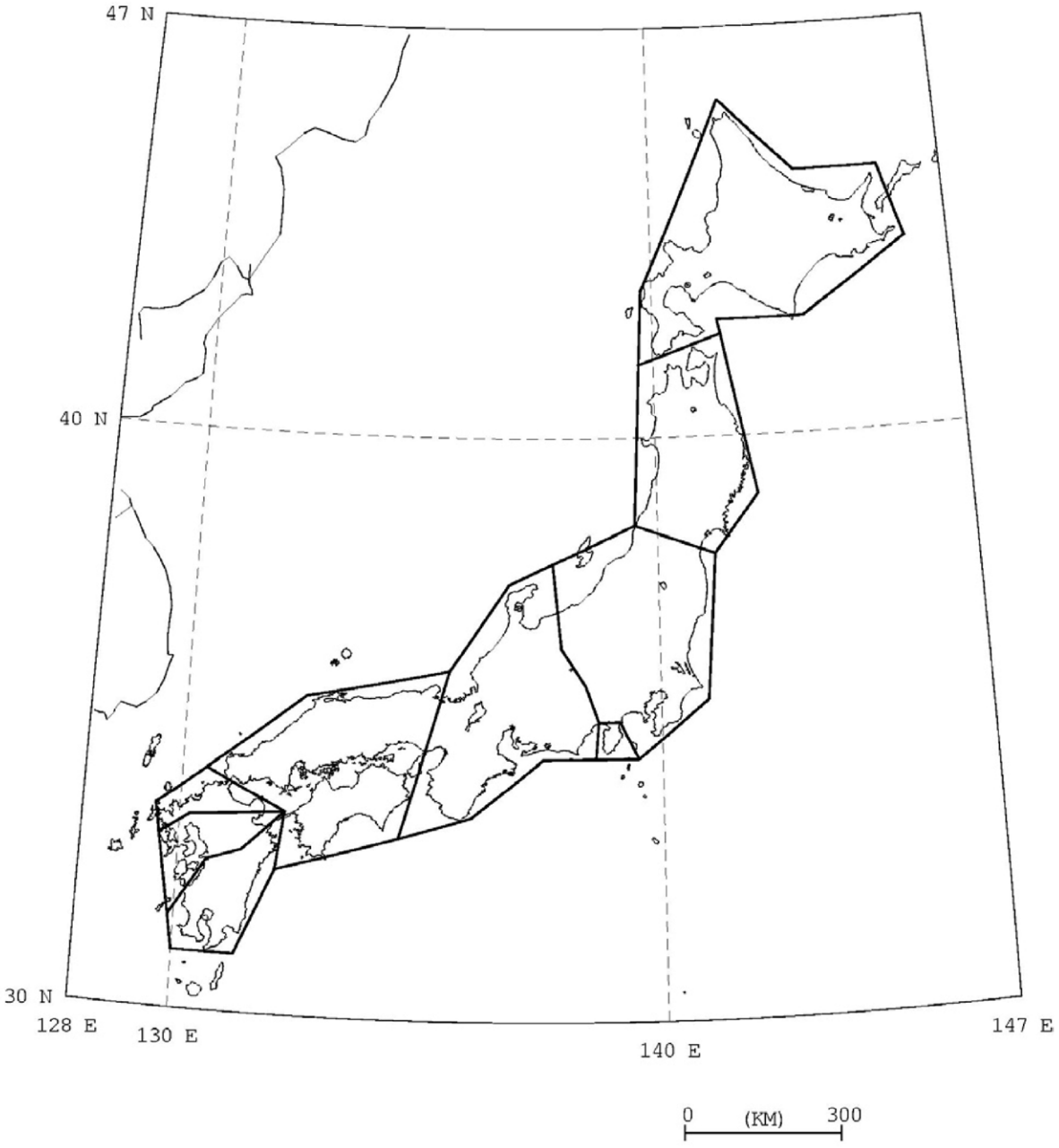
第 5.2.6.43 図　震源を特定せず策定する地震動の応答スペクトル（水平方向）



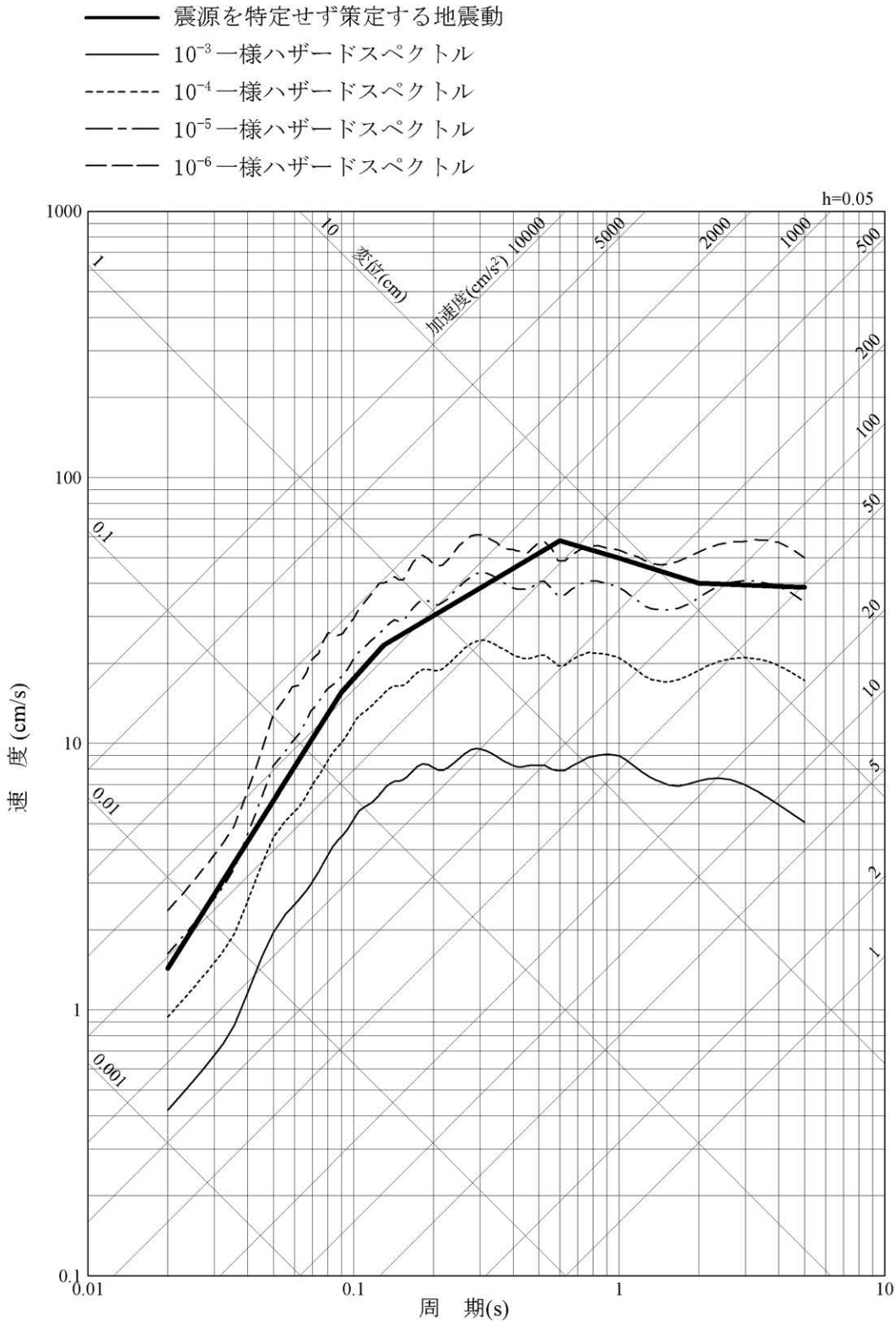
第 5.2.6.44 図　震源を特定せず策定する地震動の応答スペクトル（鉛直方向）



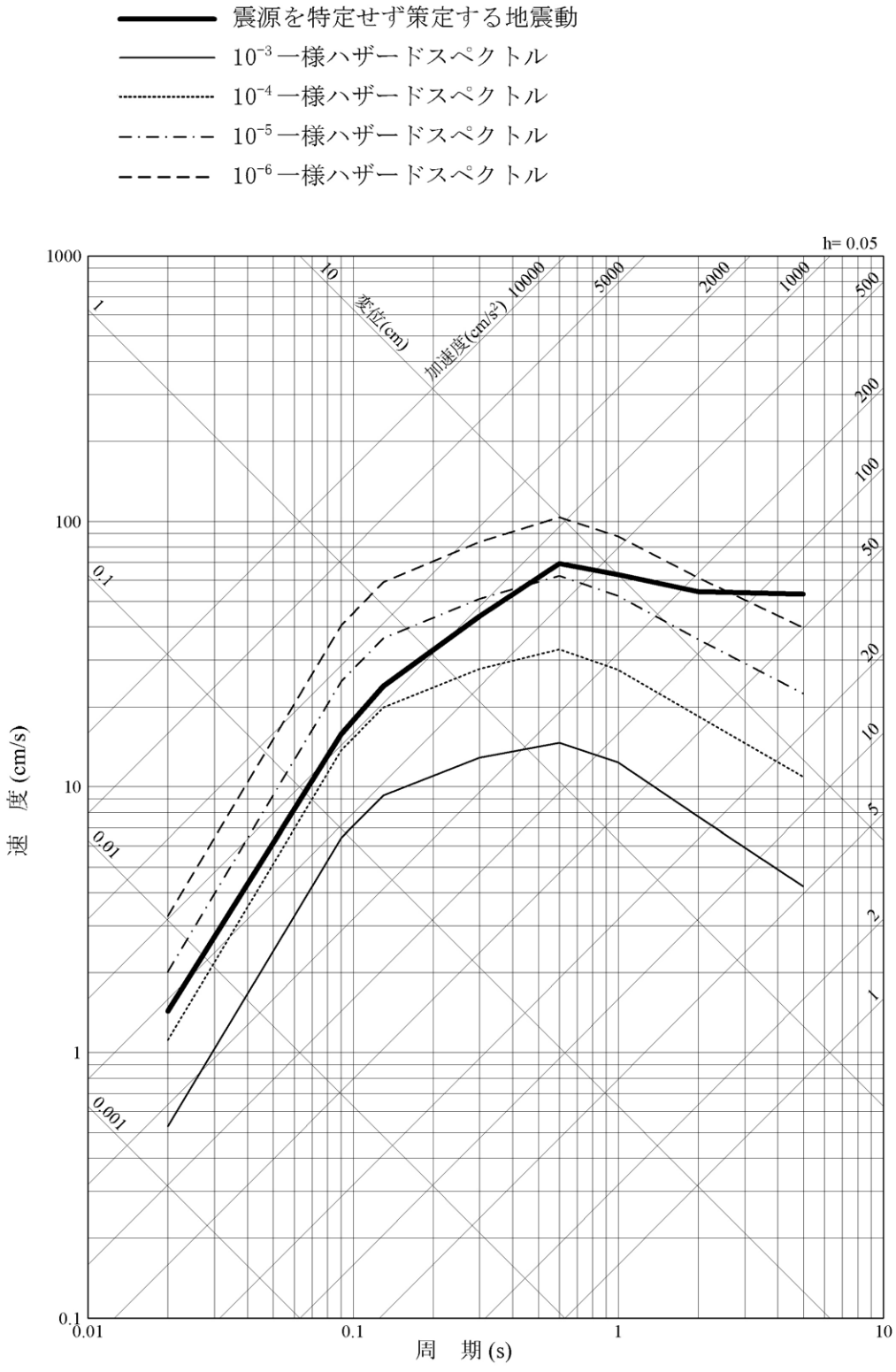
第 5.2.6.45 図　地震調査委員会(2009)による領域震源の区分



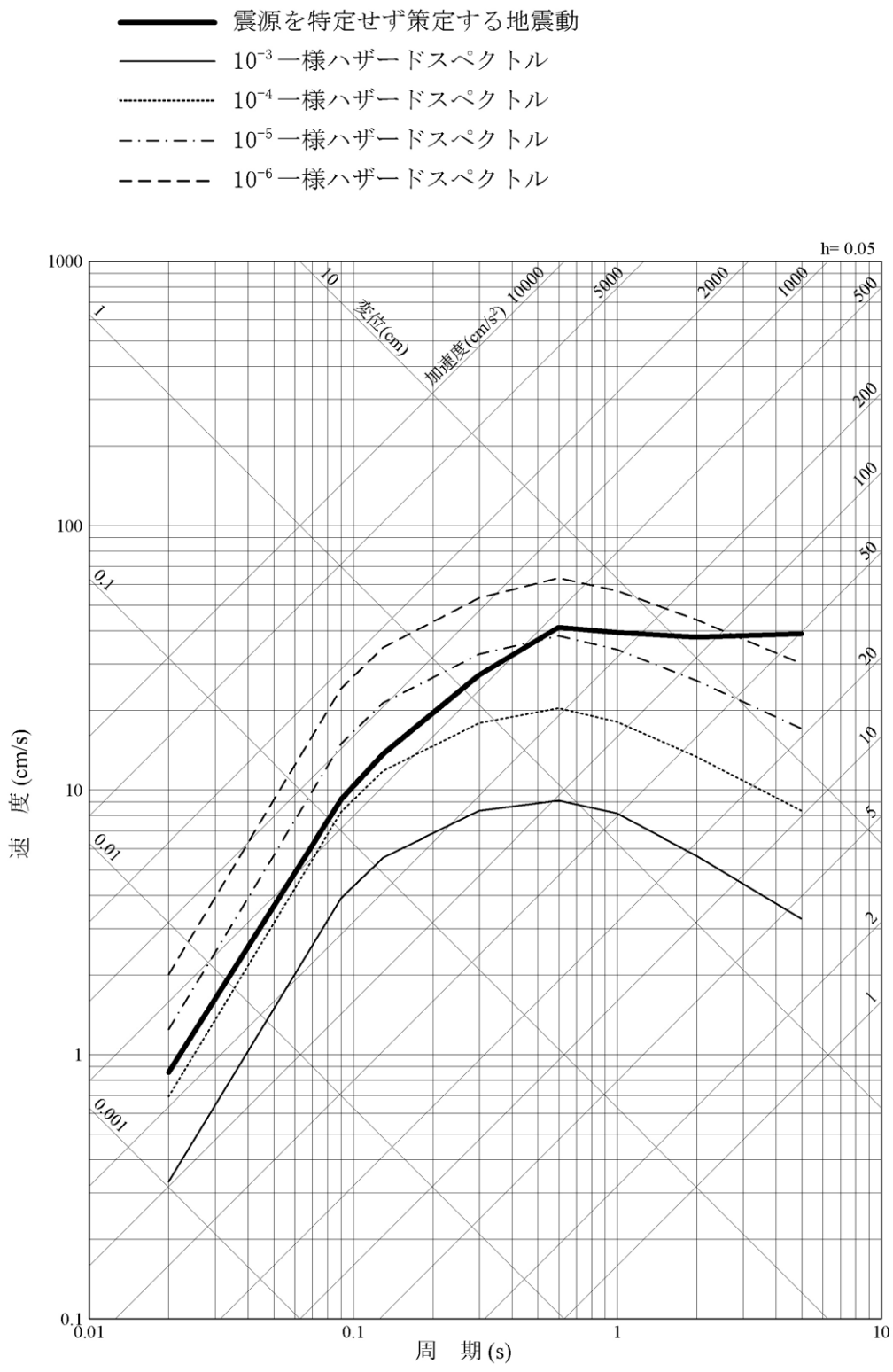
第 5.2.6.46 図　原子力安全基盤機構(2005)による領域区分



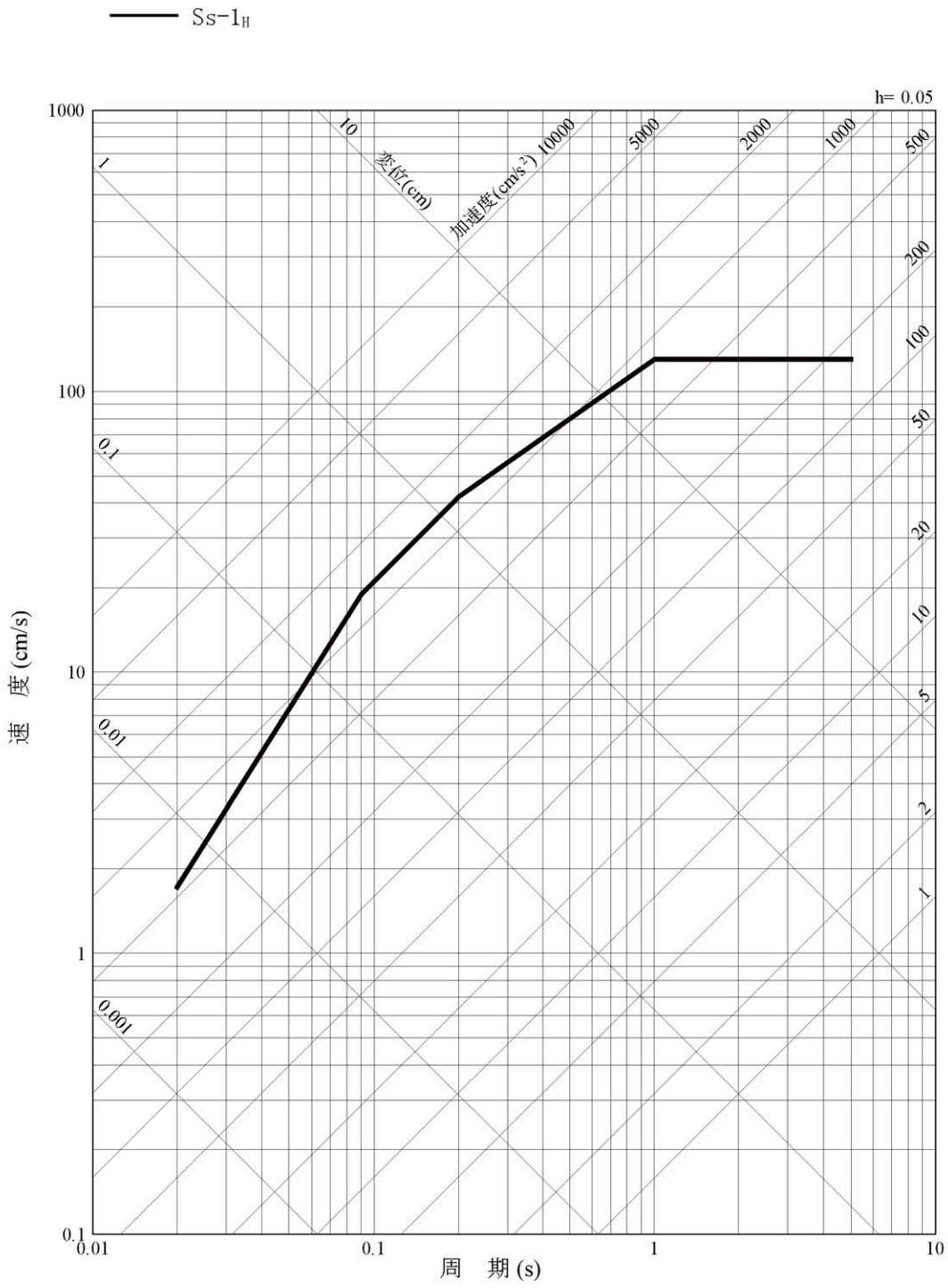
第 5.2.6.47 図　震源を特定せず策定する地震動の年超過確率（原子力安全基盤機構(2005)による地震基盤における評価との比較、水平方向）



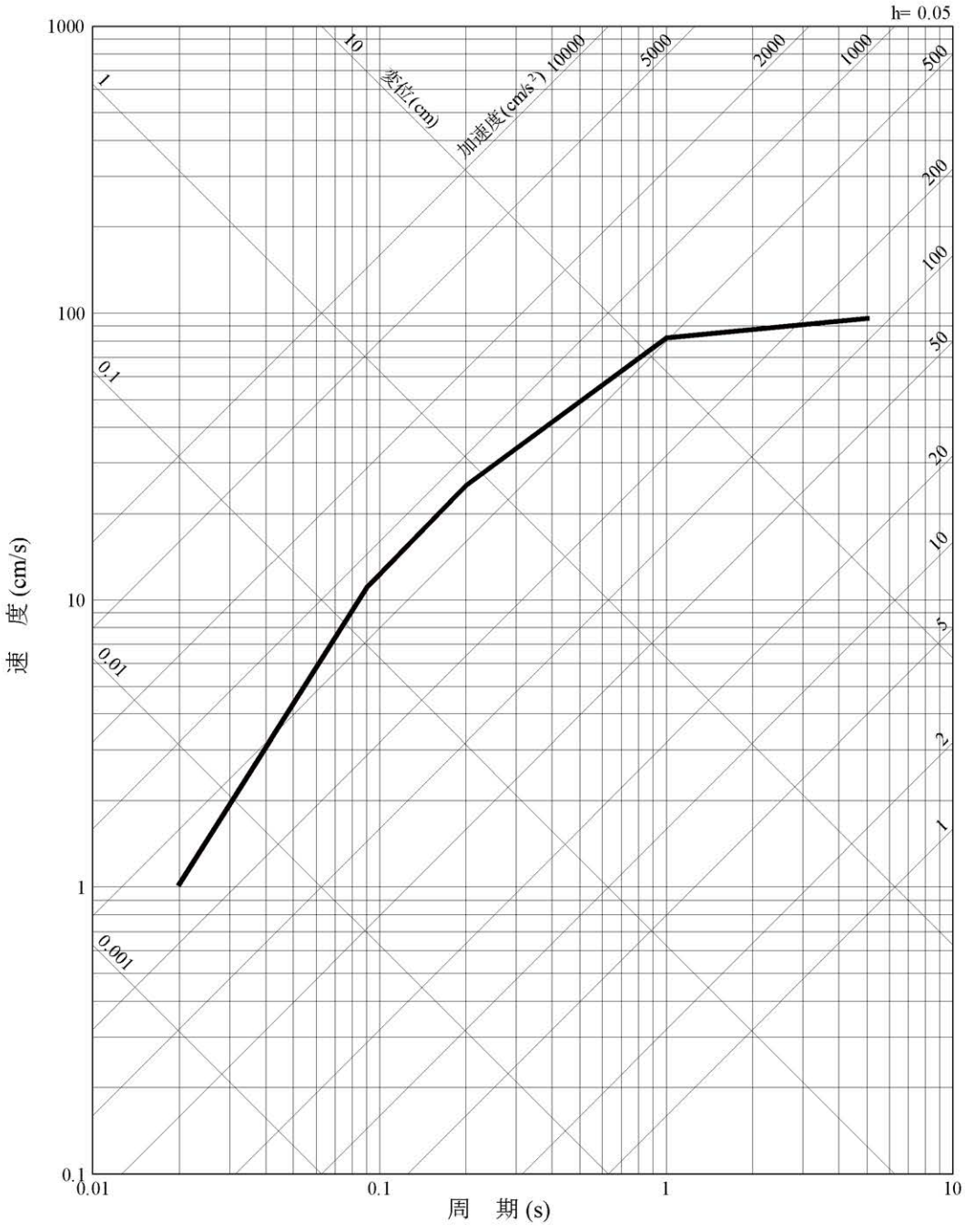
第 5.2.6.48 図　震源を特定せず策定する地震動の応答スペクトル及び
領域震源による地震動の一様ハザードスペクトル（水平方向）



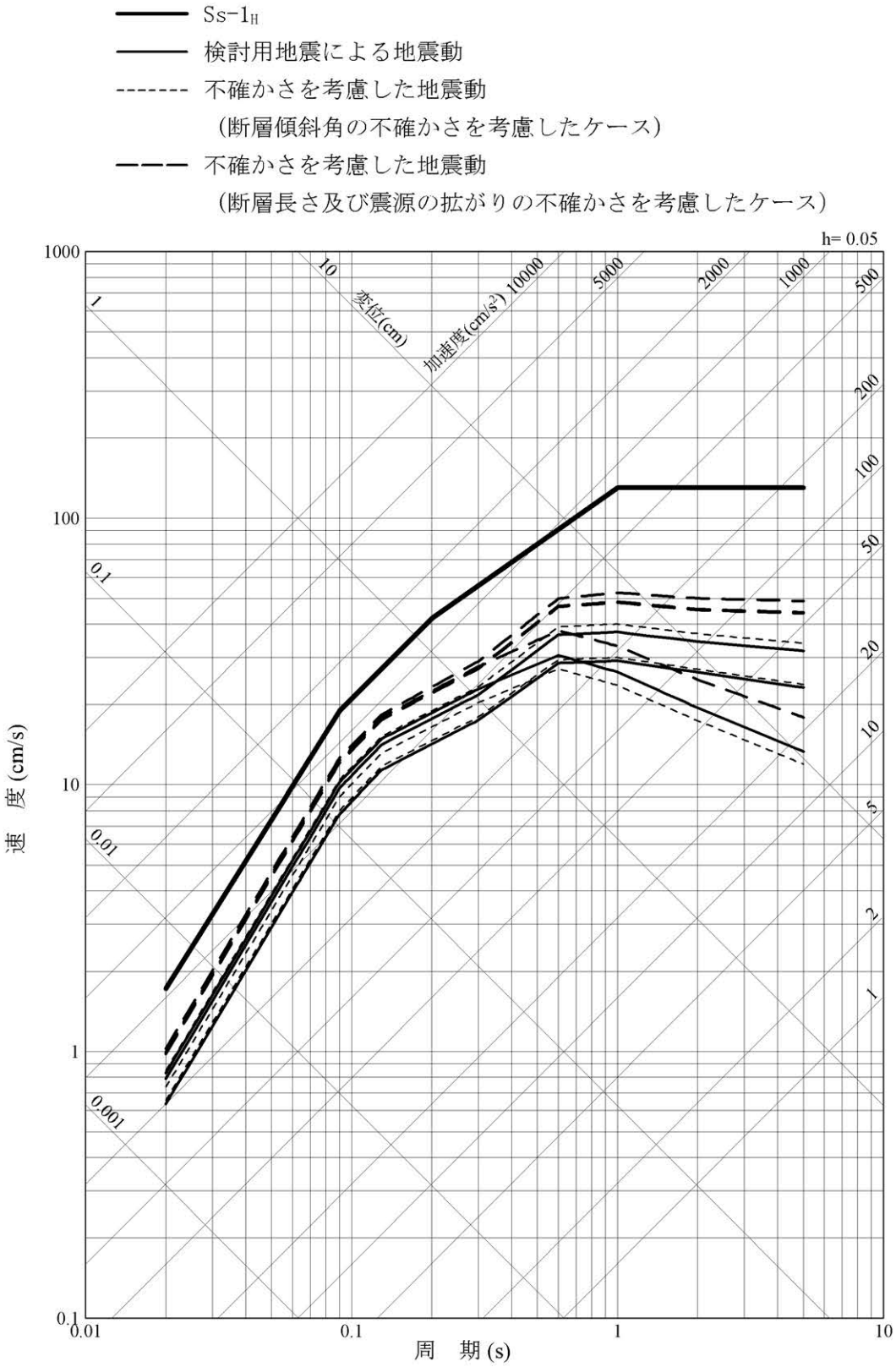
第 5.2.6.49 図　震源を特定せず策定する地震動の応答スペクトル及び
領域震源による地震動の一様ハザードスペクトル（鉛直方向）



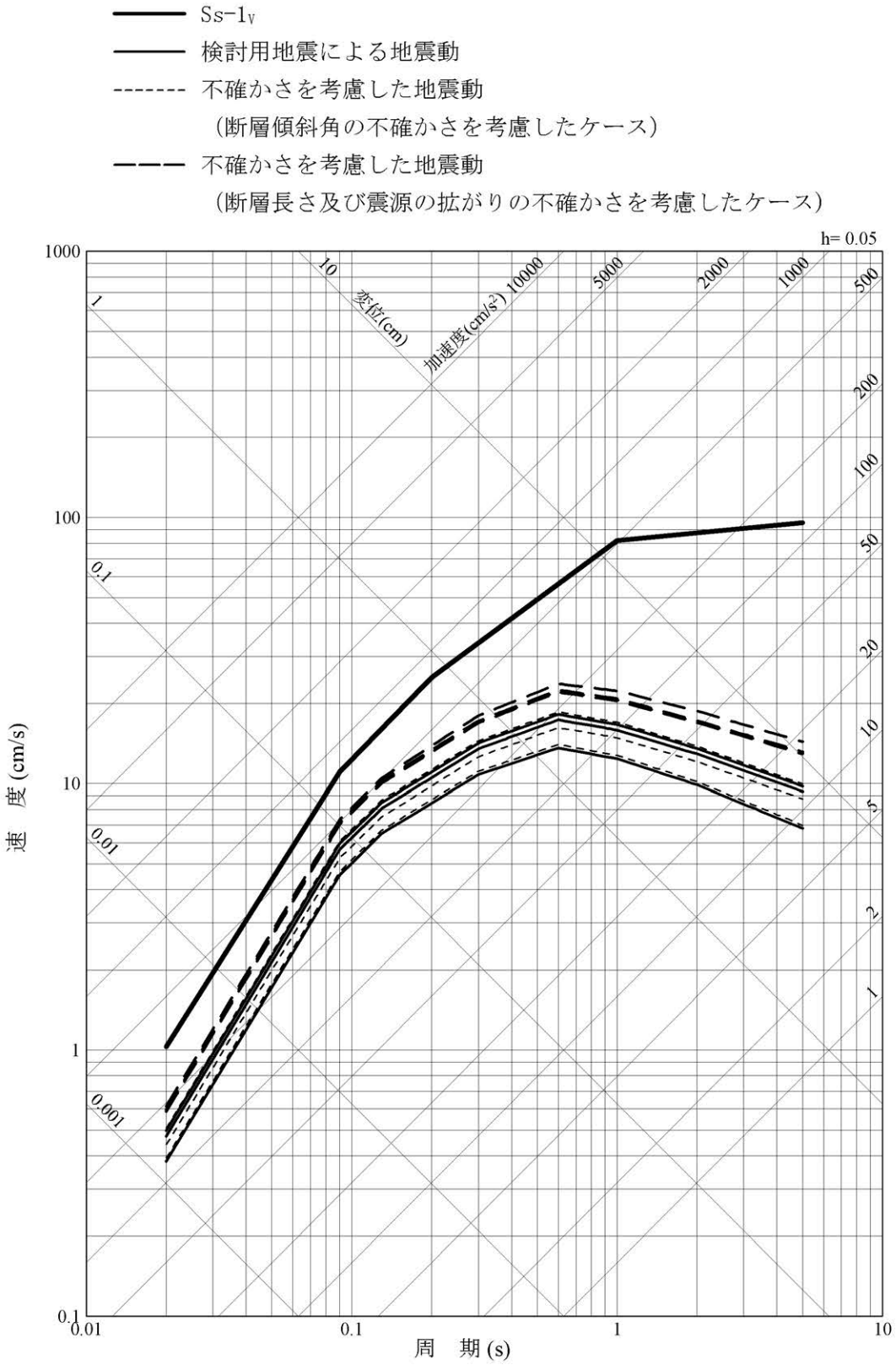
第 5.2.6.50 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトル（水平方向）



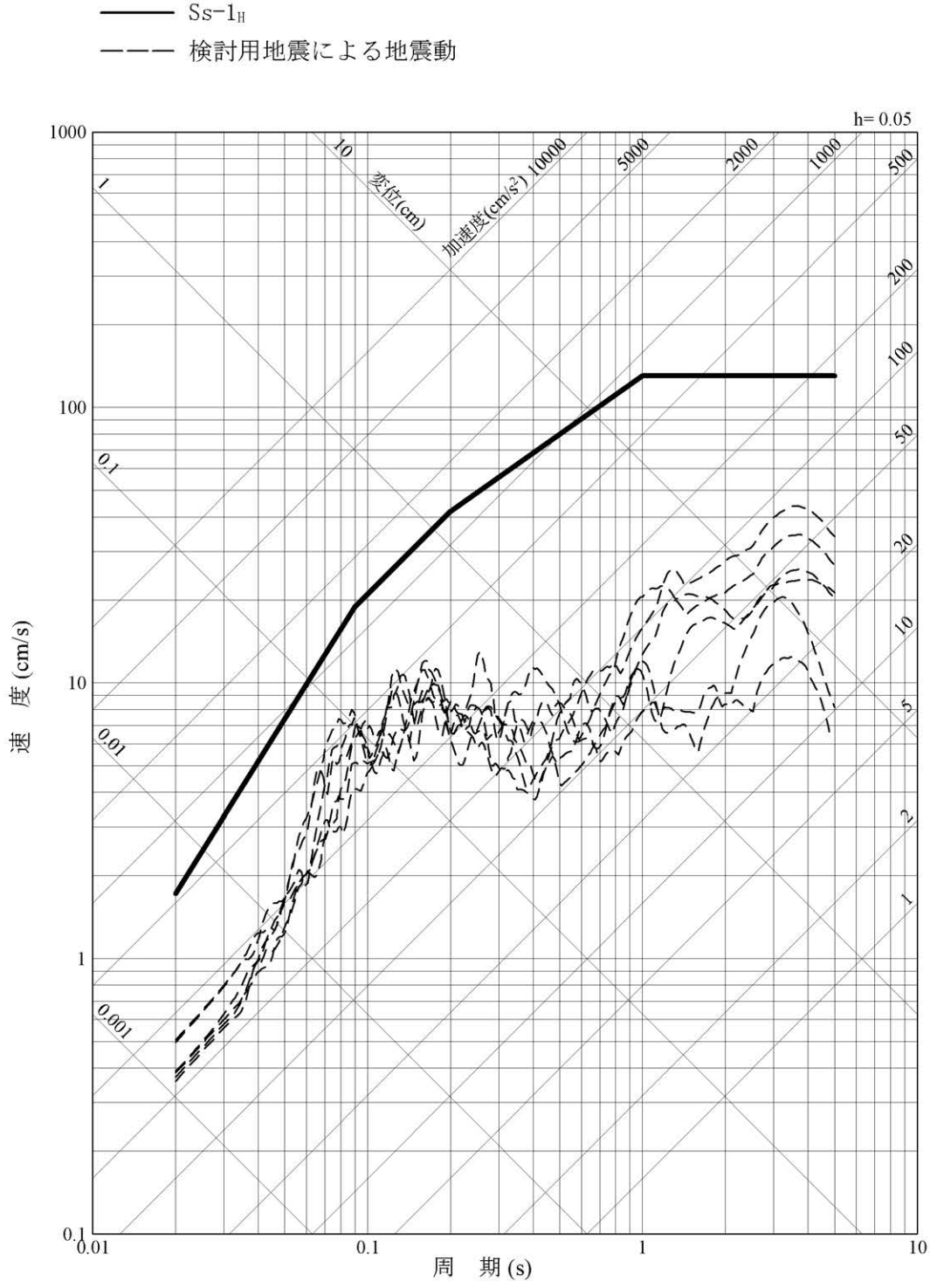
第 5.2.6.51 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトル（鉛直方向）



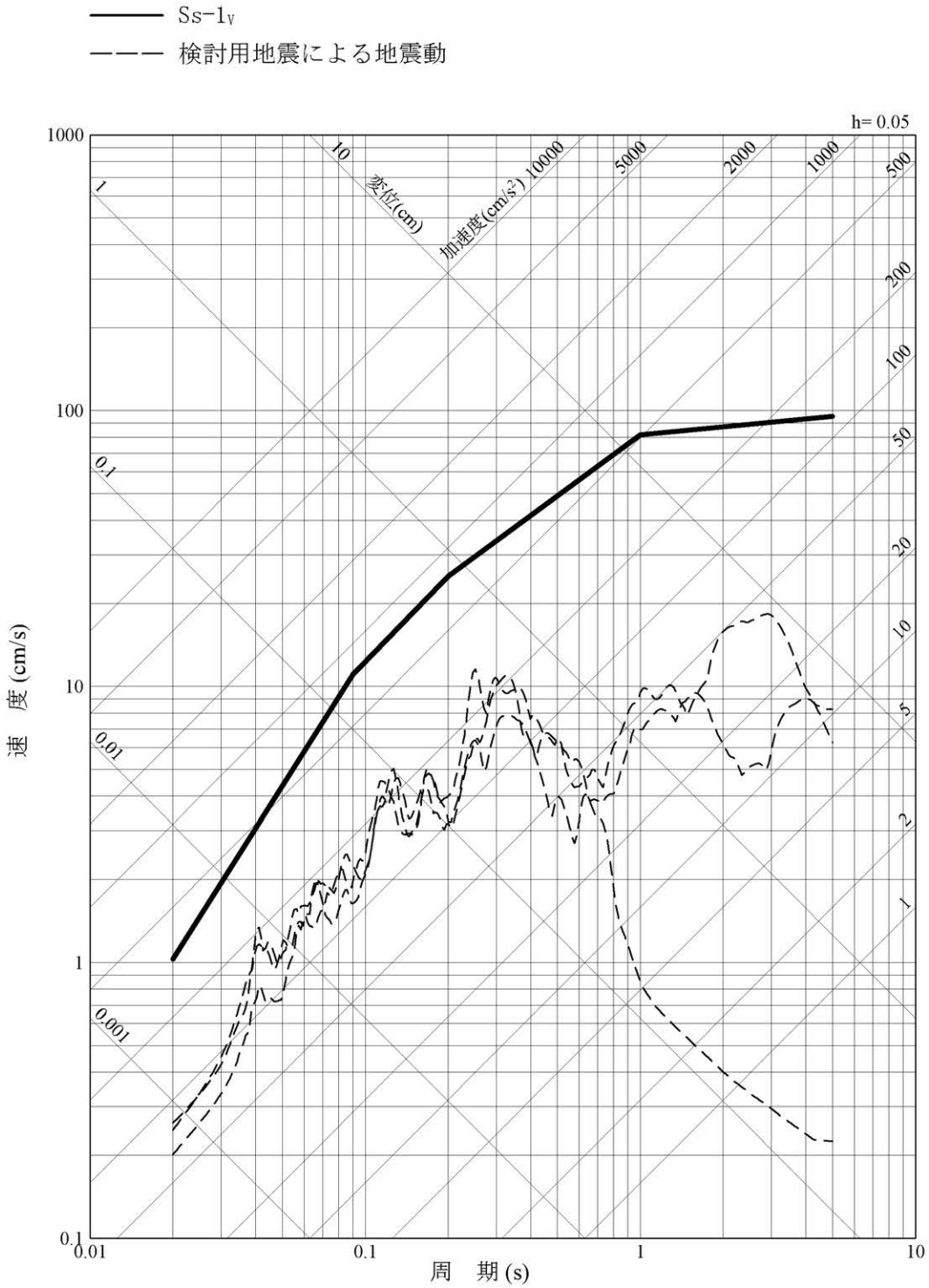
第 5.2.6.52 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトル及び検討用地震の応答スペクトル（応答スペクトルに基づく方法：水平方向）



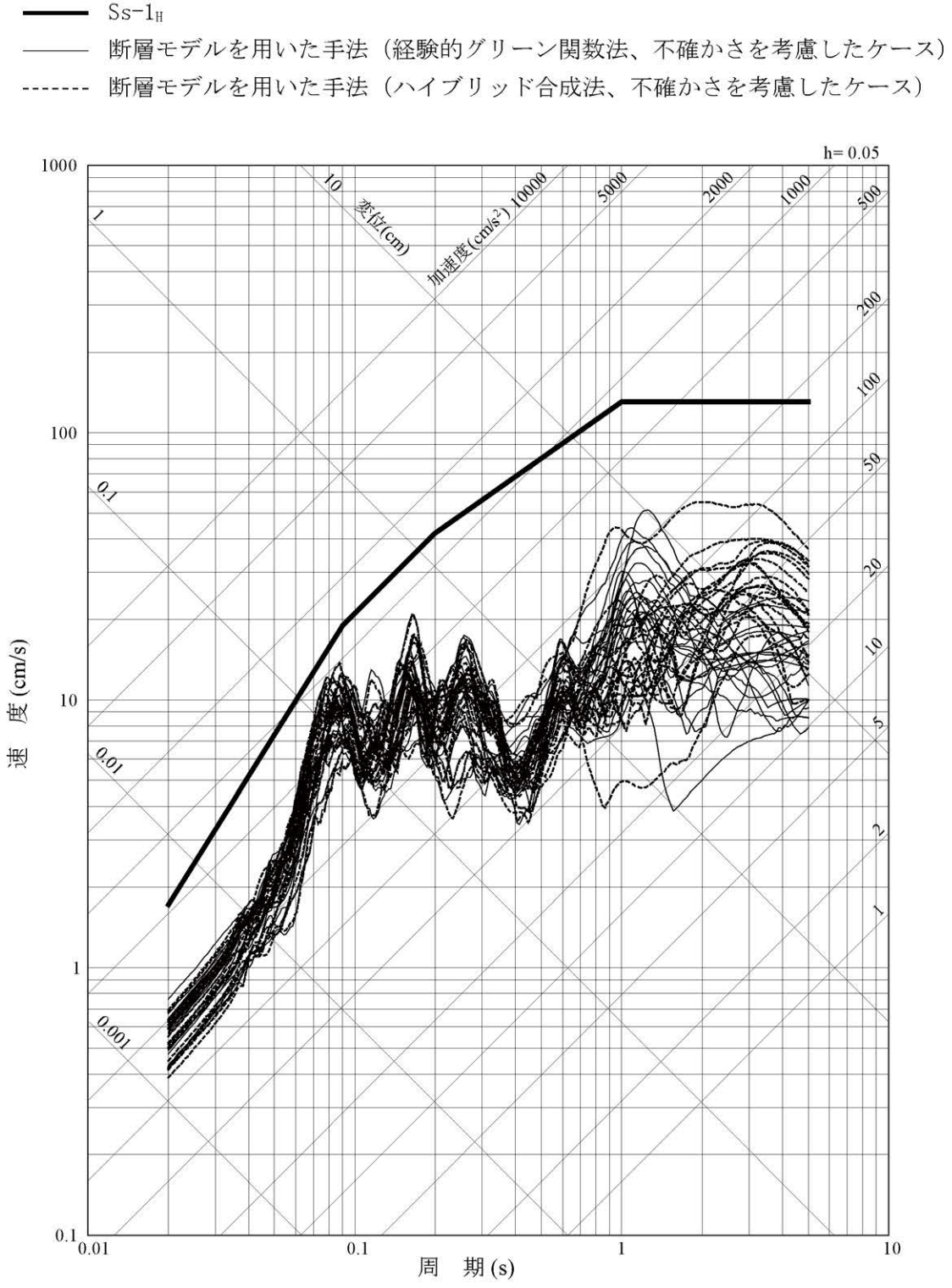
第 5.2.6.53 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトル及び検討用地震の応答スペクトル（応答スペクトルに基づく方法：鉛直方向）



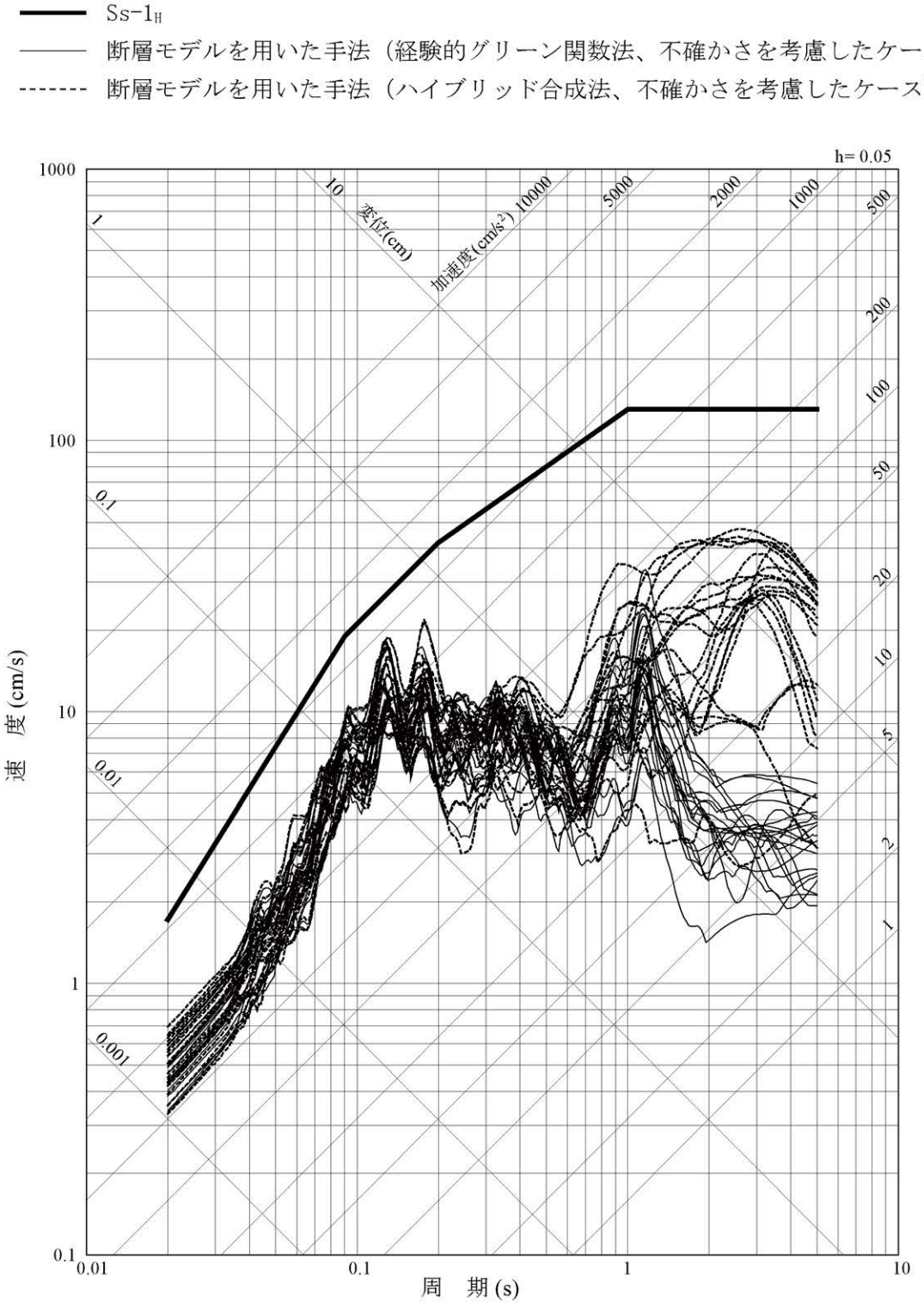
第 5.2.6.54 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトルと検討用地震の地震動評価結果（断層モデルを用いた手法：水平方向）



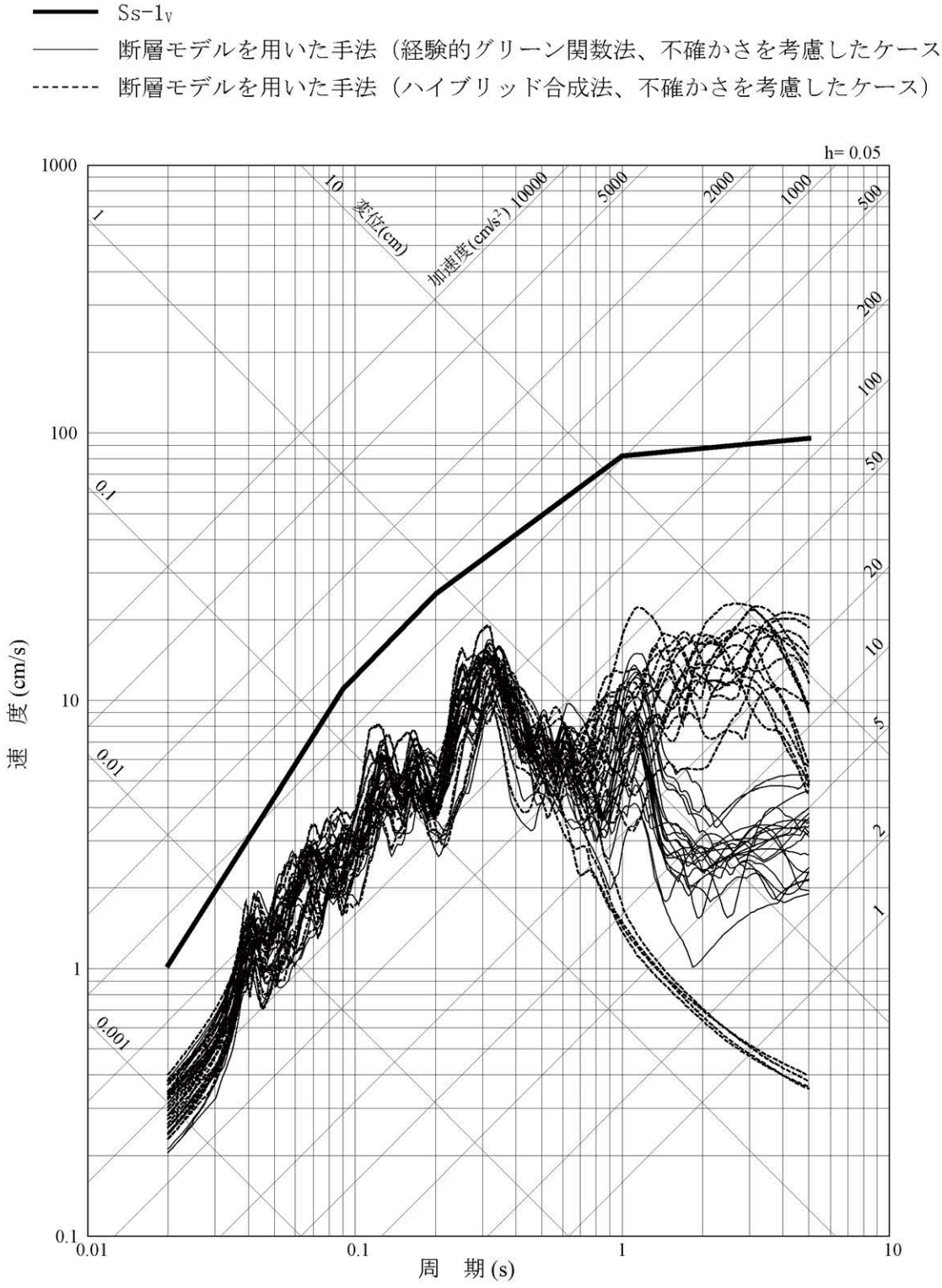
第 5.2.6.55 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトルと検討用地震の地震動評価結果（断層モデルを用いた手法：鉛直方向）



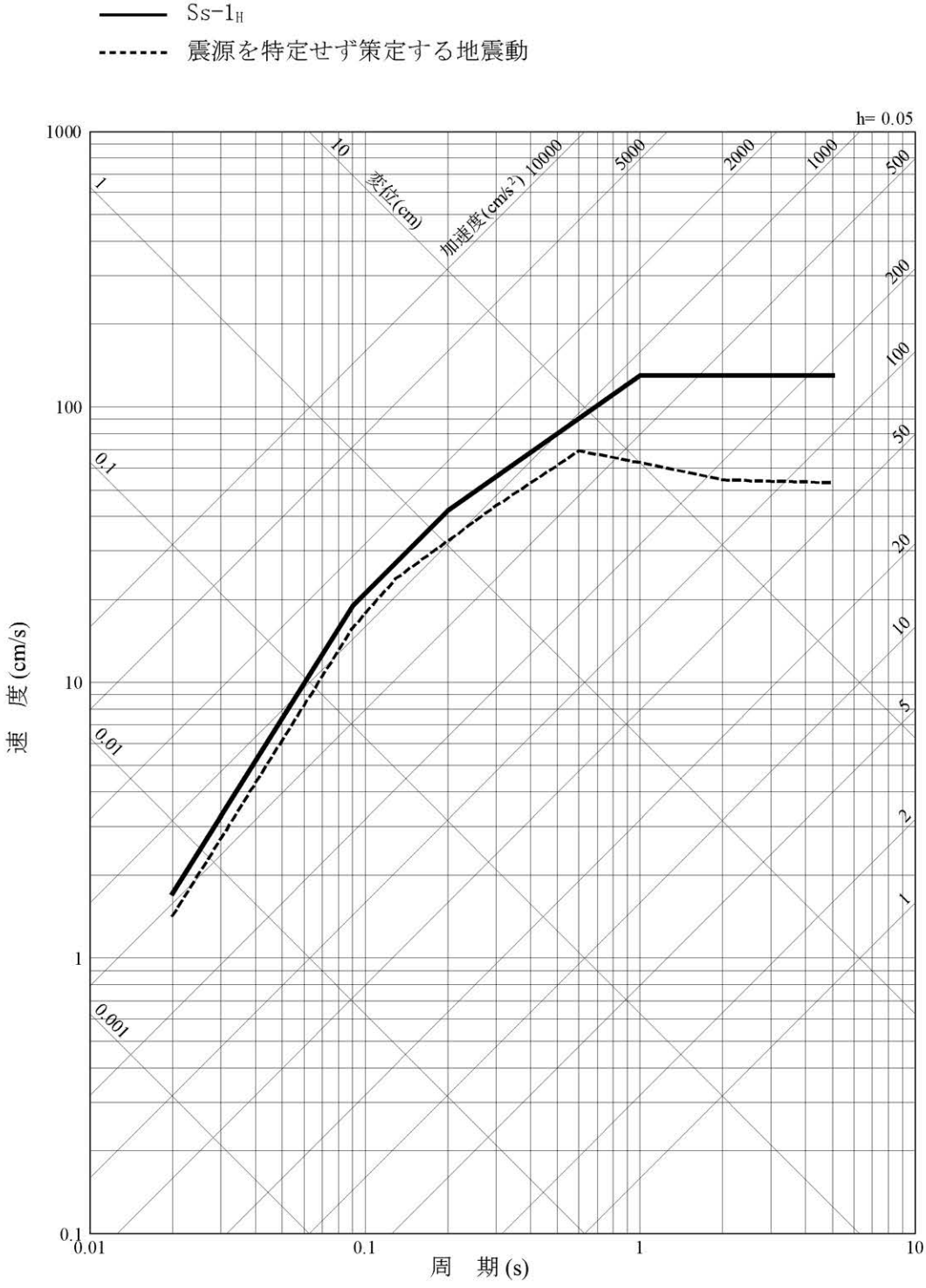
第 5.2.6.56 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトルと不確かさを考慮した検討用地震の地震動評価結果（断層モデルを用いた手法（経験的グリーン関数法及びハイブリッド合成法）、水平方向：NS）



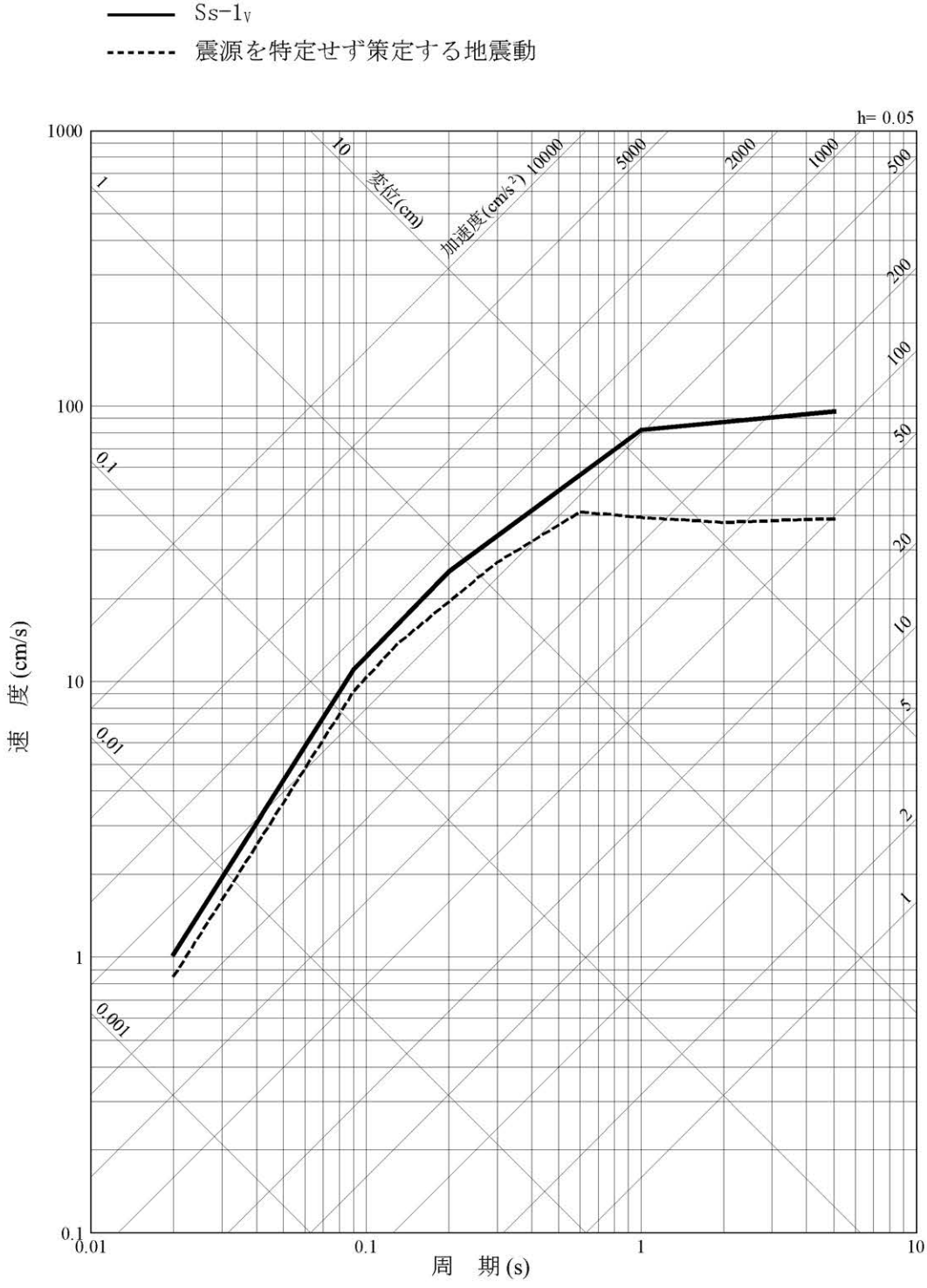
第 5.2.6.57 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトルと不確かさを考慮した検討用地震の地震動評価結果（断層モデルを用いた手法（経験的グリーン関数法及びハイブリッド合成法）、水平方向：EW）



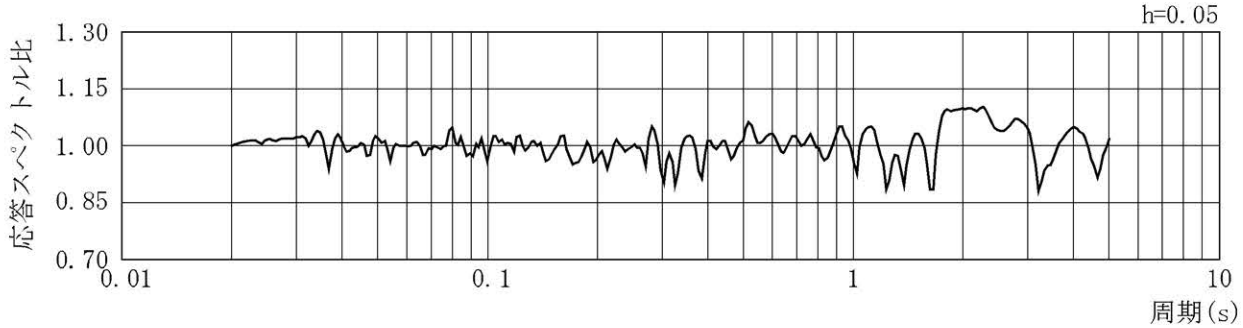
第 5.2.6.58 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトルと不確かさを考慮した検討用地震の地震動評価結果（断層モデルを用いた手法（経験的グリーン関数法及びハイブリッド合成法）、鉛直方向）



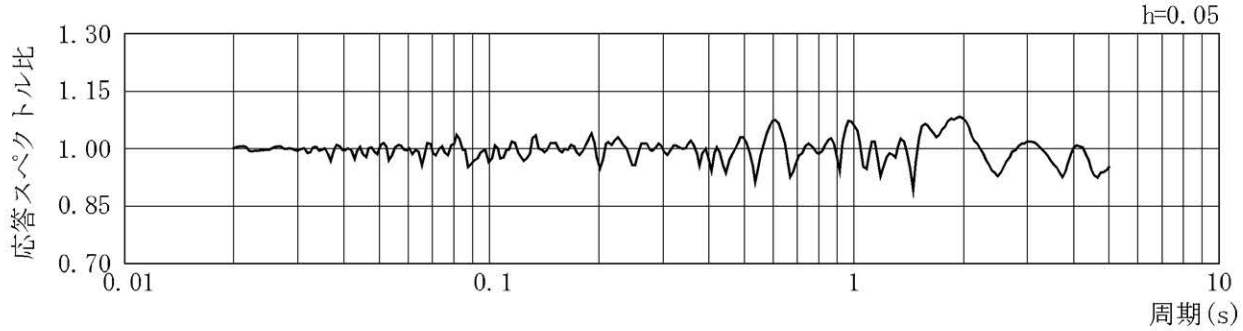
第 5.2.6.59 図　「震源を特定せず策定する地震動」による応答スペクトルと
基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトル（水平方向）



第 5.2.6.60 図　「震源を特定せず策定する地震動」による応答スペクトルと
基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトル（鉛直方向）

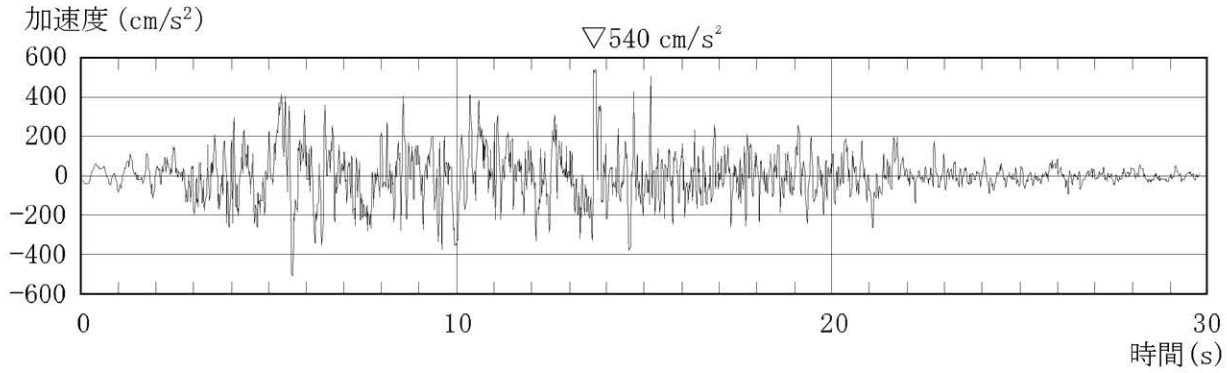


水平方向

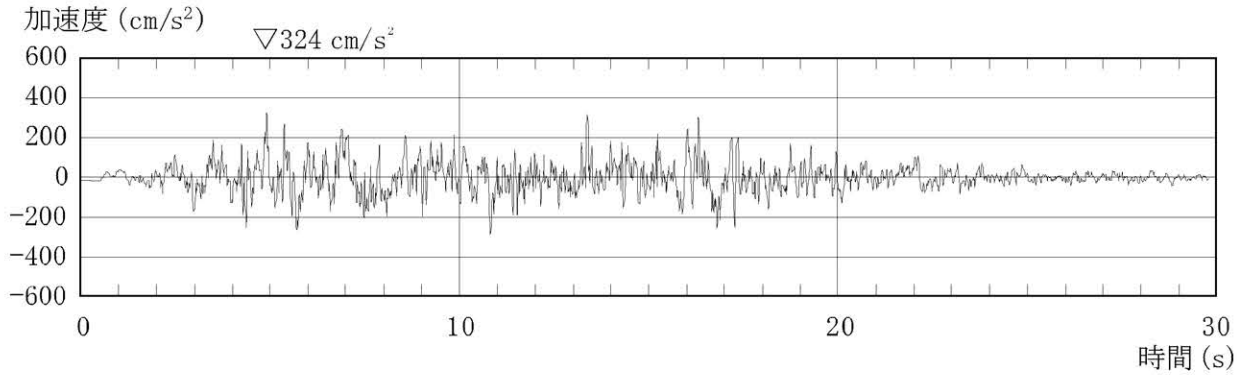


鉛直方向

第 5.2.6.61 図　基準地震動 Ss-1 の設計用応答スペクトルに対する
設計用模擬地震波の応答スペクトル比

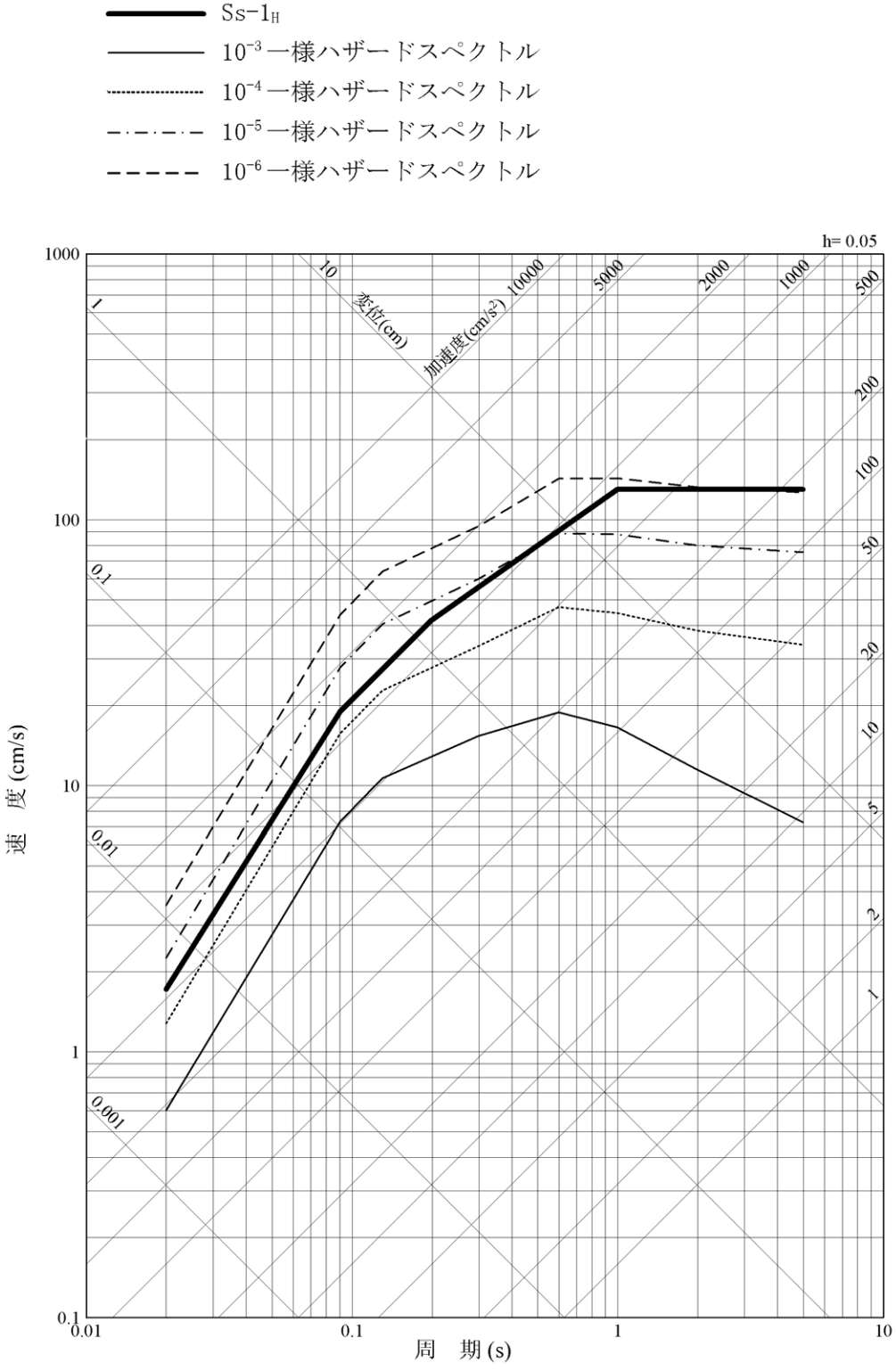


加速度（水平方向：$Ss\text{-}1_H$）

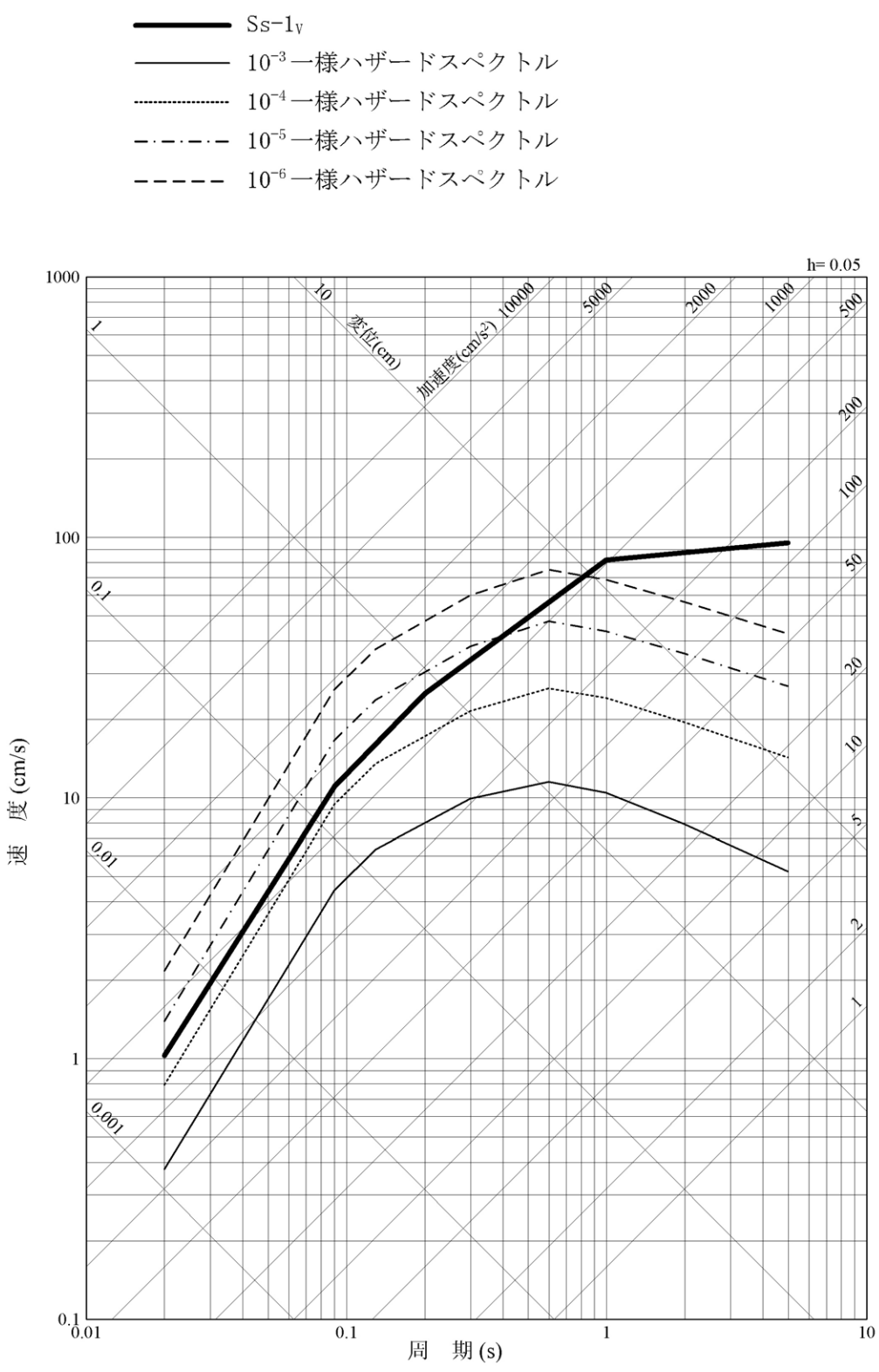


加速度（鉛直方向：$Ss\text{-}1_V$）

第 5.2.6.62 図　基準地震動 Ss-1 の設計用模擬地震波の時刻歴波形



第 5.2.6.63 図　基準地震動 Ss の応答スペクトル及び敷地における地震動の一様ハザードスペクトル（水平方向）



第 5.2.6.64 図　基準地震動 Ss の応答スペクトル及び敷地における地震動の一様ハザードスペクトル（鉛直方向）

６．社会環境

6.1　人口分布

川内原子力発電所２号炉心を中心とする昭和60年10月現在における半径100㎞以内の人口分布を第6.1.1表に、また、半径30㎞以内の方位別人口分布を第6.1.1図に示す。

半径30㎞以内の人口は約235,000人、10㎞以内は約26,000人、５㎞以内は約3,400人であって、人口密度は比較的小さい。

２号炉心から50㎞以内にある市町村位置図を第6.1.2図に、人口１万人以上の市町名と、その人口及び市街地の中心部に至る直線距離を第6.1.2表に示す。

6.2　付近の集落及び公共施設

発電所近傍の集落としては、２号炉心から北東方向約1.1㎞に小田(人口約100人)、約1.2㎞に砂岳(人口約210人)、約1.4㎞に加治屋(人口約80人)、約1.5㎞に本馬場(人口約90人)、約1.6㎞に久保(人口約110人)、南方向約1.6㎞に十原(人口約130人)の一部がある。半径２㎞以内の集落位置を第6.2.1図に示す。また半径３㎞以内に15集落、半径５㎞以内に計36集落があり、各集落中心までの距離及び人口を第6.2.1表に示す。

学校、病院等の公共施設としては、２号炉心から半径10㎞以内に小学校11、中学校４、幼稚園（含、保育所）14、病院９、診療所５がある。学校、幼稚園(含、保育所)名及び生徒、園児数を第6.2.2表に、病院、診療所名及びベッド数を第6.2.3表に示す。

なお、２号炉心から半径10㎞以内の主要市町、学校及び病院位置を第6.2.2図に示す。

6.3　産業活動

川内市は、従来からこの地域の中心都市としての役割を果たしてきており、川内港を中心とする臨海工業団地及び内陸工業団地への企業誘致により、今後は第２次、第３次産業の発展による就業の機会が増大し、周辺市町村との関連は一層強まるものと予想されている。(2)

川内市における主要工場としては、中越パルプ㈱川内工場（敷地東方約9.8km)、京都セラミック㈱鹿児島工場(敷地東方約9.5km)及び当社川内発電所(敷地北方約2.5km)がある。川内市の昭和50年国勢調査による産業別就業状況をみると、第１次産業30％、第２次産業24％、第３次産業46％となっており、昭和45年からの推移をみると、第１次産業は10％減少し、第２次産業、第３次産業はそれぞれ５％増加している。川内市の産業別就業者数を第6.3.1表に示す。

農家の状況をみると、昭和50年の農家総数は、7,417戸でこのうち20％が専業農家である。昭和45年に比べると農家総数は、約1,130戸減少しているが、兼業農家の割合は増加している。

主要農産物としては、米、麦、いも類、なたね、果実等がある。

２号炉心から半径７km以内には乳牛は飼育されておらず、牧草地もない。

海産物としては、かたくちいわし、たい類、あじ、かれい類、いか、たこ、えび、かに類等がある。

昭和50年における主要農作物の作付面積及び収穫量を第6.3.2表に、家畜、家きん飼養頭羽数及び飼養戸数を第6.3.3表に、海産物の魚種別漁獲量を第6.3.4表に示す。

発電所周辺の昭和49年の葉菜及び昭和51年の乳牛用牧草の作付範

囲を第6.3.1図に示す。

6.4　交通運輸

発電所に近い鉄道路線としては、国鉄鹿児島本線（門司港～西鹿児島）及び国鉄宮之城線（川内～薩摩大口）があり、２号炉心から鉄道路線までの最短距離は、北東方向約4.4km（鹿児島本線の草道駅付近）である。

主要な道路としては、国道３号線（門司～鹿児島）及び国道267号線（川内～大口～人吉）があり、川内市街地から発電所までの道路は川内川沿いに県道川内－串木野線がある。この県道のうち、川内～久見崎の狭小区間は一部拡巾され、発電所構内予定地の区間は、昭和48年3月に付替工事がなされた。２号炉心から国道３号線までの最短距離は、北東方向約4.6kmである。また、発電所敷地内にある県道川内－串木野線の２号炉心からの最短距離は、東方向約610ｍである。

発電所最寄りの港湾は、北方向約2.3km（川内川対岸河口）に10,000ｔ級岸壁を有する川内港があり、30,000ｔ級岸壁への整備、拡充が進められている。また、敷地内海岸には3,000ｔ級岸壁を設け、重量物の運搬に利用する計画である。

鉄道、主要道路及び海上航路を第6.4.1図に示す。

航空関係については、川内市付近に飛行場はなく、最寄りの飛行場としては、東方向約50kmに鹿児島空港がある。鹿児島－大村間及び鹿児島－福岡間の定期航空路は、敷地からそれぞれ約22.5km及び約32km離れている。また、鹿児島空港への進入・出発コースのうち、桜島の噴煙、風向等を考慮して、その都度選択されるコースで発電

所上空を通るものがあるが、「原子力関係施設上空の飛行規制について」（昭和44年7月5日）により、航空機は原則として上空の飛行を規制される。

発電所上空一帯の航空路を第6.4.2図(1)、(2)に示す。

6.5 開発計画

「川薩広域市町村圏計画[1]」（昭和51年３月、鹿児島県川薩広域市町村圏協議会）によると、当圏域は、川内川流域にあって、古くから社会的、経済的に深い相互関係を保ちながら、日常生活圏を形成して発展し、交通等の発達により圏域内の社会的、経済的交流はますますその度を深めているが、反面、近年人口流出による過疎現象を呈している。

したがって、圏域の発展をはかるため、川内川の河口に建設されつつある川内港を中心とした臨海工業地帯を圏域経済発展の拠点として、農地、山林等の高度利用による近代的農林業の推進と、交通通信網の整備による辺地性の解消によって、適地企業の誘致、観光開発、生活環境の整備と、福祉水準の向上を基本方向としている。

「川薩広域市町村圏計画」に基づいて、策定された「川内市総合開発計画[2]」（昭和52年、川内市）によると、道路の改良舗装、港湾の整備、水資源の開発等、基礎的条件整備のほか、産業の振興、住民福祉の向上、教育文化の振興等の計画がたてられている。

本節の記述については、更に追補２「６．社会環境」の追補がある。

第6.1.1表　発電所から半径100km以内の人口分布

［注１］ 発電所からの 距離（km）	［注２］ 人　口　（人）	人口密度（人／km^2）
0 ～　5	約　3,390	約　88
0 ～　10	〃　26,330	〃　185
0 ～　30	〃　235,470	〃　195
0 ～　50	〃　1,110,800	〃　329
0 ～ 100	〃　2,555,220	〃　205

［注１］　２号炉心からの距離

［注２］　昭和60年10月現在人口

（資料：国勢調査報告(3)に基づき、人家分布の面積比例により作成）

第6.1.2表　発電所から半径50km以内の人口1万人以上の市町

（昭和60年10月現在）

市　町　名	世帯数（戸）	人　口（人）	発電所からの距離［注］(km)
鹿児島県川内市	25,075	71,444	約 12
〃　串木野市	9,730	30,268	〃 15
〃　阿久根市	10,031	29,185	〃 20
〃　薩摩郡宮之城町	6,467	19,457	〃 24
〃　日置郡東市来町	5,083	14,783	〃 24
〃　出水郡高尾野町	4,122	12,999	〃 26
〃　出水市	13,205	40,084	〃 30
〃　日置郡伊集院町	6,383	20,032	〃 30
〃　日置郡吹上町	4,326	11,403	〃 40
〃　姶良郡姶良町	11,850	35,278	〃 41
熊本県牛深市	7,437	23,065	〃 43
鹿児島県鹿児島市	190,217	530,502	〃 44
熊本県水俣市	12,043	36,520	〃 45
鹿児島県大口市	9,651	26,646	〃 45
〃　姶良郡加治木町	7,873	23,264	〃 45
〃　伊佐郡菱刈町	4,014	10,837	〃 46
〃　加世田市	8,954	25,748	〃 48

［注］2号炉心から市街地中心までの距離

（資料：国勢調査報告(3)）

第6.2.1表　発電所から半径５km以内の集落の距離及び人口

昭和60年10月現在

	集落名		［注］発電所からの距離 (km)	人口（人）
半径3km以内	久見崎町	小田	約 1.1	99
	〃	砂岳	〃 1.2	214
	〃	加治屋	〃 1.4	76
	〃	本馬場	〃 1.5	90
	〃	久保	〃 1.6	108
	港町	京泊	〃 2.2	144
	〃	船間島	〃 2.3	72
	寄田町	上野	〃 2.2	69
	〃	十原	〃 2.5	134
	〃	前向	〃 2.6	80
	〃	天神	〃 3.0	49
	港町	砂岳	〃 2.7	53
	寄田町	山ノ口	〃 2.8	58
	港町	岩下	〃 3.0	130
	〃	星原	〃 3.0	180
半径3km～5km以内	久見崎町	倉浦	約 3.1	34
	湯島町	湯之浦下	〃 3.1	116
	寄田町	新田	〃 3.2	70
	湯島町	湯之浦中	〃 3.4	85
	〃	湯之浦上	〃 3.7	65
	港町	江ノ口	〃 3.7	95
	〃	唐浜	〃 3.9	44
	水引町	月屋	〃 3.9	64
	湯島町	大迫	〃 4.2	80
	〃	十文字	〃 4.2	136
	水引町	湯原	〃 4.3	92
	寄田町	池之段	〃 4.1	113
	湯島町	上代	〃 4.5	175
	水引町	浜田	〃 4.7	41
	〃	東浜田	〃 4.7	140
	網津町	原田口	〃 4.7	150
	〃	井ノ上	〃 4.8	81
	〃	東手	〃 4.8	92
	高江町	長崎	〃 5.0	161
	〃	瀬戸地	〃 5.0	126
	水引町	草道下	〃 5.0	225

［注］２号炉心から集落中心までの距離　　（資料：川内市役所）

第6.2.2表　発電所から半径10km以内の学校、幼稚園名及び生徒、園児数

学校名	生徒､園児数（人）	発電所からの距離［注］（km）	所在地	備考
滄浪小学校	41	約 1.3	川内市　久見崎町	昭和62年５月現在
寄田小学校	17	〃 2.8	〃　寄田町	〃
水引小学校	291	〃 5.4	〃　水引町	〃
峰山小学校	139	〃 6.0	〃　高江町	〃
土川小学校	18	〃 6.3	串木野市　羽島	〃
羽島小学校	165	〃 8.6	〃　羽島	〃
陽成小学校	69	〃 8.7	川内市　陽成町	〃
湯田小学校	46	〃 9.1	〃　湯田町	〃
高来小学校	130	〃 9.5	〃　高城町	〃
西方小学校	42	〃 9.5	〃　西方町	〃
亀山小学校	669	〃 9.6	〃　宮内町	〃
水引中学校	147	〃 4.9	〃　水引町	〃
高江中学校	111	〃 5.7	〃　高江町	〃
羽島中学校	182	〃 8.5	串木野市　羽島	〃
高城西中学校	66	〃 9.0	川内市　湯田町	〃
寄田幼稚園	8	〃 2.8	〃　寄田町	〃
水引保育園	90	〃 5.3	〃　草道下	〃
清涼保育園	60	〃 6.1	〃　小倉町	〃
高江保育園	60	〃 6.2	〃　高江町	〃
しらさぎ幼稚園	36	〃 8.5	串木野市　羽島	〃
陽成幼稚園	13	〃 8.7	川内市　陽成町	〃
羽島保育園	60	〃 8.9	串木野市　羽島	〃
羽島幼児園	59	〃 8.9	〃　羽島	〃
湯田幼稚園	14	〃 9.1	川内市　湯田町	〃
西風園保育園	30	〃 9.5	〃　西方町	〃
亀山幼稚園	154	〃 9.6	〃　宮内町	〃
みくに幼稚園	89	〃 9.7	〃　御陵下町	〃
高城保育園	60	〃 9.7	〃　高城町	〃
川内市立保育所	120	〃 9.8	〃　御陵下町	〃

［注］２号炉心からの距離

資料：１．統計せんだい　昭和62年度版(4)
　　２．統計くしきの　昭和62年版(8)
　　３．川内市の保育園については川内市役所情報管理課調べ、串木野市の幼稚園、保育園については、串木野市役所総務課調べ

第6.2.3表　発電所から半径10km以内の病院及び一般診療所名

（昭和63年３月現在）

病院、診療所名	ベッド数	発電所からの距離[注1] (km)	所在地
久見崎巡回診療所[注2]	0	約　1.5	川内市久見崎町
薩摩病院	206	〃　4.6	〃　水引町
浜田医院	19	〃　4.8	〃　水引町
土川診療所[注2]	0	〃　6.3	串木野市羽島
陽成巡回診療所[注2]	0	〃　8.5	川内市陽成町
牧野医院	2	〃　8.8	串木野市羽島
湯田巡回診療所[注2]	0	〃　9.2	川内市湯田町
上村医院	19	〃　9.4	〃　御陵下町
瀬口内科医院	15	〃　9.4	〃　宮内町
田中医院	19	〃　9.5	〃　高城町
今村整形外科医院	19	〃　9.6	〃　御陵下町
川内市立養老院診療所[注2]	0	〃　9.8	〃　御陵下町
上小鶴病院	50	〃　10.0	〃　御陵下町
池袋医院	19	〃　10.0	〃　御陵下町

［注１］２号炉心からの距離

［注２］久見崎、陽成、湯田、川内市立養老院及び土川の各診療所は医師駐在せず、定期的に巡回する。

（資料：１．川内市役所情報管理課調べ
　　２．串木野市役所総務課調べ）

第6.3.1表　川内市の産業別就業者数

（単位：人）

区分		昭和45年国勢調査			昭和50年国勢調査		
		男	女	計	男	女	計
総数		15,891	14,553	30,444	16,078	12,912	28,990
第一次産業	農業	4,401	7,399	11,800	3,274	5,054	8,328
	林業・狩猟業	96	21	117	87	29	116
	漁業・水産養殖業	159	17	176	197	42	239
	計	4,656	7,437	12,093	3,558	5,125	8,683
第二次産業	鉱業	186	19	205	147	10	157
	建設業	1,558	340	1,898	2,167	480	2,647
	製造業	2,382	1,383	3,765	2,557	1,727	4,284
	計	4,126	1,742	5,868	4,871	2,217	7,088
第三次産業	卸・小売業	2,428	2,556	4,984	2,677	2,709	5,386
	金融･保険･不動産業	227	163	390	243	232	475
	運輸・通信業	1,177	176	1,353	1,363	216	1,579
	電気・ガス・水道・熱供給業	173	27	200	286	27	313
	サービス業	2,324	2,071	4,395	2,323	2,103	4,426
	公務	764	368	1,132	725	239	964
	分類不能の産業	16	13	29	32	44	76
	計	7,109	5,374	12,483	7,649	5,570	13,219

（資料：昭和50年(6)、昭和51年(7)鹿児島県統計年鑑）

第6.3.2表　主要農作物の作付面積及び収獲量

（昭和50年）

		鹿児島県	川内市
水稲	作付面積（ha）	47,600	2,540
	収獲量（t）	190,900	11,300
陸稲	作付面積（ha）	5,720	22
	収獲量（t）	12,900	51
小麦	作付面積（ha）	1,950	46
	収獲量（t）	3,220	75
裸麦	作付面積（ha）	763	90
	収獲量（t）	1,270	145
大麦	作付面積（ha）	4,280	48
	収獲量（t）	9,030	99
かんしょ	作付面積（ha）	21,800	534
	収獲量（t）	488,300	12,800
春植ばれいしょ	作付面積（ha）	1,869	35
	収獲量（t）	27,090	718
なたね	作付面積（ha）	1,800	59
	収獲量（t）	2,450	85

（資料：昭和51年鹿児島県統計年鑑(7)）

第6.3.3表　家畜・家きん飼養頭羽数及び飼養戸数

（昭和50年）

	乳用牛		肉用牛		馬		豚		めん羊		山羊		鶏			
	戸数(戸)	頭数(頭)	戸数(戸)	頭数(頭)	戸数(戸)	頭数(頭)	戸数(戸)	頭数(頭)	戸数(戸)	頭数(頭)	戸数(戸)	頭数(頭)	卵用種		肉用種	
													戸数(戸)	羽数(羽)	戸数(戸)	羽数(羽)
鹿児島県	1,875	18,764	61,108	203,603	1,699	2,966	11,909	412,990	17	98	2,131	6,162	20,583	8,047,844	1,830	11,712,444
川内市	95	943	1,303	3,619	6	7	151	2,824	－	－	6	7	1,115	40,330	107	438,988

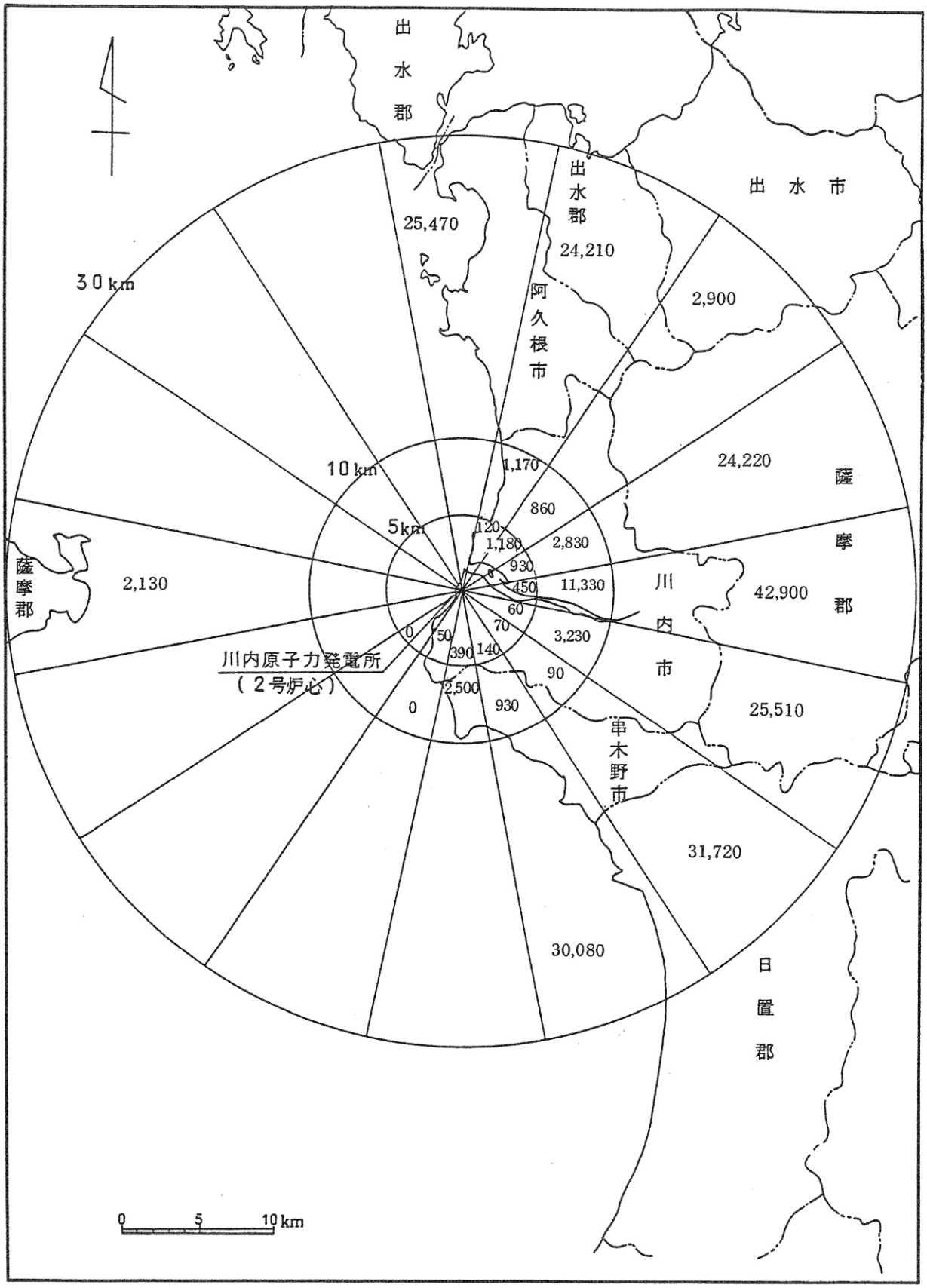
（資料：昭和51年鹿児島県統計年鑑(7)）

第6.3.4表　魚種別漁獲量

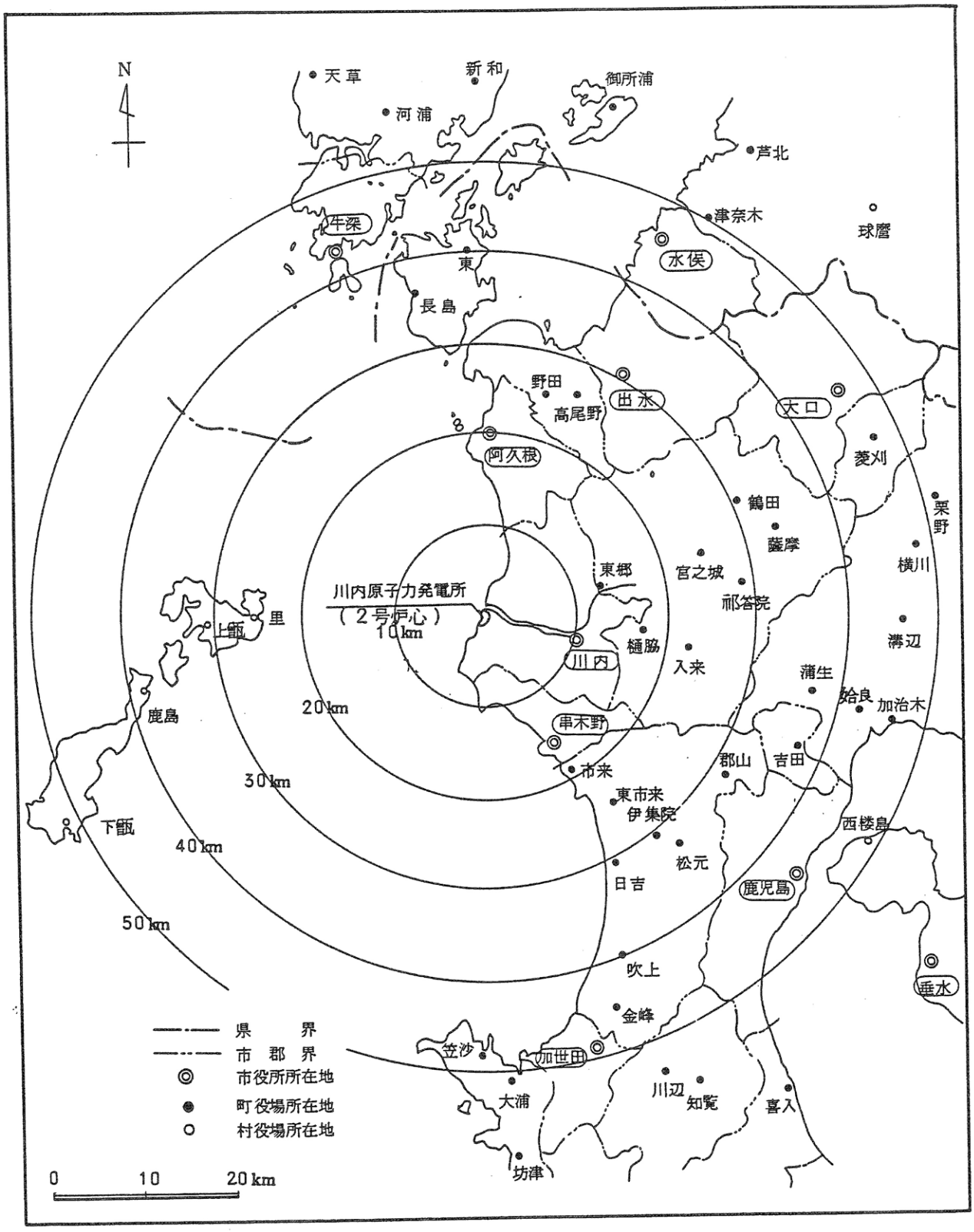
（単位：ｔ）

魚種＼年		鹿児島県			北薩海区			川内市漁協		
		48	49	50	48	49	50	48	49	50
魚類	まぐろ	124	417	414	3	3	4	－	－	－
	びんなが	1,373	1,418	1,350	－	－	－	－	－	－
	めばち	588	576	1,193	－	－	－	－	－	－
	きわだ	3,551	2,919	4,820	0	15	4	－	－	－
	めじ	2,081	1,363	1,389	5	13	7	－	－	－
	まかじき	143	108	88	1	2	－	－	－	－
	めかじき	231	221	228	－	－	－	－	－	－
	くろかわ類	312	194	303	－	－	－	－	－	－
	ばしょうかじき	184	128	130	3	－	0	－	－	1
	かつお	44,552	51,181	49,882	117	140	66	－	2	－
	そうだかつお	2,684	1,485	1,466	316	170	191	－	－	－
	さめ類	397	326	259	30	11	11	－	－	－
	まいわし	91	487	1,304	52	281	1,182	－	－	－
	うるめいわし	3,083	3,988	6,492	1,491	2,029	3,619	－	－	－
	かたくちいわし	9,988	9,678	8,775	5,620	4,332	5,069	1,413	948	1,454
	しらす	4,643	2,235	2,979	30	22	－	30	22	－
	まあじ	4,662	8,930	14,864	2,290	2,449	5,257	3	8	4
	むろあじ	9,016	7,815	9,259	1,321	1,351	1,520	－	－	－
	さば類	25,756	27,920	19,797	2,623	3,467	4,418	－	－	－
	ぶり類	1,175	1,253	7,275	248	353	954	－	－	－
	ひらめ	－	49	41	－	24	24	－	1	0
	かれい類	－	91	79	－	39	22	－	7	4
	まだい	433	395	423	282	210	276	17	32	13
	ちだい	278	339	276	52	91	49	－	－	10
	きだい	127	122	100	－	－	2	－	－	0
	くろだい	66	119	107	22	70	43	－	－	0
	とびうお	1,267	2,347	1,826	9	1	－	－	－	－
	その他	14,046	12,399	17,510	3,492	2,822	3,575	112	120	115
	計	130,851	138,503	152,629	18,007	17,895	26,293	1,575	1,140	1,601
水産動物	えび類	936	963	694	122	184	158	1	1	1
	かに類	－	201	84	－	17	13	－	－	1
	いか類	1,033	1,373	1,194	221	398	371	6	10	14
	たこ	102	312	172	31	125	85	1	1	2
	その他	584	495	536	415	412	346	－	－	－
	計	2,655	3,344	2,680	789	1,136	973	8	12	18
貝類		505	280	360	34	46	36	5	8	7
海草類		1,367	1,263	1,207	1,126	1,026	1,027	－	－	－
海産哺乳		200	－	－	－	－	－	－	－	－
合計		135,578	143,390	156,876	19,956	20,103	28,329	1,588	1,160	1,626

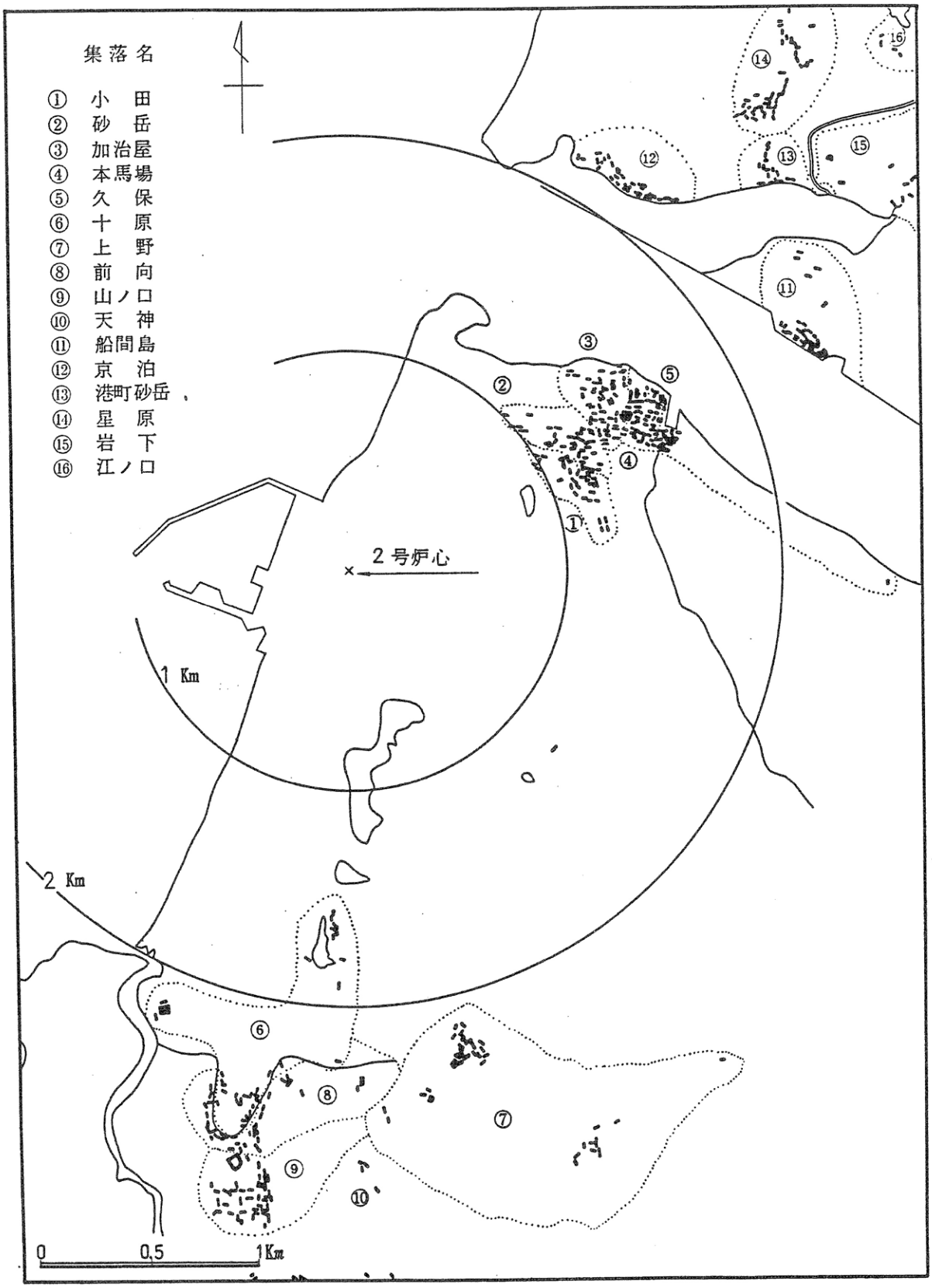
（資料：鹿児島県農林水産統計年報　昭和48～50年[8]）



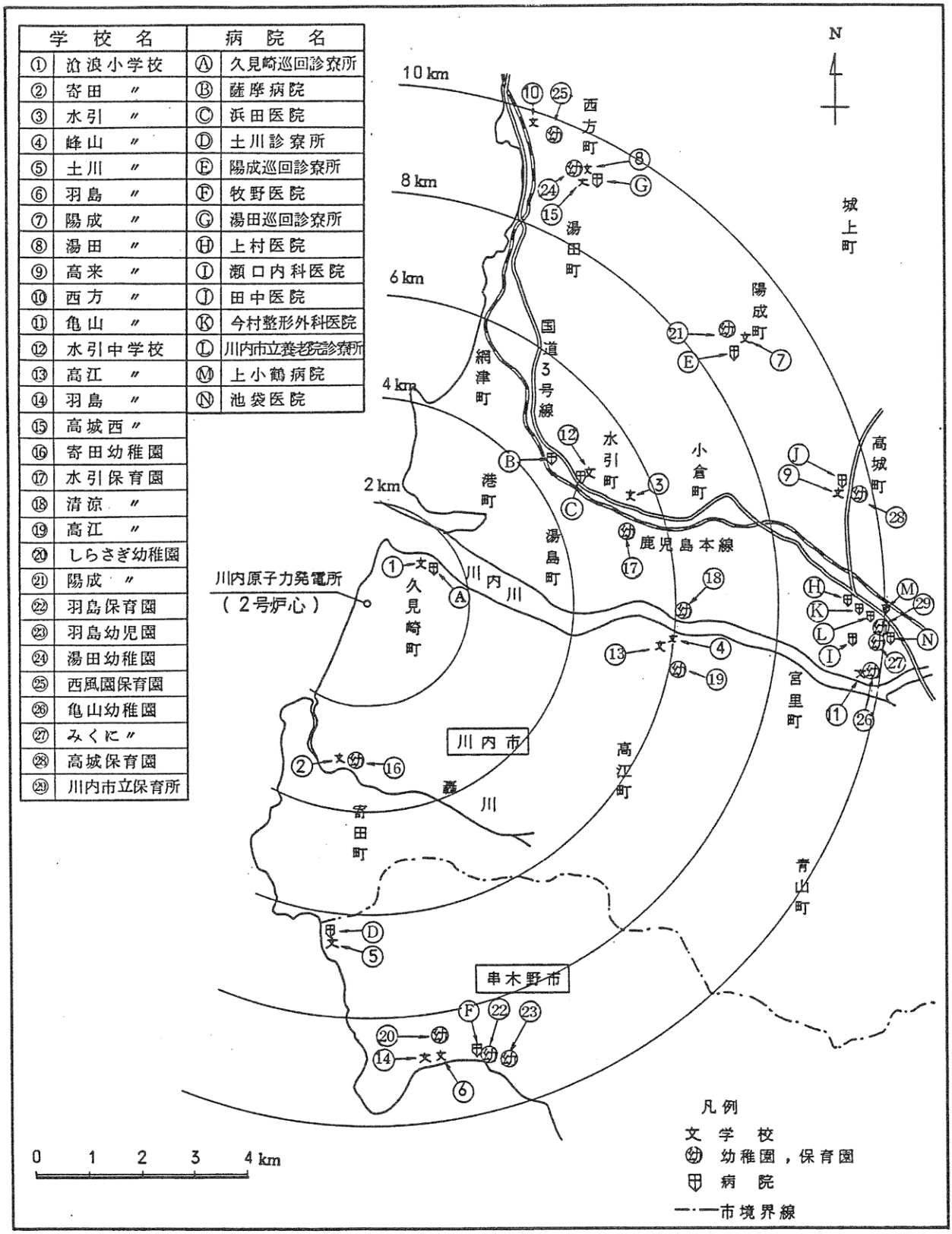
第6.1.1図　発電所から半径30km以内の方位別人口分布



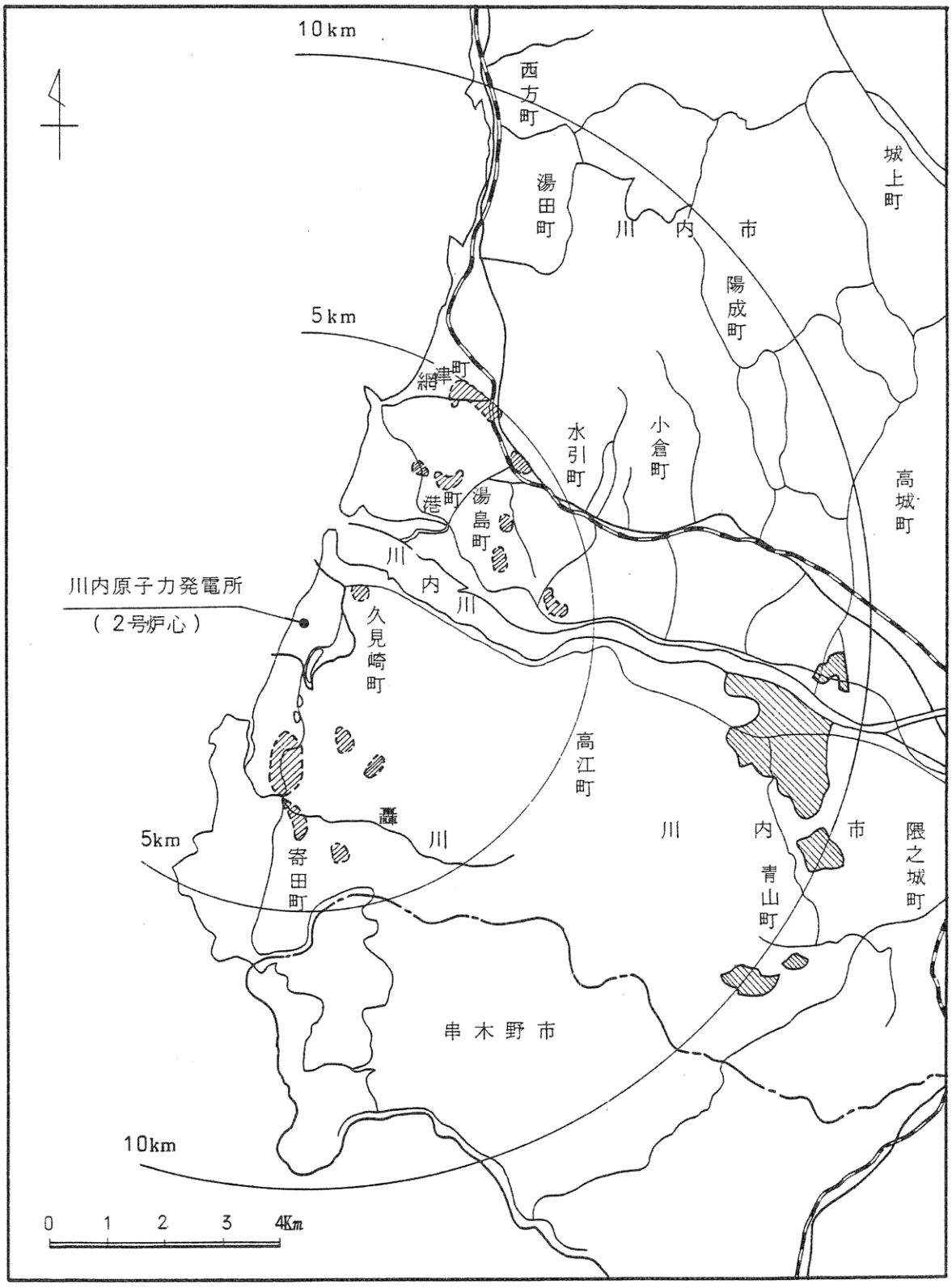
第6.1.2図　発電所周辺の市町村位置



第6.2.1図　発電所から半径２km以内の集落位置



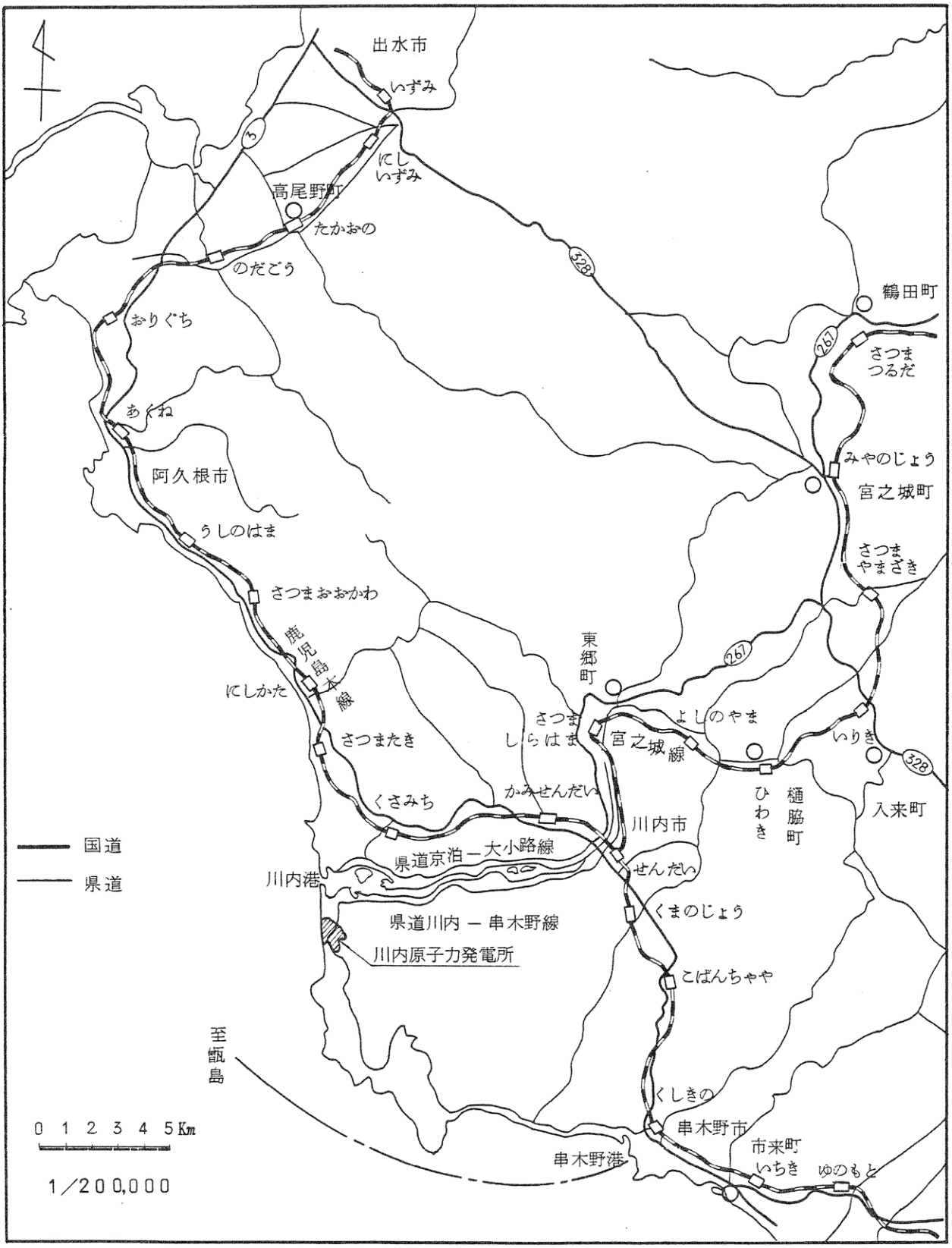
第6.2.2図　発電所から半径10km以内の主要市町、学校及び病院位置



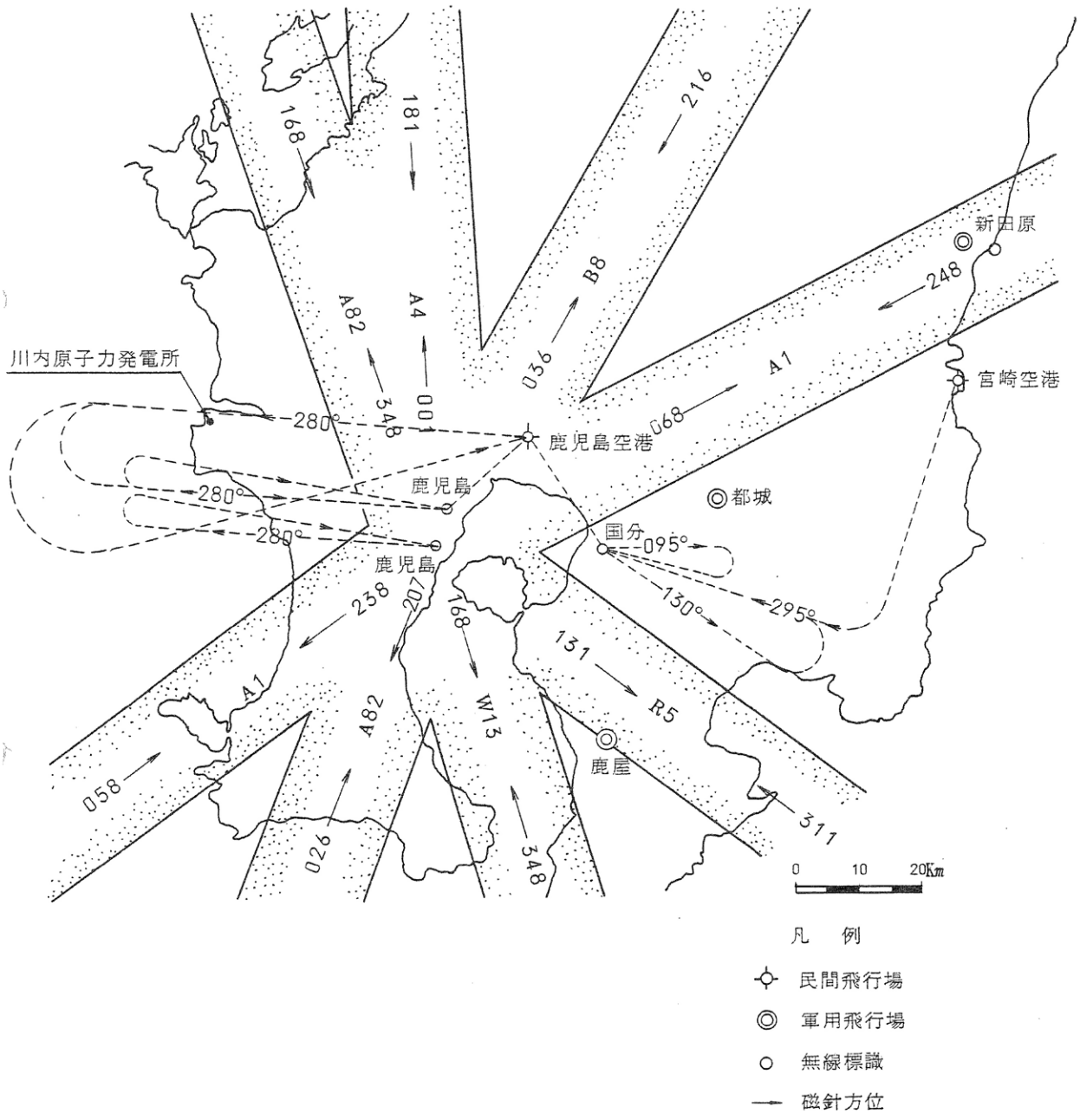
葉菜作付範囲（5 kmまで）

乳牛用牧草作付範囲（10 kmまで）

第6.3.1図　発電所周辺の葉菜及び乳牛用牧草作付範囲図



第6.4.1図　鉄道、主要道路及び海上航路



第6.4.2図(1)　発電所上空一帯の航空路